

(3) 濬筋ノ或部分ニ對スル特別ノ便否。

濬筋彎曲部分ト雖モ現今ニ於テハ同一ノ幅員ヲ有セシメントスルモノ、如ク思料候得共、右ハ船舶ノ通路トシテハ航行甚ダ宜シカラズ。就テハ其彎曲部分ニ對シテ特ニ其幅員ヲ増加セシムルノ必要アル儀ト存候。

(4) 砲臺外濬筋ノ彎曲ニ就テ差支ノ有無。

濬筋ノ彎曲ハ船舶ノ航向上支障少カラズ、右ハ出來得ル限り直線ニ改ムルノ必要アルモノト被存候。尤モ直線ニ爲シ得ザルモ、現在ノ彎曲ノ程度ヲ少カラシムルノ要有之儀ト思料候。

(5) 第二號埋立地ニ於ケル濬沿物揚場ニ接シテ上屋倉庫等設置ノ要否、竝ニ右濬沿物揚場ノ利用ニ就テ。

現下ノ状態ニ於テハ上屋倉庫等ハ之ヲ設置スルモ使用セラル、コト無之カルベシト雖モ、工事ノ改定陸上運輸ノ諸機關ノ建設進捗ニ伴ヒ、之ヲ必要トスル時機ニ到達スルナラン。蓋シ目下ノ現狀ニ在テハ該所ニ荷役爲ストキハ、却テ多大ノ陸上運搬費ヲ要シ、本船ハ勿論解舟ト雖モ該所ニ

貨物ノ陸揚ヲ爲サンコトヲ希望スル者ナケレバナリ。從テ當分設置ノ必要ナシ。

(6) 航路標識等ノ點。

晝夜共船舶ノ出入ニ差支ナカラシムル相當設備ヲ希望ス。

(7) 第一期工事竣工ノ爲メ、在來ノ橫濱荷役ニ比シ得タル實際上ノ便益ノ有無。

不幸ニシテ第一期既成工事ハ、當ニ本會加盟船ニ何等ノ便益ヲ寄與セザルノミナラズ、依然橫濱又ハ砲臺外ニ於テ解送ノ方法ニ依レリ。

第二期工事計畫ニ就テ

(1) 砲臺外濬筋既成浚深幅員五十間ハ航向上不便ナリヤ、及其擴張ノ適度。

前記第一期工事(一)ニ就テ述ベタル如ク、五十間ハ狹少ニシテ本會加盟船ニ對シテハ航路上甚ダ不便ナリ。故ニ此際第二期工事ニ於テ是非擴張ヲ要ス。而シテ其幅員ハ少クトモ八十間乃至百間タルコトヲ要シ、且其水深ハ大潮干潮時ニ於テ必ズ二十呎以上タルコトヲ要スルモノト思料ス。

(2) 砲臺外ノ濬筋ヲ直線ニ改ムルコトヲ要スルヤ、及其適度ノ幅員。

落筋ハ出來得ル限リ直線ニ改ムルヲ可トス。其幅員ハ必ズ八十間以上百間アルコトヲ要シ、其彎曲部分ニ對シ、特ニ一層廣カラシムルコトヲ要スルモノト思料ス。

(3) 荷役上新ニ船溜ヲ設置スルコトヲ要スルヤ、其位置廣袤水深等ニ就テ。船溜ハ之レアルニ若カズ。然レドモ當該船溜ヲ如何ナル種類ノ船舶ニ利用セシムルヤ否ヤニ依リ、其位置廣袤水深等ヲ決定スルノ要アリ。加之ナラズ之ニ依リテ築港計畫ノ豫定工事ニ入ルノ基礎トスルヤ否ヤニ依リテ、又大ニ其趣ヲ異ニセザルヲ得ズ。若シ夫レ解舟程度ノ利用ヲ目的トスルナラバ、特ニ船溜ノ必要ナルベク、寧ロ大川筋ハ勿論各支流及派川ヲ浚渫シ、以テ到ル處ノ河岸ニ於テ便宜荷役ヲ爲スヲ得セシムルニ若カザルベシ。若シ又沿岸航帆船及同汽船若クハ航洋帆船ノ碇泊錨地トシテハ現在ノ状態ヲ整理スルノ目的ヲ以テ、第二期工事計畫ニ在ル相生橋附近ニ於ケル豫定船溜ノ位置廣袤水深ニテモ不可ナカラン乎ナレドモ、水深大潮干潮時九尺ナレバ水路ノ水深ヨリ少ナクシテ其可ナルヲ知ルニ苦シム所ナリ。若シ夫レ航洋汽船ノ錨地トシテハ、既定工事全部ノ計畫ニ對

シ之ヲ比照考究シテ將來ニ於ケル築港計畫上ノ可否ニ論及セザルベカラズト雖モ、斯ノ如キハ徒ニ冗長ニ失スルノ煩アレバ、唯其概綱ニ付記述スレバ、現在ノ隅田川ヲ利用シタル一大河港ヲ築成セントスルニ在リテ、永代橋ヲ以テ限界トシ之ヲ切斷シテ派川ニ分水シ、兩岸一帶ノ幅員ヲ擴張シ、以テ適當ナル繫船護岸ヲ施サバ、他ニ多言ヲ須ユルノ要ナシ。然レドモ是レ雷ニ土地收用及工費ニ莫大ナル金額ヲ要シ、是ヲ斷行スルハ頗ル難事ナルベシ。若シ夫レ然ラバ七番三番二番六番ノ各砲臺ト月島ノ南端トヲ連結埋築シテ、其落筋ニ沿ヒ一大船溜ヲ浚渫セシムルモノナレドモ、斯ノ如キハ頗ル其工費ヲシテ多額ニ上ラシメ、到底其希望ヲ遂グルコト能ハザルベシ。故ニ此際現在ノ埋立ヲ利用シ、比較的有效ニシテ且簡捷ナル可能方法ヲ求メバ、落筋ヲ全部八十間以上百間ニ擴張シ、其水深ヲ大潮干潮時ニ於テ二十尺以上ニ浚渫シ、其落筋ノ東側ニ方リ、月島第一號埋立地先ヨリ芝浦第一號埋立豫定地先ト對立セシムル地點マデヲ埋立テ、繫船岸ヲ築造スルト同時ニ、其内側ニ一大船溜ヲ設備シ、又其西側ニ在テハ第二號埋立地ノ北端(第一期既成地)ヨリ海軍大學ニ至ル水面ヲ埋立テ以

テ船渠式繫船岸壁ヲ築成セントスルモノニシテ、是レ比較的可能ノ計畫ニ屬シ、而カモ水陸運輸連絡ヲ得ルノ極メテ容易ニシテ、其船溜水深ヲ大潮干時二十六呎以上タラシメバ、砲臺外濬筋ノ幅員(八十間乃)水深(二十呎以上)ト相待テ、滿潮ヲ利用シテ五六千噸内外ノ汽船ヲ常ニ出入セシメ得ルニ至リ、以テ現在ノ面目ヲ一新セシムルモノ有之ベク、是ヲ以テ莫大ナル築港計畫ニ代ハラシムルコトヲ得ベシト思料スルモノナリ。斯ノ如キハ雷ニ本會加盟船ノ便益ナルノミナラズ普ク一般ノ航運業者ヲ裨益スルコト蓋シ尠少ナラザルベク、實ニ東京市繁榮策ノ一端トモ可相成儀ト被存候次第ニ御座候。以上。

明治四十四年拾壹月拾七日

東京市京橋區木挽町拾丁目七番地日本船主同盟會
理事總代 緒明圭造

東京市長尾崎行雄殿

〔附記〕 第四砲臺拂下照會

東京灣築港調査常設委員會ニ於テ左ノ議事有リ。

四十五年三月四日築港調査委員會(參事會控室)開會ノ旨、同月一日通知ス。

附記
第四砲臺
拂下照會

四十五年三月四日午後一時半開會。

出席者 第三部長田川大吉郎君。技師長日下部辨二郎君。河港課長直木倫太郎君。委員細野順君。委員鈴木英也君。委員袴田瀧三郎君。

議題

一、第四砲臺拂下ニ關シ東京府へ回答ノ件

一、東京築港新計畫ニ關スル件

田川部長ヨリ第四砲臺拂下ニ付東京府ヨリ照會アリシ趣ヲ述ベ、且ツ目下ノ状態ニアリテハ本回答ニ依リ市ノ權利ヲ留保スル方得策ナル旨ヲ説明セリ。

袴田委員 砲臺拂下ノ問題ハ寧ロ其枝葉ナルヲ以テ、却テ其根本タル築港問題ヲ先決スルニ於テハ、如此問題ハ自カラ決定スベシ、依テ先ヅ築港問題ヲ解決スル方可ナラン。

田川部長 築港問題ニ就テハ、引續キ考究ヲ重ネ居ル處ナルヲ以テ、這ハ特ニ此際諸君ノ考究ヲ煩シ、此三月四月ノ間ニ於テ何レニカ則チ實施スルヤ否ヤヲ決定シタキモ、而カモ築港ハ假令實施スルトモ尙ホ拾年以上

ノ歲月ヲ要スルヲ以テ、緒明造船所ハ其間ヲ利用シ得ベキ次第ナルヲ以テ、頻リニ決定ヲ急ギ居レリ。

土木課長 緒明ハ今船渠築造其他規模擴張ノ計畫中ノ由ニテ、本問題ノ決定ヲ見ザル間ハ、如何程ノ發展ヲ爲シ得ベキヤヲ定ムル能ハザル爲メ其決定ヲ急ギ居ル次第ナリ。

袴田委員 然ラバ面倒ナル條件ヲ附スルヨリ、寧ロ今之ヲ市ヘ買取りテ貸附クル方便宜ナラン。

田川部長 开ハ自分等ガ始メニ考ヘシ處ナルモ、目下貸附ノ地料ハ一ケ年坪五歩ナルヲ以テ、若シ市ガ買取金額ニ對スル相當金利ヲ見ルトセバ、非常ニ地料ノ昂騰ヲ來スベク、這ハ到底實行シ能ハザルベシ。

袴田委員ヨリ築港計畫内容ニ付質問アリ。

直木課長ヨリ築港新計畫ニ關シ、從來ノ計畫トノ異同及計畫概要ヲ説明シ、

田川部長ヨリ築港問題ニ就テハ、引續キ考究セラレタシトノ希望ヲ述べ、東京府ヘ回答ノ件ハ、原案ノ通り可決ノ上、午後二時半閉會。

東京灣築港調査常設委員會日記

築港新計畫說明

築港新計畫說明

明治四十五年三月、直木技師(倫太郎)設計スル所ノ東京港築造計畫ヲ築港調査常設委員ニ披露ス。

明治四十五年三月廿八日午後一時常設委員會室ニテ開會。

- | | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| 委員 細野 順君 | 委員 袴田瀧三郎君 | 委員 鈴木英也君 |
| 市長 尾崎 行雄君 | 助役 田川大吉郎君 | 助役 原田十衛君 |
| 市 常設委員 酒井 泰君 | 市 常設委員 染谷 要作君 | 市 常設委員 松下善太郎君 |
| 出席者 常設委員 荒木 重治君 | 出席者 常設委員 津村 重舍君 | 出席者 技師長 日下部 辨二郎君 |
| 助役 宮川 鐵次郎君 | 助役 役 近藤 虎五郎君 | 助役 囑託員 南部 光臣君 |
| 鐵道技師 岡田 竹五郎君 | 參事會員 黒須 龍太郎君 | 參事會員 辰澤 延次郎君 |
| 内務事務官 土岐 嘉平君 | 課長 直木 倫太郎君 | 技師 關 定治郎君 |

題

- 一、東京築港新計畫ニ關スル件(四十四年十月東京築港新計畫說明書ニ依ル)
 - 二、囑託員 南部 光臣氏ヨリ東京築港計畫ニ對スル經濟上ノ説明。
- 右ニ對シ、直木課長ヨリ新計畫ニ對スル大體ノ説明ノ後、南部囑託員ヨリ

經濟上ニ關スル説明アリ。終テ午後三時閉會。

明治四十五年四月廿二日午後一時半開會。

出席者 囑託員 南部光臣君 委員 員細野順君 委員 員鈴木英也君 委員 員袴田瀧三郎君
田川部長 日下部技師長 直木課長 關技師

題

一、田川助役大阪及神戸築港視察談。

二、直木課長ヨリ新計畫ニ對スル説明。

田川部長ヨリ大阪及神戸築港視察談アリ。

後直木課長ヨリ計畫内容ニ付説明アリ。午後三時閉會。

東京灣築港調査常設委員會日記

四十五年○明治○紀元四月五日東京市區改正委員會隅田川口改

良第二期工事ニ係ル芝浦海面埋立浚渫ヲ可決ス。○東京市區改正委員會議事錄。

芝浦海面埋立浚渫 東京市區改正委員會ハ明治四十五年四月五日左案ヲ可

決ス。

議第七百十三號

芝浦海面埋立浚渫可決

芝浦海面埋立浚渫可決

東京府知事ノ照會ニ係ル海面埋立ノ件ニ付、左ノ如ク回答セントス。

回答案

客年六月九日亥土甲第一七五九號二、及本年一月二十九日亥土甲第一七五九號ヲ以テ、海面浚渫竝ニ埋立ノ件、照會ノ趣了承。右ハ第二第五砲臺以下ノ航路ニシテ西方ニ屈曲セル部分ヲ、可成直線ニ浚渫スルニ於テハ、異存無之候。此段及回答候也。

年 月 日

委 員 長

東京府知事宛

亥土甲第一七五九號

東京市芝區地先海面浚渫竝ニ埋立ノ件ニ關シ、客年六月八日附亥土甲第一七五九號二ヲ以テ支障ノ有無及照會置候處、本件中第三號及第四號區域ハ追テ認可方稟請ノ見込ニ有之候様、東京市ヨリ申出有之候條、右區域ヲ除キ、支障ノ有無御意見承知致度、工事計畫書相添、此段及照會候也。

明治四十五年一月廿九日

東京府知事阿部 浩

東京市區改正委員長床次竹二郎殿

帝都時代ノ港灣

九四三

一、埋立ノ場所

芝區南濱町前海面四萬四千三百十坪同所地先同二萬六千七百七十五坪、田町一丁目ヨリ五丁目ニ至ル地先同三萬八百三十壹坪、田町六丁目ヨリ車町ニ至ル地先同五萬九千五百八十八坪、同所地先同貳萬七千九百五十七坪ニシテ別紙圖面ノ區域内トス。

一、埋立ノ理由

隅田川口改良工事ト相俟テ一層河口ノ改善ヲ計ラン爲メ、東京市參事會ヨリ稟請ニ因ル。

但、市街宅地竝ニ道路敷ト爲スノ畫策ハ、工事完了ノ上地區ヲ確定更ニ申出有之筈ニ候。

右支障ノ有無御意見承知致シ度、此段及照會候。

明治四十四年六月九日

東京府知事阿部 浩

東京市區改正委員長床次竹二郎殿

隅田川口改良第二期工事設計書

隅田川口改良第二期工事計畫ノ要領ハ、河内ニ於テ可及的浚渫區域ヲ擴張シテ、船舶所ヲ擴ムルト共ニ、芝浦沖以下開放セル濬筋ノ幅員ヲ略倍加シ、以テ碇泊航通ノ便ヲ益々大ナラシメントスルニ在リ。抑々隅田川口改良工事第一期ノ計畫ハ、永代橋以下芝浦沖ニ至ル濬筋ノ幅員ヲ六十間乃至七十間、又芝浦沖以下砲臺外ニ於ケル水深十二尺ノ線ニ至ル迄ノ幅員ヲ五十間ト定メ、之レヲ大潮平均水面以下十二尺ニ浚渫スルニ在リタリ。然ルニ第二期計畫ニ於テハ、乃チ其幅員ヲ擴張シ、明石町地先以下第一砲臺ニ至ル濬筋ヲ幅員百間、又第一砲臺以外水深十二尺ノ線ニ至ル迄ヲ幅員百廿間トナスノ外、永代橋ト相生橋トノ間ニ於テ大川派川ニ屬スル水面積約三萬五千坪ヲ浚渫シテ、大潮干潮平均水面以下九尺ノ水深ヲ有スル船溜ヲ設ケントス。以上ノ擴張工事ト共ニ、既成濬筋ノ維持浚渫、埋立地間運河ノ浚渫、及ビ工用運河竝啣筒船作業場ノ浚渫等ヲ併セテ生ズベキ浚渫土砂總量六十六萬坪ニ上ルベシ。而シテ本計畫ニ於テハ、之レヲ利用シテ、第一期工事ニ屬スル第五號埋立地ノ殘部ヲ完成シ、猶別ニ約二十萬坪ノ埋立地ヲ得ベキ豫定ナリ。其位置ハ別紙平面圖ニ示ス如ク、既成埋立地ニ接續シ、築港計畫ニ從ヒテ

埋立ツルモノニシテ、埋立地盤高ハ既成埋立地ト同ジク大潮干潮平均水面以上十二尺トシ、其面積凡ソ左ノ如シ。

區 域	面積(坪)
第一號埋立地	四四、三一〇
第二號埋立地	二六、七七五
第三號埋立地	三〇、八三一
第四號埋立地	五九、五八八
第五號埋立地	二七、九五七
計	一八九、四六一

(備考)外ニ第一期工事ニ屬スル第五號埋立地ノ殘部約壹萬五千坪ヲ埋立テ得ベキ豫定ナリ。

埋立地間ノ運河ニ關シ茲ニ一言ヲ要スベキモノハ、新舊埋立地間ニ幅員拾五間ノ運河ヲ存セシメ、之レヲ延長シテ新埋立地内ヲ貫流セシメタル外、第一期工事ニ屬スル第四號及第五號埋立地間ノ運河幅員ヲ二十間ニ變更スベキ結果トシテ、其下流モ又之レニ準ジタルコト、幅員三拾間ノ運河ヲ古川口ヨリ築港計畫船溜ニ向ヒ一直線ニ貫流セシメタルコト、及札辻ニ於ケル鐵道線路内ノ入堀ヨリ舊第五號埋立地ニ沿ヒテ幅員十五間ノ運河ヲ設ケ、猶之レヲ延長シテ新埋立地ヲ貫通セシメタルニアリ。

埋立地周圍ノ護岸ハ、全部假護岸トシ、其構造ハ第一期工事ノ護岸ト略相同ジ、唯兩者水深ニ差異アル爲メ工費ニ於テ等シカラザルモノアルハ已ムヲ得ザル所ナリ。

工費ノ豫算ハ、別掲ノ如ク總計金貳百四拾六萬八千貳百拾貳圓ニシテ、本工事ニ使用スベキ機械船舶ノ類ハ、其附屬機械器具及ビ土運船等ヲ新調スル外、主要ナル浚渫機等ヲ新規ニ購入スルコトナク、總テ在來ノ機械ニ由リ施工スルモノトナシタルモ、修理工場ノ設備ニ若干擴張ヲ加ヘ、且ツ之レヲ芝浦舊第二號埋立地ニ移轉スルモノトシテ、豫算ヲ編成セリ。又工期ハ四ヶ年半ト定メ、之レヲ明治四十四年度ヨリ四十八年度ニ互ル繼續事業トナス可シ。著手期ハ第一期工事ノ終了ヲ俟チ引續キ之レニ著手スルモノトス。其年度割額竝ニ收支豫算ハ別紙參考書ニ示ス如シ。

(別紙)

隅田川口改良並維持工費豫算

一、金貳百四拾六萬八千貳百拾貳圓

内

- 金壹百四拾七萬七千五百圓
- 金貳拾四萬七千貳百拾貳圓
- 金貳拾九萬三千四百圓
- 金拾九萬九千圓
- 金貳萬七千圓
- 金拾參萬圓
- 金九萬四千圓

總工費

- 浚渫埋立工費
- 護岸工費
- 雜工事費
- 機械器具費
- 測量調査費
- 事務所費
- 豫備費

○(以下内譯細目表省畧)
○參考書モ之レヲ畧ス。

東京市區改正委員會議事錄

〔備考〕東京市區改正委員會ハ、其後左ノ議決ヲ爲スコト、同會議事錄ニ見ユ。

○大正二年四月十六日可決。
議第七百六十九號

内務次官ノ照會ニ係ル海面浚渫並ニ埋立ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回答案

明治四十五年七月二十九日土第一八九二號内ヲ以テ東京市芝區田町一丁目ヨリ五丁目ニ至ル地先及田町六丁目ヨリ車町ニ至ル地先海面浚渫並埋立ノ件ニ付、御照會ノ趣了承。右ハ本會ニ於テ異存無レ之候。此段及ニ回答ニ候也。

委員長

内務次官宛

内務省土第一八九二號ノ内
東京府知事ヨリ別紙ノ通り東京市起業ニ係ル海面浚渫並埋立ノ件、稟申有レ之候ニ付、右ニ對スル貴會ノ御意見承知致度、此段及ニ照會ニ候也。

明治四十五年七月廿九日

内務次官床次竹二郎

東京市區改正委員長床次竹二郎殿

子土甲第三六二號

海面浚渫並埋立ノ件稟申

芝區田町一丁目ヨリ五丁目ニ至ル地先(第三號)

一、海面三萬八百三拾壹坪

同區田町六丁目ヨリ車町ニ至ル地先(第四號)

一、同五萬九千五百八拾八坪

右ハ隅田川口改良工事ト相待テ一層河口ノ改善ヲ計ラン爲メ附近海面浚渫ノ上、該土砂ヲ以テ埋築致度旨、東京市ヨリ稟請ニ付、横須賀鎮守府ニ支障ノ有無及ニ照會ニ

帝都時代ノ港灣

候處、別紙寫ノ通り回答ヲ得、他ニ何等支障無ク之ト認候條、御聽許相成度、別紙工事計畫書並命令書案相添、此段及稟伺候也。

追テ、市街地又ハ道路敷等ノ坪數ハ、工事完成ノ上區劃致度申出候條、申添候。

明治四十五年六月一日

東京府知事阿部 浩

内務大臣原敬殿

命令書案

東京市

東京市芝區地先海面ノ埋立ヲ許可スルニ付、左ノ通り命令ス。

第一條 海面埋立ノ位置ハ、芝區田町一丁目ヨリ五丁目ニ至ル地先(第三號)海面三萬八百三拾壹坪、同區田町六丁目ヨリ車町ニ至ル地先(第四號)同五萬九千五百八拾八坪ニシテ、稟請書添附圖面ニ記載スル區域内トス。

第二條 前條ノ埋立成功シタルトキハ、道路敷等公用ニ供スベキ部分ハ無償ニテ官有トナシ、他ハ市街地ト爲スモノトス。

但、其公用タルベキ部分ニ付テハ地區ヲ確定シ、當廳ニ申出テ承認ヲ受クベシ。若シ當廳ニ於テ其申出ノ地區ヲ不適當ト認ムルトキハ、其變更ヲ命ズルコトアルベシ。

第三條 埋立工事ノ方法ハ、稟請書添附ノ工事計畫書トス。

第四條 工事著手ノ期間ハ、本許可ノ日ヨリ滿六ヶ月以内トス。

第五條 埋立成功期間ハ、本件許可ノ日ヨリ滿五ヶ年トス。

第六條 工事ハ著手落成トモ其都度當廳ニ届出ベシ。

第七條 著手ノ期間ニ至テ著手セズ、成功ノ期間ニ至テ成功セズ、其他本命令書ノ條項ニ違ハザルトキハ、本件許可ノ效力ヲ失フモノトス。

天災事變ノ爲メ期間内ニ著手若シクハ成功シ難キ事情アルトキハ、其事由ノ止ミタル後二ヶ月以内ニ延期ノ出願ヲ爲スコトヲ得。其手續ヲ爲サルトキ亦前項ニ同ジ。

第八條 埋立期間中ト雖モ、公害ヲ生ジ、又ハ軍事上若クハ公益上、當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ、何時ニテモ本命令書ノ條項ヲ増減變更シ、又ハ無償ニテ本件埋立ノ全部若クハ一部ノ停止禁止ヲ命ジ、且既ニ加工シタル部分ト雖モ、其儘官有ニ歸セシムルコトアルベシ。

第九條 埋立免許權ハ、當廳ノ許可ヲ受クルニアラザレバ擔保貸附等ニ供シ、又ハ之ヲ他ニ移スコトヲ得ズ。

第十條 埋立成功シタルトキハ、其所有權ノ認定ヲ申請スベシ。但、各號各別ニ申請スルコトヲ得。

右ノ條項堅ク遵守スベシ。

年 月 日

知 事

○大正二年七月廿三日可決
議第七百七十九號

東京府知事ノ照會ニ係ル水面埋立ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回答案

東京市芝區田町四丁目ヨリ六丁目ニ至ル地先入堀埋立ノ件ニ付、六月二十八日

丑土甲第六六〇號ヲ以テ照會ノ趣了承。右ハ本會ニ於テ異存無レ之候。此段及ニ回答ニ候也。

年 月 日

委 員 長

東京府知事宛

丑土甲第六六〇號

大正二年六月二十八日

東京府知事宗像 政

照 會

東京市芝區田町四丁目ヨリ六丁目ニ至ル地先入堀面積壹千七百貳拾六坪六合埋立ノ上宅地ニ供用致度旨、東京市長ヨリ申請ニ付、支障ノ有無御意見承知致度候。但、其區域ハ別紙圖面ノ通トス。

○大正二年十二月十日可決
議第七百九十二號

東京府知事ノ照會ニ係ル海面埋立變更ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回 答 案

芝區南濱町並田町一丁目地先海面埋立變更ノ件、丑土甲第一七七一號ヲ以テ照會ノ趣了承。右ハ本會ニ於テ異存無レ之候。此段及ニ回答ニ候也。

年 月 日

委 員 長

府知事宛

丑土甲第一七七一號

大正貳年九月二十九日

東京府知事宗像 政

照 會

東京市區改正委員長水野鍊太郎殿

芝區南濱町地先第二號地

原計畫面積貳萬六千七百七拾五坪

變更計畫面積三萬三千五百六拾貳坪

芝區田町一丁目ヨリ五丁目ニ至ル地先第三號地

原計畫面積三萬八百三拾壹坪

變更計畫面積二萬七千六百六拾九坪

東京市申請海面埋立ニ關シ、客年一月二十九日庚土甲第一七五九號及同年六月一日付子土甲第三六二號ヲ以テ及ニ照會ニ候埋立區域ノ内、前記ノ通り變更致度旨申請有レ之候ニ付、支障ノ有無御意見承知致度候。別紙圖面添附致候。

〔附記〕 品川挂燈浮標

遞信省告示第六百九號

東京府武藏國品川沖へ隅田川筋淺深區域極端ノ位置ヲ示ス爲メ、左記ノ挂燈浮標ヲ碇置セリ。

明治四十五年六月二十六日

遞信大臣伯爵林 董

品川挂燈浮標

帝都時代ノ港灣

一、位置 品川燈臺ノ南微東方。

一、構造及著色 鐵造圓筒形紅色、上部ニ格子製櫓ヲ組立テ、頂上ニ燈器ヲ

掲グ。

一、自水面 高 一丈二尺。

一、燈質 アセチリン瓦斯閃光白色、毎三秒時間ニ一閃光ヲ發ス。

一、明弧 全度。

一、光達距離 晴天ノ夜八浬。

一、水深 大低潮時約二尋四分ノ一。

一、方位 該浮標ヨリ測定セル磁針方位ハ、左ノ如シ。

暴風雨信號標ハ、北四十八度十五分西。

品川燈臺ハ北十二度十五分西。

法令全書

〔參考〕東京港築造新計畫

(一) 直木技師第二案

東京港築造計畫ハ、明治四十四年東京市技師直木倫太郎三千七百萬圓案ヲ

立テタル後、大正二年四月六日同技師ハ更ニ二千萬圓案ヲ立ツ。

東京灣築港計畫ハ、政府ニ於ケル荒川改修工事實施決定ノ結果、從來ノ築

港計畫ニ幾分變更ヲ加フベキ必要ヲ認メ、之ガ設計ニ著手シ、目下調査中

ニ屬セリ。○大正元年報告。

東京市事務報告書

荒川改修工事ノ決定ニ應ジテ、東京築港計畫ニ多少ノ修正ヲ加フル必要

ヲ認メ、曩ニ明治四十四年十月案ヲ具シテ及上申置候處、其後經營ノ方針

竝ニ工費ニ關シテ御垂示ノ次第モ有之、乃チ考慮ノ上、改メテ別冊計畫書

調製劉覽ニ供シ候。若シ以テ本市多年ノ宿題タル築港事業ノ解決ニ一步

ヲ進ムルコトヲ得バ、光榮不過之候。

右謹デ及上申候也。

大正二年四月六日

東京市技師直木倫太郎

東京市長法學博士男爵阪谷芳郎殿

東京築港新計畫説明書

第一章 總説

東京築港計畫ハ、曩ニ古市博士ノ手ニ依リテ其根本的方針既ニ業ニ確立セリ。即チ港門ヲ羽田ニ置キ、本港ヲ芝浦地先ニ撰ビ、及ビ此兩者ヲ連ヌルニ一大運河ヲ以テスルノ立案ニ至リテハ、實ニ我ガ東京灣頭ノ地勢ヨリ考察シテ、工費經濟上遂ニ動カス可カラザルノ斷案ト云フベク、縦令人ヲ替ヘ時ヲ異ニシテ之レヲ策セシムルモ、到底此以外ノ妙計アルコトナシ。夫レ然リ然カモ今ヤ一方ニ荒川改修ノ議成リ、國帑壹千貳百萬圓ヲ投ジテ既ニ其實行ニ著ク、即チ我東京市ヲ貫流スル隅田川ハ、該工事ノ完成ヲ俟ツテ、永ヘニ洪水汎濫ノ害ヲ脱シ、土砂流出ノ厄ヲ免レ、從ツテ博士ガ當時ノ築港計畫中特ニ隅田川落筋ヲ本港區域外ニ置キタル用意ハ、最早是レヲ墨守スルノ必要ナカラントス。此故ニ若シ今ニシテ東京築港計畫上ニ何等カノ考案ヲ加味シ得ベシトセバ、ソハ一ニ此新事實ノ發現ニ其根據ヲ求ムベキナリ。

而シテ右ノ新事實タル其築港計畫ニ及ボス影響實ニ尠シト爲サズ。即チ從來隅田川汎濫ノ不安ヲ危ミ強テ其一方ニノミ偏在セシメタル本港指定地域ハ、今ヤ安ンジテ該落筋ヲ挾ムデ其左右ニ展開セシムルヲ得可ク、爲メニ大船繫泊地ノ規模ヲ擴大シ、市内各河川トノ水運連絡ノ便利ヲ充實シ、併セテ工費經濟上埋築地域ヲ大ニ増加シ得ベケレバナリ。

由來東京市ノ水運ハ隅田川ヲ中心トシテノ水運ナリ、其河幅ト水深ノ乏シキニ拘ラス、其航通上ノ障碍多キニ拘ラズ、一年參百五拾萬噸ノ大貨物ハ現ニ此河川ヲ上下スルニヨリテ、能ク市内一般ノ需要ヲ充タシ、併セテ廣大ナル東北地方一體トノ經濟關係ヲ保テリ。即チ貨物ノ上下收藏ニ供スル凡百ノ設備ハ、該河ノ沿岸ヨリ延イテ市内數十ノ枝川ニ達シ、水路遠近ノ輸送ニ適スル無數ノ機關ハ、多年ノ運用ト經驗トニヨリテ能フ限リノ發展ヲ遂ゲタリ。約言スレバ舢舨荷役ノ方法ト及ビ是レニ伴フ諸設備諸機關ノ充實ハ、今日我東京市水運ノ全部ヲ形作ルモノニシテ、東京築港計畫上啻ニ是レヲ無視シ能ハザル而已ナラズ、及ブ限リハ是レヲ利導シ善用シテ、然ル後更ニ之レニ加フルニ有利ナル新設備ヲ以テセザル可カラザルコト、又言フ俟タズ。只然シ乍ラ在來ノ隅田川ハ、其洪水頻發ノ爲メ港内浚渫水深ノ保持困難ナルヲ以テ、是ヲ築港區域内ニ導クノ危險ニ堪ヘズ、即チ是レヲ本港ヨリ隔離スルノ結果ハ、勢ヒ本港地域ノ狹小ヲ來タ

シ、本港地域ノ狹小ニ應ゼンガ爲ニハ、自ラ岸壁荷役方法ヲ以テ計畫ノ骨子ト爲サバル可カラズ。之レ往時ニ在リテハ實ニ止ムヲ得ザルノ立案タリシト雖モ、然カモ一方市内水運トノ關係ニ於テ多少ノ遺憾ヲ存スル所以ナラズンバ非ズ。然ルニ今ヤ隅田川問題ハ其根本的解決ヲ告ゲタリ。東京港ハ最早該河ヲ顧慮シテ深ク是ヲ回避スルニ及バズ、否寧ロ該河ヲ中心トシテ其左右ニ自由ニ展開劃策シ得可キニ至レリ。此故ニ今日ニテハ強テ岸壁本位ノ計畫ヲ固執スルノ要ナク、即チ先ツ舢舨荷役ヲ目的トスル市内在來ノ諸設備諸機關ニ著眼シテ、是ガ一段ノ利用ト活動トヲ策シ、更ニ進ンデハ水陸連絡ノ利便ノ爲ニ別ニ嶄新ナル岸壁荷役方法ヲ採用シ、若クハ採用スルノ素地ヲ置クノ利ナルニ加カザルナリ。況ヤ如是ノ港域擴大ニ伴ヒ、往時ノ本港指定地ニシテ其地盤良好ナル芝浦地先一體ノ地積ヲ有利ニ埋築シ、以テ築港工費ノ回收ヲ容易ナラシメ得ベキニ至リテハ、本事業經營上ノ利便又同日ノ論ニ非ザルオヤ。

加之最近總武鐵道線ノ龜井戸驛ヨリ分岐シテ市内深川區越中島ニ達スル鐵道線竝ニ越中島貨物停車場新設ノ決定ハ、又我東京市内ノ水運ニ多

大ノ利便ヲ齎スモノト云フ可ク、若シ將來之レニ附加スルニ大船連絡ノ途ヲ以テスルヲ得バ、則チ東京市ヲ經濟中心トスル東北地方一體ノ出入貨物ニ對スル水陸連絡ノ關門トシテ、實ニ運輸收藏上ノ理想的利便ヲ茲ニ開發シ得ルニ止マラズ、惹テ月島越中島附近埋築地ノ有望ト及ビ之レニ伴フ築港經濟上ノ利益ヲ豫想セシメズンハ非ズ。況ヤ該地域ハ大概海底以下二十尺内外ニシテ土丹岩盤ニ達シ、製造工場ノ基礎ヲ置クニ於テ又頗ル適當ナルオヤ。

以上荒川ノ改修ト越中島鐵道線ノ新設ト及ビ市内ノ水運竝ニ芝浦月島附近ノ地質トニ著眼シテ本港ノ配置ニ若干ノ變更ヲ加へ、延イテ前港竝ニ運河ニモ多少ノ修正ヲ試ミタルモノ、是レヲ今次ノ新計畫ト爲ス。

即チ一方ニハ芝浦地先ニ於テ、又他方ニハ越中島地先ニ於テ、共ニ地盤堅牢ナル廣大ノ地域ヲ埋築シ、此二者對立ノ中間ハ浚渫シテ大船繫泊地トナシ、別ニ帆船及ビ小艇ニ對スルニケ所ノ船溜ト、埋立地内多數ノ運河及ビ附帶設備トヲ是レニ附加スルモノ、之レ本港設計ノ要領ナリ。

或ハ此際荒川改修ヲ機トシテ飽迄河港ノ利便ヲ充實スベク、本港ノ位置

ヲ進メテ更ニ一層市内ノ中心ニ接近セシメント欲スルモノナカラズ。然レドモ此ノ如キハ畢竟一個ノ空想ノミ。即チ月島以北ノ隅田河内ニ於テ相當ノ規模ヲ備フル大船繫泊地ヲ求メントスルガ如キハ、現在熱鬧ノ市街地ニ廣大ノ地積ヲ買潰シテ是レヲ開鑿スルヨリ外ニハ到底之レニ應ズルノ道ナク、從テ其工費ノ如何ニ巨額ニ上ル可キカハ殆ド想像ニ耐エズ。夫レ既ニ在來ノ築港計畫ニ對シテスラモ其工費ノ巨大ヲ云爲シテ多年空シク是レガ決行ヲ阻止セルニ方リ、更ニ其經費ノ殆ド幾十倍スベキカヲ知ラザルモノヲ想像シ來ツテ、濫リニ其利害ヲ對比セントスルガ如キ、縱令利益ノ見ルベキモノアルモ、實行上遂ニ何ノ價値ヲカ存セン。殊ニ我東京市ノ如ク市自體ガ主トシテ生産消費ノ中心タル所ニアリテハ、貨物ノ運搬ハ本船繫泊地内ノ揚卸シニヨリテ終局ヲ告グルモノニ非ズ、必ズヤ其大多數ハ再ビ水運ヲ藉リ、市内隨所ノ倉庫地若クハ工場地ニ回漕スルノ要アルヲ以テ、縱令本船繫泊地ノ異動ニヨリ市内各枝川ニ對スル舢舨運漕距離ニ若干ノ短縮ヲ見ルトモ、爲メニ狹小ナル地積ニ大小船舶出入ノ混雜ヲ來サンニハ、其不利却テ耐フ可カラザラン。此故ニ月島附

近ヨリ溯リテ兩國橋若クハ其以上ニ達スル隅田川本流ノ浚渫並ニ沿岸ノ設備ハ、寧ロ該河ノ幅員並ニ利用ノ狀況ニ鑑ミ、月島附近ノ本港ト呼應シテ著々之レガ改善ヲ期スベク、時勢ノ要求ハ必ず早晚該沿岸ノ面目ヲ一新セシムルヲ疑ハズト雖モ、然カモ右ノ改善ヲ促進セシムルガ爲ニモ、先ヅ第一著ニ大船出入ノ根據地タル本港ノ設備ヲ治メザル可カラズ。而シテ本港ノ位置ハ其規模ニ於テ到底月島以北ニ是レヲ見出スコト能ハザルナリ。

東京築港計畫上、本港ノ位置ニ關シテハ略以上述ブル所ノ如シ。惟フニ東京港ニシテ若シ單ニ本船繫泊地ヲ設備スルノミニシテ足ラシメバ、築港ノ問題ヤ其解決實ハ頗ル易々タリ。又恐ラクハ今日迄空シク實行ノ閑却サルベキ理ナシ。只併シ乍ラ不幸ニシテ品川灣頭ハ一體ニ甚タシク遠淺ナリ、現ニ壹千噸内外ノ船舶スラモ芝浦ヲ去ル數哩ノ沖合ヨリ以内ニ接近スルコト能ハズ。東京市ガ其前面ニ渺茫タル海面ヲ控ユルニ拘ラズ、曾テ船ラシキ船ノ去來ヲ目撃シ能ハザルモノ實ニ之ガ爲メナリ。都市經營上總ユル方面ニ細心ノ研究ノ下サル、ニ拘ラズ、獨リ海事ニ關シテ而已

稍々其注意ヲ逸シ易キノ觀アルモノ亦實ニ之ガ爲メナランヤ。夫レ然リ然カモ東京築港計畫ハ此ノ甚タシク遠淺ナル海底ヲ開鑿シテ、月島附近直チニ大船巨舶ノ出入ヲ實現セシメントハスルナリ。本船繫泊地ノ浚渫ニ先ンジテ是ニ到達スベキ水路ト港門竝ニ前港設備トノ爲ニ先ヅ多額ノ經費ヲ投ゼザル可カラザルノ理ヤ明白ナラン。即チ此ノ如キハ地勢上實ニ多大ノ不利ヲ存スルモノナリト雖モ、然カモ我東京港ノ經營ニシテ一度其當然ナル經濟的位置ノ自覺ニヨリテ喚起サレタル以上、地理的ニ避ク可カラザル多少ノ不利不便ノ如キハ又何ゾ之レヲ問フヲ用キ。況ヤ發達セル近代の技術ノアルアリ、以テ能ク其ノ不便ヲ一掃シ得ベキハ固ヨリ、又茲ニ此浚渫土砂ヲ埋築ニ利用スルニ於テ、却テ他ニ見ル可カラザル工費經濟上ノ利益ヲ產出シ得ベキナルオヤ。

芝浦及品川沖一帶ノ水面ガ然カク遠淺ニシテ且ツ年々埋没ノ狀態頗ル顯著ナルニ拘ラズ、轉ジテ羽田岬附近ニ至レバ海底ノ傾斜甚ダ急峻ニシテ、僅々三百間ノ間ニ水深ハ十尺ヨリ四十尺ニ直下スルヲ認ム。之レ恐ラク東京灣内ノ潮流日夕出入ノ通路ニ方リ、其自然ノ掃盪力ニヨリテ土砂ノ沈澱ヲ妨グルガ爲メナラザランヤ。此故ニ品川灣内能ク東京港ノ港門トシテ永久ニ港口埋没ノ危險ヲ免レ得ベキノ地ヲ求メバ、獨リ此地點ヲ措キテ又他アルヲ知ラズ。之レ古市博士ニヨリテ夙ニ觀破セラレタル所、即チ此處ニ港門ヲ設ケテ護ルニ左右ノ突堤ヲ以テシ、堤内相當ノ水面ヲ抱擁シテ前港ノ設備ヲ整へ、從ツテ羽田ノ前港ト月島附近ノ本港トヲ連ヌルニ長大ナル海中運河ノ開鑿ヲ以テシ、及ビ其左右ヲ護ルニ防波若クハ防砂ノ長堤ヲ以テセザル可カラザルノ理又自ラ明カナラム。

夫レ此ノ如ク東京港ハ、其設計ノ如何ヲ問ハズ、是レガ築設ノ順序トシテハ先ヅ第一著ニ前港ト運河トノ施設ニ巨額ノ工費ヲ投下セザル可カラズ。而シテ是レニ巨額ノ工費ヲ投ズル結果ハ勢ヒ當初ヨリシテ容易ニ港ノ主體タル本港内諸設備ノ充實ヲ期待シ難ク、然ラズンバ其經費餘リニ膨大シテ却テ實行ヲ害セン。故ニ築港工費ノ經濟上最モ適當ノ方策トシテハ、即チ港ノ大成ヲ將來ノ發展ニ讓リ、甞メテ其擴張ノ餘地ヲ損セサルヲ旨トシテ以テ第一著手ノ工事ヲ凡テノ方面ニ切詰メ、先ヅ專ラ東京灣頭ニ本船出入ノ利便ヲ實現セシムルノ外ナシ。請フ今次計畫ノ方針ヲ舉

ゲテ次章審カニ之レヲ説カシ。

第二章 新計畫ノ要旨

東京築港計畫實行ノ便宜ノ爲メニ、極度ニ其工費ヲ切詰メ、然カモ以テ寸毫モ將來擴張ノ素地ヲ損セザランガ爲メニ採用セシ方針五アリ、何ゾヤ、

第一 港内浚渫水深ヲ制限ス

東京港ハ其工費節減ノ爲ニ、差詰メ東京市ニ必要ナル食料薪炭竝ニ工業原料品ノ輸入及其製作品ノ内地若クハ滿鮮地方ニ對スル輸出ヲ以テ施設ノ目安ト爲ス可シ。即チ其規模ハ、滿載ノ場合大凡四千噸級迄ノ船舶ヲ直接月島附近ノ本港ニ出入セシメテ、此處ニ市内各枝川ニ至ル舢舨ノ荷役ヲ便ナラシムルヲ以テ度トシ、從ツテ港内ノ水深ハ之ヲ大汐干潮面以下二十五尺ニ制限スベシ。

此ノ如キハ或ハ東京港ノ名ニ對シテ其規模ノ餘リ小ナルヲ難ゼン。サレド元來東京港ヲ必要トスルノ理由ハ、專ラ東京市ニ出入スルノ要アル貨物ノ利便ノ爲ナリ。即チ現今盛ニ船體ノ長大ヲ競ヘル海外航路ノ旅客船ノ類ヲモ今直チニ此處ニ出入セシメントスルニ、寧ロ其適度ヲ超エテ却

テ横濱港固有ノ立場ト抵觸スルナカラシヤ、而シテ之レヲ造船界近時ノ趨勢ニ見ルモ、旅客船ノ寸法ハ船客吸收ノ必要上倍々其長大ヲ競フテ止マズト雖モ、一方貨物船ニアリテハ、海運經濟上大凡ソ三四千噸級ノモノヲ以テ貨物吸收ノ適度トナスニ一致シ、寧ロ前者ノ如ク然カク船體ノ膨大ヲ欲セズ。又現ニ最近二ケ年ノ横濱港出入船舶統計ニ見ルモ、吃水十二尺以上ノ入港船數一年約二千艘ニ對シテ、其九割ハ入港喫水二十四尺以下ナルヲ常トスルニ非ズヤ。此故ニ大汐干潮面以下二十五尺ノ水深ハ、工費經濟上東京港第一著手ノ規模トシテ先ヅ最モ實利的ノモノタルコト之レヲ云フニ憚ラズ。

第二 本港内浚渫區域ヲ制限ス

本計畫ニヨレバ芝浦ト月島トノ兩埋立地域間ニ介在スル大船繫泊所ノ水面積ハ總計百十四萬坪ニ達スト雖モ、其全部ノ浚渫ハ之ヲ將來ニ譲リ、第一著手トシテハ其内約七十二萬坪ヲ大汐干潮面以下二十五尺乃至十五尺ニ浚渫スルニ止メ、適當ノ間隔ニ繫船杭ヲ配置シテ、以テ大小船舶四十隻ノ繫留ニ充ツベシ。蓋シ繫船杭ノ設置ハ浮標使用ノ場合ニ比シテ著

シク船舶所要水面積ヲ減少セシムルヲ得ベキガ故ニ、東京港ノ如ク全部人工ニ待ツベキモノニ在リテハ工費經濟上此方式ヲ採用スルヲ利トス。

第三 本船横附ケノ設備ヲ將來ニ讓ル

入港船舶横附ケノ設備ハ、築港經營ノ一眼目トシテ認メラル、處ノモノニシテ、以テ在來ノ舢舨荷役以外別ニ敏活ナル新荷役方法ヲ寄與スルヲ得ベク、海陸連絡ノ實又是レヲ待ツテ初メテ活現セラル、ヲ得ベシ。故ニ今日築港工事上此新設備ヲ缺キテ單ニ本船繫泊地ヲ浚渫スルニ止ムルハ、固ヨリ多少ノ遺憾ナカラズト雖モ、然カモ工費輕減ノ爲ニハ暫ク此高價ナル構造ノ築成ヲ他日ニ讓リ、將來港ノ利用ノ發展ニ伴ヒ、其必要ト共ニ漸次之ニ應ズルノ方針ヲ取リテ、茲ニハ只其ノ築設地點ヲ保留シ置カント欲ス。且ツ思フニ繫船設備ノ利益ハ極メテ顯著ナリト雖モ、然カモ我東京港ノ如ク出入貨物ノ大多數ガ單純ノ通過貨物ニ非ズシテ其仕出地仕向地ハ寧ロ專ラ市内大小ノ河川ニ沿ヘル工場若クハ倉庫ニ存シ、其地方ニ向フモノト雖モ、一旦ハ必ズ之等ノ地點ニ收容ノ上、變裝混淆若クハ加工ヲ必要トスル場合ニ在リテハ、縱令本港内ニ此種ノ設備ヲ爲スモ、其

貨物ハ必ズヤ再ビ舢舨ノ便ニ依リテ、水路隅田川ヨリ各枝川ニ達スルヲ常トシ、陸上直チニ車馬ヲ驅リ若クハ鐵路即時ニ地方ニ向フモノ、如キハ極テ少カルベシ。即チ將來ハ知ラズ今日ニ於テハ敢テ多額ノ工費ヲ投ジテ此種ノ設備ヲ施スノ必要ナシテ必迫セリトハ云フ可カラザルオヤ。

第四 前港及運河ニ關スル工費ノ節約ヲ期ス

東京港ノ築設上、前港及運河ノ設備ハ地理的ニ之ヲ否ム能ハザルコト既ニ述ブルガ如シト雖モ、然カモ築港ノ本領ハ彼ニ非ズシテ却テ本港内ノ設備ニアリ。即チ茲ニ投ズル工費ハ、大小凡テ直接ノ利益ヲ生ミ、適切ノ效果ヲ齎ス可キモ、彼ニアリテハ單ニ本港内ニ船舶ヲ導クガ爲メノ間接的價值ヲ存スルニ過ギズ。此故ニ能フ限リハ砲臺外ノ工事ニ投ズル當初ノ工費ヲ輕減シテ、其完成ヲ他日ニ俟ツテ工費經濟上ノ必要事ト爲スベシ。即チ此ノ方針ノ下ニ本計畫ニ採用セル方法次ノ如シ。

- 一、運河ノ幅員 將來ニ任意擴大ノ餘地ヲ存シテ、當初ハ先ヅ浚渫敷幅四十五間上幅六十二間ニ止ムルコト。
- 二、運河沿防波堤 運河沿防波堤ノ築造ハ、其延長多大ニシテ工費ノ激

増ヲ免ル可カラザルヲ以テ、單ニ簡易ノ防砂堤ト防波柵トヲ築キテ其左右ヲ保護シ、主トシテ運河内水深ノ埋没ヲ豫防スルノ程度ニ止ムルコト。

惟フニ將來此不備ヲ修ムルノ途ハ、運河幅員ノ増大ヲ先トスベキカ、將タ防波堤ノ築造ヲ先トスベキカ、ソハ開港後ノ實狀ニ徴シテ之レヲ研究スルモ敢テ遲カラサルベク、殊ニ大森羽田地先一體ノ海藻採集地區ニ在來通リノ海水ヲ出入セシメテ、以テ些ノ影響ヲモ斯業ニ與ヘザラシガ爲ニハ、寧ロ前記ノ用意ニ出ヅルノ慎重ナルニ如カズ。

三、前港 前港ノ位置ハ、即チ從來羽田沖ノ難所トシテ知ラル、風波險惡ノ地點ニアルヲ以テ、今漫リニ突堤ノ構造ヲ簡略ナラシムルヲ得ズト雖モ、然カモ他日ニ讓リ能フ限リハ上部構造ノ一部ヲ節略シ、且ツ前港内一切ノ設備モ亦等シク此例ニ依ルコト。

第五 埋立地域ヲ擴大シ且ツ其利用ニ遺憾ナカラシム

東京港ノ築設ニシテ地勢上何ノ道一大掘鑿ヲ免ル可カラザル以上ハ、由リテ生ズル土砂ヲ成ルベク有益ナル土地ノ埋築ニ利用スルヲ當然トシ、

之等ノ埋築地ハ宜敷水陸兩路ノ便ヲ具備シテ成ルベク其利用ノ廣大ナランコトヲ期セザル可カラズ。即チ巨額ナル築港工費ノ回收ハ、若シ能フ可クンバ主トシテ此埋築地利用ノ所得ヲ以テシ、一方港ノ出入船舶ヨリスル入港料ノ賦課ヲ極度ニ輕減スルヲ以テ築港經營ノ良道ト爲スベク、茲ニ荒川改修ノ餘惠トシテ埋築地域ノ廣袤ヲ往時ノ計畫以外ニ著シク増大シ得タルヲ利トス。

殊ニ此利ヲ一層擴大センガ爲メニ、越中島地先ノ埋築地ニ於テハ一大船溜ヲ開鑿スルノ傍ラ、其浚渫土砂ヲ直ニ其周圍ノ埋立ニ利用シテ其間成ルベク土砂運搬ノ手數ヲ省キ、最モ經濟的ニ一舉船溜ト埋築地トノ兩利ヲ擧グルヲ期セリ。然カモ此ノ如キハ又越中島ニ達スル鐵道新線ノ決定ニヨリテ此方面ノ埋築地ニ一段ノ好望ヲ豫想セシムルガ爲メナラズンバ非ズ。

本計畫ニ依レハ、芝浦地先ニ於テ六十萬坪、越中島地先ニ於テ七十四萬坪ノ埋築ヲ得ベク、其面積頗ル廣大ナリト雖モ、然カモ其地ハ直チニ東京市内ニ連接シテ、域内縱横ノ運河ヲ回ラシ、前面ニハ大船繫泊地ヲ控ヘ、背部

ニハ鐵道ノ利便ヲ備ヘテ、殊ニ其地質ハ甚ダ良好ナリ。即チ是レヲ倉庫地トシテ、工場地トシテ將タ市街地トシテ見ルモ、其利用ニ窮スルガ如キハ斷ジテ之レアルヲ知ラズ。況ヤ在來ノ計畫ガ陸上設備ノ全部ヲ舉ゲテ別途ノ研究ニ委セルニ反シ、本計畫ニテハ一部ノ上屋竝ニ鐵道ノ如キ、將タ道路橋梁下水渠ノ如キ、港ノ利用上直ニ其必要ヲ生ズル設備ハ大略是レヲ豫算ニ計上シタルヲ以テ、埋築地ノ活用又自ラ一層迅速ナルベキオヤ。東京築港第一著手ノ工事ハ、大要右ノ方針ニヨリテ成ルベク、經費ノ節約ト資金回收ノ安全トヲ期シ、先ヅ專ラ築港其モノ、實益アル所以ヲ洽ネク諒解セシムルヲ以テ目的トスト雖モ、然カモ斯クシテ創メラレタル築港自體ノ發展ヲ將來ニ擴大スルニ方リ、其規模乃至設備ニ於テ些ノ不便若クハ牴觸ヲ生ゼシムルコト無キハ之レヲ明言シテ憚ラズ。即チ港内水深ノ増大、運河幅員ノ擴張又ハ運河沿防波堤ノ完成ハ固ヨリ、岸壁棧橋其他凡百ノ設備ヲ附加スルニ於テ、何等ノ支障ヲ存セズ、且ツ萬一本船繫泊地ノ總水面積百十四萬坪ヲ浚渫シ盡シテ、尙ホ其不足ヲ感ズル時機ニ會スルトセンモ、更ニ第二繫泊地ヲ設クルニ於テ、砲臺以外大船運河ニ接シ

テ十分ノ餘地アリ。況ヤ今日ニ於テ豫メ前途ヲ見越シテ畫策スルノ要アルモノ、例セバ港門ノ位置、突堤竝ニ防砂堤ノ配置若クハ浚渫用諸機械ノ寸度ノ如キニ至ツテハ、豫メ夫々格段ノ注意ヲ拂ヘルオヤ。此故ニ築港工事ガ事業ノ性質上頗ル彈力性ニ富ム所以ヲ解セバ、則チ右ノ方針ニ依ルノ寧ロ工事ノ著手ヲ便ニシ、從ツテ其效果ノ實現ヲ早カラシムルノ利アルヲ察スベキナリ。

第三章 計畫ノ大要

第一 前 港

港門ハ羽田燈臺ヲ去ル北ノ方凡ソ七百間ニシテ、水深四十尺ノ地點ニ之ヲ置キ、東南東ノ方位ニ是レヲ向ケタリト雖モ、實地測量ノ上ハ適宜ニ變更スルコトアルベシ。強風ノ方向ハ南々東若クハ北々西ニシテ、多數ノ風向モ夏期ニハ南々東冬期ニハ北々西ナリトス。

港門ノ幅員ハ突堤頭部ノ中心ニ於テ是レヲ測リ百五十間ト定メタリ。前港ハ南北ニ突堤ヲ築キテ是レヲ保護ス。其長サハ北堤四百八十一間南堤二百三十六間ニシテ、南堤ハ羽田地先ノ埋築地ヨリ發シ、北堤ハ運河沿

防砂堤ニ接續シテ、其間幅員百間ノ副門ヲ設ク。風波ノ際前港ニ入レル小舟ノ通路ノ爲メナリ。

港内ノ水面積ハ凡ソ十五萬七千坪ニシテ内凡ソ十一萬七千坪ハ、一部ノ浚渫ト相俟チテ大汐干潮ニ二十五尺以上ノ水深ヲ保タシムルヲ得ベク、其餘ハ將來必要ニ應ジテ浚渫スベシ。
浚渫ヨリ生ズル土砂ヲ以テ港奥ニ約十二萬坪ノ埋築地ヲ完成ス。埋築地ノ南隅ニ幅七十間長百四十間ノ狹窄部ヲ設ケタルハ特ニ物揚場ノ用ニ供セントスルモノナリ。將來必要ニ應ジテ一、二ノ棧橋ヲ是レニ加フルヲ得ベシ。

第二 運河

運河ハ前港ヨリ北々西ニ向ヒ本港ニ達ス。其長サ凡ソ五千間ニシテ大汐干潮ニ二十五尺ノ水深ヲ保タシメ、敷幅四十五間左右二割法ニ掘鑿シテ大船ノ往復ヲ得セシム。但シ現在ノ隅田川落尻ヨリ以北ハ、別ニ小船航路トシテ水深十二尺敷幅六十間ノ部分ヲ添加スベク、又將來ハ特ニ小船ノ爲メニ第三第六砲臺間ニ通ズル新航路ヲ開鑿スルノ豫定トス。

運河ノ靜穩ヲ保持スル爲ニハ、將來運河沿防波堤ヲ設クル必要アリト雖モ、第一著手トシテハ單ニ運河内ニ土砂ノ流入ヲ防遏スルヲ目的トシテ大汐干潮面以下三尺ニ達スル防砂堤ヲ築キ、防波柵ヲ設置ス。堤ハ運河ノ中心ヲ去ル六十間ニシテ之ト平行シ、前港ノ北堤ヨリ發シテ、本港ニ達ス。其長サ五千間餘ニシテ、中間數ヶ所ヲ切斷シ小船ノ出入ニ便ニスベシ。運河ノ西側ニモ亦其中心ヨリ六十間ヲ距タリ是レニ平行シテ簡單ナル防砂柵ヲ設ケ、土砂ノ運河ニ流入スルヲ防止ス。
他日運河ノ幅員ヲ増加スル必要ヲ感ズルニ至ラバ、内外防砂堤ノ間ヲ適宜掘鑿スベク、若シ尙不足アラバ、内側防砂柵ヲ移シテ容易ニ之ニ應ズルヲ得ベシ。

運河ノ掘鑿ヨリ生ズル土砂ハ、羽田及ビ芝浦ノ埋築ニ使用ス。將來運河ノ水深又ハ幅員増大ノ爲ニ生ズル土砂ハ、以テ漸次品川及大森地先ノ埋築ニ充當シ、運河ニ沿フテ廣大ナル製造工場地ヲ設クルノ豫定トス。

第三 本港

(一)本船繫泊地 月島以南隅田川落筋ノ東方一體ノ淺渚ヲ浚渫シテ之ヲ

本船繫泊地ト爲ス。其水面積凡ソ百十四萬坪ヲ算スト雖モ、先ヅ其内七十
二萬坪ヲ限リテ是レヲ大汐干潮面以下二十五尺、二十尺、及ビ十五尺ニ細
別浚渫シ、航路以外ハ適當ニ繫船杭ヲ配置シテ、優ニ本船四十隻ノ繫泊ヲ
得ベカラシム。各浚渫深ニ對スル水面積左ノ如シ。

水深二十五尺ニ浚渫	三十二萬三千坪
水深二十尺ニ浚渫	十七萬九千坪
水深十五尺ニ浚渫	二十一萬八千坪
合計	七十二萬坪

本船繫泊地ハ、北及ビ東ニ越中島地先ノ新設埋築地ヲ周ラシ、西ニハ芝浦
南ニハ舊砲臺ノ點綴アリ、加フルニ第二、第六兩砲臺ヲ連ヌルニ防波堤ノ
築造ヲ以テスルガ故ニ、大小船舶ノ繫泊極メテ安全ナルベシ。

(二)埋立地 本計畫ニヨル本港内埋築地ノ面積ハ、芝浦地先ニ於テ六十萬
坪、越中島地先ニ於テ七十四萬坪トス。其内五萬坪ハ港ノ附屬地トシテ貨
物ノ上下收容竝ニ公共用設備ノ目的ニ充ツルモ、其餘ハ普通ノ市街地ニ
編入スルヲ得ベシ。

埋立地ヲ貫通シテ縱横ニ幅員三十間又ハ其以上ノ運河ヲ設ケ、水運上無
比ノ利便ヲ舉グベク、又芝浦地先ノ埋立地ニテハ、品川驛ヨリ分岐シ、越中
島先ノ埋立地ニテハ、新設越中島線ヨリ分岐シテ、夫々鐵道線ヲ必要ノ地
點ニ延長セシムルコトヲ得ベク、道路橋梁及ビ下水設備ノ如キ、土地ノ開
發上最先ノ用アルモノハ何レモ直チニ是レヲ實施ス。

(三)繫船岸壁豫定地 繫船岸壁若クハ橫棧橋ノ築造ハ、工費經濟上今全ク
是レヲ見込マズト雖モ、港ノ發展ニ伴ヒ、必ズ近キ將來ニ於テ其必要ヲ生
ゼン。而シテ第一著手ニ是レニ應ズベキ豫定地トシテハ、芝浦地先ニハ隅
田川添筋ニ接セル海岸線延長約四百間アリ。越中島地先ニハ本船溜ニ接
セル海岸線延長約千四百間アリ。更ニ其以上ノ擴築ハ大船運河ニ沿ヘル
品川地先將來ノ埋築地ニ於テ任意ニ是レヲ求ムルヲ得ベシ。加之月島ノ
南端及ビ隣接埋築地ノ沿岸ニハ、又將來多數ノ棧橋ヲ築造シ得ベキ十分
ノ餘地アリトス。

(四)小船用船溜及物揚場 隅田川添筋ヲ距テ、本船繫泊地ト相對スル所、
芝浦地先ノ埋築地ヲ以テ安全ニ包圍サレタル二ヶ所ノ小船用船溜ヲ設

置ス。就中北船溜ハ水面積一萬七千四百坪、水深干潮以下十二尺ニシテ、現時河内ニ出入スル汽帆船ノ類ヲ收容スルヲ得ベク、周ラスニ干潮以下九尺ノ物揚場護岸ヲ以テス。此有效延長約四百間タリ。又南船溜ハ主トシテ舢舨ノ定繫地ニ充ツルモノニシテ、此水面積二萬四百坪、水深干潮面以下九尺ニシテ、周ラスニ水深六尺ノ物揚場護岸約六百間ヲ以テス。右ノ南北兩船溜ニ於テハ、物揚場ニ接シテ豫メ岸頭ニ上屋竝ニ鐵道線路ヲ配置シ、模範的ニ一部分ノ活用ヲ舉グベシ。

(五)危險物揚場豫定地 石油其他ノ危險物ヲ搭載スル船舶ハ、之ヲ第二、第六砲臺以外ニ設クベキ特別船渠ニ入ラシムベク、危險物揚場トシテハ是レニ接スル埋築地ヲ充當スルノ豫定ナリト雖モ、當初ノ工事ニ於テハ姑ク之ヲ省ケリ。

第四章 工事ノ設計

第一 突堤

突堤幹部 突堤幹部ノ構造ハ捨石直壁混成堤ニシテ、下部ハ大小ノ捨石ヲ以テ組成シ、上部ハ混凝土塊ノ疊層ヨリ成ル。

下部構造ニ用ユル捨石ハ、一個ノ重量五貫目乃至十五貫目ノモノト十五貫目以上ノモノトノ二種トシ、小石ヲ堤體ノ中心トシ、大石ヲ以テ其表面ヲ被覆ス。捨石上端高ハ波浪ノ衝擊ヨリ起ル捨石ノ移動ヲ避クル爲メ、特ニ大潮干潮平均水面以下單ニ零點ト書ス。以下十尺ニ止メ、天場幅約五十四尺兩側共一割五分ノ勾配ヲ保タシム。

上部構造ニ用ユル混凝土塊ハ、一個重量約十噸トシ、捨石上面ヲ敷均シ、更ニ袋詰混凝土ヲ布設シタル上ニ五層ノ方塊ヲ疊積シ、平均幅員二十二尺ヲ以テ零點上十尺ニ至ラシム。尙捨石上面掩護ノ爲メ、内外兩側ニ各一個ノ捨方塊ヲ置クモノトス。

突堤頭部 頭部ノ構造モ略幹部ト同一ナリト雖モ、更ニ幾倍ノ堅牢ヲ要スルヲ以テ其高及幅員ヲ増加シ、且ツ通航上必要ナル燈臺ヲ設置ス。即チ捨石上ニ外側五層ノ混凝土塊ヲ疊積シ、場所詰混凝土ヲ以テ中間ノ空虛ヲ填充シ、併セテ上層ノ胸壁ヲ築キ、以テ上部ノ構造ヲ一體ニ緊著シ、強固ナル組織ト爲ス。尙周圍ニ數層ノ捨方塊ヲ配置シ、頭部本體ヲ擁護ス。

北突堤西端頭部ハ、港門ノ如キ重大ナル工事ヲ要セザルヲ以テ、上下共突

堤幹部ノ工法ニヨリ、單ニ其幅員ヲ増加ス。
 突堤ノ施工順序ハ、先ヅ第一種捨石ヲ中央ヨリ沈下シ、漸次第二種捨石ノ沈下ニ及ボシ、終リニ上層ノ捨石ヲナス。而シテ其最上層ト雖、尙最干潮面以下十尺ニ位スルヲ以テ、捨石ハ當時底開キ石運船ヲ用ヒ沈下スルヲ得可シ、上部ノ施工ニ關シテハ、下層ノ捨石竝ニ地盤ノ沈下充分ナルヲ待チテ著手スルヲ安全トナスガ故ニ、捨石竣工後少クトモ一ケ年間波濤ノ轉動ニ委ネテ沈下ノ充分ナルヲ確メ、然ル後漸次混凝土塊ノ壘積ヲ施スモノトス。

第二 防砂堤

運河外側防砂堤 本工ハ前港ト本港トヲ連絡スル運河ノ外側ニ沿フテ施設スルモノニシテ、專ラ海底土砂ノ移動ヨリ起ル航路ノ埋没ヲ防止スルヲ以テ目的トス。其構造ハ幅一尺厚五寸長サハ海底地盤高ニ應ジテ十尺乃至三十尺餘ノ鐵筋混凝土杭ヲ間ニ四本ノ割合ヲ以テ千鳥ニ打立テ、杭頭ヲ零點上四尺ニ置キ、頭端ヨリ一尺下リニ導材ヲ取附ケ、各杭ヲ一體ニ緊束ス。同時ニ杭ヲ中心トシテ土丹岩ノ捨石ヲナス。其兩側勾配約二

割天場幅約三尺ニシテ零點下約三尺ニ達ス。尙捨石保護ノ爲メ兩法面ニ添ヒ浚渫土砂ヲ緩勾配ニ放棄スベシ。
 右ノ鐵筋混凝土防砂柵ニ添ヒ、見通杭トシテ距離十間毎ニ松丸太材打ヲ立テ、頭端ヲ零點上約八尺ノ高ニ置キ、滿潮時ニ際シ其位置ヲ明瞭ナラシム。

又本堤ノ各所ニ通路ヲ設ケ、其突端ニ特殊ノ烙印杭ヲ建設シテ、運河ヲ横斷スル小船舶ノ出入ニ便ナラシムベシ。

運河内側防砂堤 本工ハ運河ノ内側沿ニ施工スル防砂柵ニシテ、其構造ハ十數年來月島地先ヨリ舊臺場附近ニ施工セル導流柵ト略同一トス。即チ柵杭ハ末口六寸長ハ深淺ニ應ジテ二間乃至五間餘ノ防腐液注入松丸太材ヲ間ニ四本ノ割合ヲ以テ千鳥ニ打立テ、導材ヲ以テ緊結シ、柵杭兩側ニハ浚渫土砂ヲ緩勾配ニ放棄シテ、柵ノ動搖ヲ防禦ス。

烙印及見通杭ハ、總テ外側防砂堤ニ準ジ施工スルモノトス。
 本港防波堤 本防波堤ハ第二、第六舊臺場ヲ連絡シ、芝浦本港内波浪ノ平穩ヲ期スルニアリ。其構造ハ專ラ工費節約ヲ旨トシ、堤ノ中央部ハ良質ノ

浚渫土ヲ充用シ、零點上十五尺ノ高サニ埋立ツ。馬踏幅十間ニテ外側ハ甲種護岸(後説)ニ類セル工法ヲ施シ、其頂部ニ高三尺ノ混凝土小土手ヲ設ケ、内側ハ甲種護岸ニ稍々劣リタル腹附工ヲ施スモノトス。但内側護岸ハ將來危險物揚場護岸ニ利用スルノ豫定トス。

第三 各種護岸

埋立地ノ護岸ハ、是レヲ甲乙ノ二種及物揚場竝ニ木造假護岸トス。

甲種護岸 本護岸ハ比較的強烈ナル波浪ニ曝露サル、部分、即チ南突堤ニ接續スル羽田埋立地ノ南側、及越中島地先埋立地ノ東南面ニ施工ス。構造ハ大形間知石ヲ以テ一割法ニ築キ、厚三尺ノ割栗石ヲ裏込トシ、其裏面ニ更ニ厚三尺ノ粘土ヲ添充ス。基礎ハ零點以下四尺ニ根堀ヲナシ、之レニ捨石ヲ填充シ、根石ヲ裝置シ、更ニ其前面ニ捨石防禦ヲ施ス。尙埋立地内波濤ノ襲來ヲ防グ爲メ護岸上ニ高四尺ノ混凝土小土手ヲ築造ス。

乙種護岸 本護岸ハ越中島地先埋立地ノ内側及ビ芝浦埋立地最南端ニ施工スルモノニシテ、其構造ハ普通ノ空積間知石垣トシ、護岸裏面ノ埋立ハ、浚渫土中特ニ粘質ニ富ムモノヲ使用ス。基礎ハ杭打地形ヲ施シ、基礎上

端ヲ零點以下一尺トシ、間知石垣上部ニハ笠石ヲ据附クルモノトス。但本工施設豫定區域中ニシテ、在來地盤高ノ零點下ニ位スルモノアルトキハ、適宜其根入ヲ増加スルカ、或ハ捨石基礎ノ工法ニ據ルモノトス。

水深九尺物揚場護岸 本護岸ハ芝浦北小船溜船溜水深零點下十二尺護岸沿同九尺ニ浚渫ス。ノ周圍ニ施工ス。其構造ハ四尺ノ根堀ヲナシ、之ニ砂ヲ填充シタル基礎上ニ幅九尺長三十尺高十二尺ノ鐵筋混凝土潛函ヲ二十五分ノ一ノ勾配ニ沈下シ、其上面ヲ零點上三尺ニ至ラシメ、上部ニ練積間知石垣ヲ積上ゲ、干潮面上八尺ニ達スルヤ、更ニ八割勾配幅員四間ノ龜張工ヲ施シ、尙上部斜面八尺水平部三尺通り割栗石及砂利ヲ敷詰ムルモノトス。

鐵筋混凝土潛函ハ、沈下後前部ニハ混凝土ヲ、後部ニハ砂ヲ填充シ、其裏面ハ土丹岩ヲ以テ裏込ヲ施シ、又上部間知石垣部ニハ、防衝棒ヲ取附ケ、張石斜面ニハ繫船柱ヲ建テ、船舶ノ繫留竝ニ荷役ニ便ナラシム。

尙潛函ノ底部前面ハ基礎砂ノ表面ニ砂利ヲ散布シ、袋詰混凝土ヲ布設シテ船舶ノ推進器其他ヨリ起ル砂ノ移動ヲ防止スベシ。

東京築港計畫圖

縮尺
二萬九千五百分一



水深六尺物揚場護岸 本護岸ハ芝浦南小船溜(船溜)水深零點下九尺護岸沿同六尺ニ浚渫スノ周圍ニ施工スルモノニシテ其構造ハ水深九尺物揚場護岸ト同一ナルモ水深ノ差異ニヨリ潛函ノ大サヲ減ジ幅七尺五寸長三十尺高九尺ノモノヲ使用ス。

木造假護岸 木造假護岸ハ前記甲乙二種竝ニ物揚場護岸施設以外ノ部分ニ施工スルモノニシテ埋立地護岸ノ大部分ヲ占ム其構造ハ五寸角長二間半乃至三間ノ杭木ヲ延長各一間ニ付三本ノ割合ヲ以テ二列ニ打込ミ適宜亞鉛引鐵線ヲ用ヒテ後方控杭ニ緊著シ尙松角材ヲ以テ兩列ヲ結合ス杭木各列ノ間隔ハ約三尺ニシテ前後列其高ヲ異ニシ中間ニ階段ヲ附ス杭材ハ後列ニハ檜押角ヲ前列ニハ防腐劑注入松挽材ヲ張立ツルモノトス尙前列張ハ後列ニ楯板割前列ニ防腐劑注入松挽材ヲ張立ツルモノトス尙前列張板裏面ハ裏込トシテ土丹岩ヲ使用シ中間階段ハ土丹岩ヲ基礎トシテ厚約二尺ノ割栗石ヲ詰込ミ目潰混凝土ヲ填充シテ五分ノ一勾配ニ張立ツ。

在來地盤高零點下數尺ニ達スル個所ニアリテハ其深度ニ應ジテ先ツ浚



鉄道院理立地

場車停川品

川品北

川品南

標号信風暴

第一号
第二号
第三号
第四号
第五号

臺一第

臺二第

臺三第

臺四第

臺五第

臺六第

FCRT

-6'

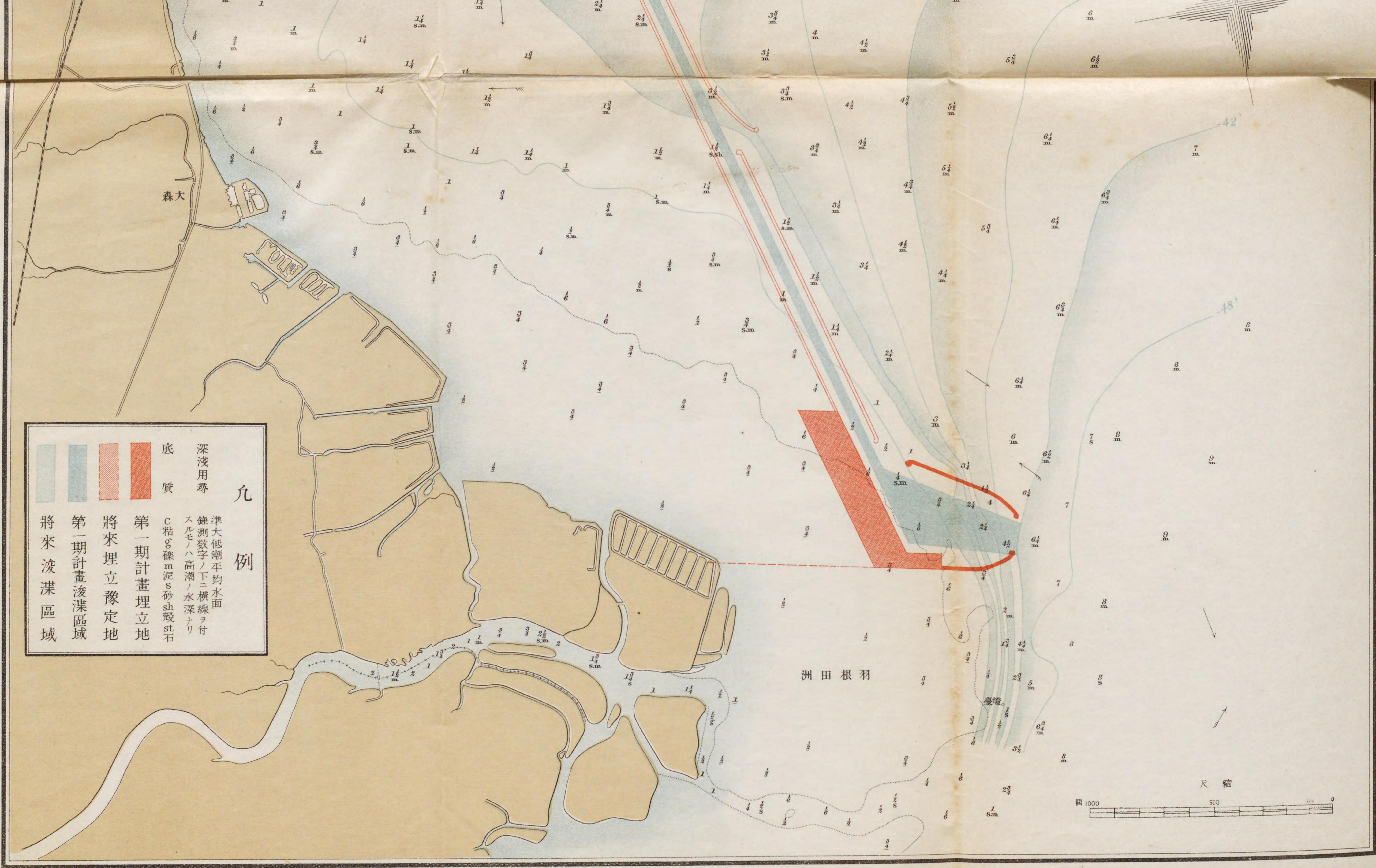
-12'

-18'

-24'

-30'

-36'



凡例

	深淺用尋	準高低潮平均水面
	底質	鐘測数字ノ下ニ横線ヲ付 スルモノハ高潮ノ水深ナリ
	第一期計畫埋立地	C粘 S礫 m泥 S砂 sh殻 st石
	第一期計畫浚渫區域	
	將來埋立豫定地	
	將來浚渫區域	

在來地盤高零點下數尺ニ達スル個所ニアリテハ其深度ニ應ジテ先ツ浚

深土中ノ良質土ヲ放棄シ、其上ニ土丹岩ヲ布キ其表面ニ割栗石ヲ捨石トシ、以テ板棚工ノ基礎ヲ形作ルモノトス。

第五章 築港利用貨物ノ豫想

現在東京市ニ出入スル海運貨物噸數ハ一ケ年平均額實ニ三百五十萬噸ヲ超ユルモノニシテ、本船トノ荷役干係上之レヲ左ノ三種ニ大別スルヲ得ヘシ。

(計數ハ凡テ日本郵船株式會社ノ調査ニ係ル明治三十六年乃至四十三年八ケ年統計ノ平均ニ依ル。)

- 一、横濱港荷役ノモノ 約二百七十五萬噸。
- 二、品川沖荷役ノモノ 約三十萬噸。
- 三、隅田河内荷役ノモノ 約四十五萬噸。
- 合 計 約三百五十萬噸。

若シ是レヲ内外國貿易竝ニ輸出入ノ區別ニヨリテ示セバ、次表ノ如シ。

東京市出入海運貨物噸數表(自明治三十六年八月平均額至明治四十三年)

區別	外國貿易貨物			內國貿易貨物			合計		
	輸出	輸入	小計	輸出	輸入	小計	輸出	輸入	小計
橫濱港荷役	三三、八五〇	八四、八六八	一〇〇、〇五五	二〇〇、五五〇	一四、九九五	一六五、〇四五	四三、三七一	二三三、八六三	二七五、一〇〇
品川沖荷役	—	—	—	五、〇〇〇	二五、〇四九	三〇、〇五八	五、〇〇〇	二五、〇四九	三〇、〇五八
隅田川内荷役	—	—	—	一、四一〇	三、九一五	五、三二五	一、四一〇	三、九一五	五、三二五
合計	三三、八五〇	八四、八六八	一〇〇、〇五五	三六、七七四	四三、九一九	八〇、七六三	六九、五五〇	二八八、八三三	三五〇、七八三

右三百五十萬噸ノ海運貨物中、橫濱港及品川沖荷役ニ屬スル三百五萬噸ノ貨物ハ、現ニ切實ニ東京築港ノ必要ヲ感ジツ、アルモノト云フ可ク、換言スレバ東京市民ガ殆ド其前面ニ森々タル海灣アルヲ忘レテ、何等是レヲ開發シ是レヲ利用スルニ意ヲ用キザル間ハ、其對價トシテ常ニ一年三百五萬噸ノ貨物ニ對シ、其輸送上ノ手數ニ於テ、其時間ニ於テ、其危險負擔ニ於テ、殊ニ其多額ノ運送費ニ於テ、莫大ノ損失ヲ引受ケツ、アルモノト云ハザル可カラズ。加之若シ從來ノ統計ニ遵ヒ外國貿易ハ十年倍加、內國貿易ハ十年三割増ノ増進率ヲ以テ將來ヲ律ス可クンバ、今ヨリ十年ノ後即チ築港工事完成ノ日ニ於テ其概數實ニ四百七十萬噸ノ多キニ達セ

ントス。豈察セザル可ケンヤ。惟フニ東京築港本來ノ價值タル、東京市自體ニ取リテハ頗ル多種多様ニシテ、一々計數ノ上ニ之ヲ明示シ能ハサルコト勿論ナリト雖モ、茲ニ先ヅ其利益ノ最モ手近キモノトシテ本市海運貿易額ノ七割八分ヲ占ムル京濱間船運送貨物ニ對シ、能ク如何ノ運賃ヲ輕減シ得可キカラ見ンニ、日本郵船株式會社最近ノ調査ニ係ルモノ實ニ左ノ如シ。

(甲)現在ノ場合(貨物一噸ニ對スル費用)
但シ橫濱ニ於ケル本船ヨリ解取(外國貨物ハ解中検査ヲ經テ)直ニ東京ニ輸送ノ場合ヲ取ル。

項目	費用	
	外國貨物	內國貨物
橫濱ニ於テ本船ヨリ解ニ積移費	〇・一三〇	〇・一二五
本船ヨリ東京迄解貨但解泊賃等ヲ見込ム	一・〇〇〇	〇・五五〇
同上解運送海上保險料(一噸ノ平均價格外國貨物ハ貳百圓內國貨物ハ百五十圓ニ對シ平均百圓ニ付拾八錢ノ割)	〇・三六〇	〇・二七〇
東京ニ於テ解ヨリ隨所ノ倉庫ニ陸揚費平均	〇・一二〇	〇・一一〇
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル金(一噸ノ平均價格同前ニ對シ外國貨物ハ所ノ倉庫ヘ倉入迄ノ日數ニ對スル金(六日間內國貨物ハ四日間日歩貳錢ノ割利見込)	〇・二四〇	〇・一二〇
合計	一・八五〇	一・一七五

(乙)東京港竣功ノ場合(貨物一噸ニ對スル費用)
 但シ東京入港ノ本船ヨリ舥取(外國貨物ハ舥中検査ヲ經テ)直ニ市内隨所ノ倉庫ヘ
 引取ノ場合ヲ取ル。

本船ノ東京回航ニ要スル船費割當 <small>(但主トシテ石炭消費高)</small>	○・〇一七	○・〇一七
芝浦本港ニ於テ本船ヨリ舥ニ積移シ費	○・一三〇	○・一二五
本船ヨリ市内ニ至ル舥賃 <small>(但舥泊賃等ヲ見込ム)</small>	○・四〇〇	○・二八〇
市内ニテ舥ヨリ隨所ノ倉庫ヘ陸揚費	○・一二〇	○・一一〇
本船荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫ヘ <small>(噸ノ平均價格外國貨物ハ貳百圓内國貨物ハ百五拾圓ニ對シ外國貨物ハ四日間内國貨物ハ二日間日歩貳錢ノ割)</small>	○・一六〇	○・〇六〇
倉入迄ノ日數ニ對スル金利息見込	○・八二七	○・五九二
合計		
	外國貨物	内國貨物

右ノ二表ヲ對比スレバ、則チ東京港ノ利用ニヨリテ現在運送費ノ輕減セラルベキモノ、
 外國貨物ニアリテハ 貨物壹噸ニ付 壹圓貳錢參厘。
 内國貨物ニアリテハ 同 上 五拾八錢參厘。
 故ニ東京築港ニ當然ノ利害關係ヲ有スル京濱間出入貨物ノ現在噸數ヲ

以テスレバ、

外國貿易貨物一年約百八萬噸ニ對スル運送費節減額 百拾萬七千圓。
 内國貿易貨物一年約百六十七萬噸ニ對スル同上 九拾七萬參千圓。
 合計一年約二百七十五萬噸ニ對スル同上 貳百八萬圓。
 即チ毎年貳百八萬圓ノ鉅額ハ、先ヅ最モ手近キ利益トシテ之ヲ東京市民ノ負擔ヨリ輕減セシムルヲ得ベク、從ツテ約四千萬圓ノ工費ヲ築港ニ投シテ可ナルノ理ナリ。現在ノ貿易噸數ニ於テ尙且ツ然リ。若シ是レニ毎年ノ貿易増進額ヲ見込マバ十年ノ後ニハ其利得恐ラク參百四拾萬圓ニ達スベキオヤ。

夫レ然リ、然カモ東京築港第一著手ノ規模ヲ以テシテハ、固ヨリ直チニ前記利益ノ全部ヲ收ムルコト能ハズ。而シテ二十五尺ノ港内水深ニヨリテ果シテ如何程ノ新港利用貨物ヲ得ベキカ、從ツテ又如何程ノ運送費ヲ輕減シ得可キカハ、之レヲ豫想スルコト容易ナラズト雖モ、假リニ

現在京濱間出入外航貨物ノ三割 三二四、〇〇〇噸。
 同上内航貨物ノ七割 一、二六九、〇〇〇噸。

合計(同上内外航貨物ノ五割四分)

一、四九三、〇〇〇噸。

ト推定スルコト、最モ穩健ナラン。何トナレバ東京仕向ケノ内貨物ニ在リテハ、之レヲ搭載船舶ノ寸度ヨリスルモ、京濱二港歴航ノ容易ナルヨリスルモ、寧ロ殆ト其全額ヲ新港ニ期待シテ可ナルベク、是レヲ七割ト見込ムハ既ニ頗ル内輪ノ計算タラン。又外航貨物ニ在リテモ税關検査ノ要ナキ東京輸出貨物ノ一半ハ勿論、輸入貨物ト雖モ現在横濱港ニ於テ大ニ通關ノ手數ヲ省略セラレツ、アル沖扱ヒ貨物(即チ本船検査ヲ許サレタル無包裝ノ大小豆小麥、食鹽、砂糖、鹽、鮭、鱒、石炭及ビ豆粕肥料ノ類若クハ舩中検査ヲ許サレタル袋入米穀各種機械類、金屬及同製品ノ類)ハ、其無包裝ナルカ又ハ重量品タルノ理由ト及ビ仕向地ノ東京ナルト通關手數ノ容易ナルトノ爲メニ、恐ラク最先ニ新港ヲ利用スベク、然カモ沖扱貨物ノ數量ハ現ニ横濱港ノ外國輸入貨物總額ノ一半ヲ占ムルモノタルニ察セバ、即チ東京仕向ケノ外國貿易貨物ニ三割ヲ見込ムノ之レ又甚ダ内輪ノ計算タルヲ知ラン。乃チ右ノ如ク極々内輪ニ之レヲ見積ルモ、水深二十五尺ノ東京港ハ、現在ノ京濱間輸送貨物ニ於テ、

外航貨物三十二萬四千噸ニ對スル運賃輕減額 參拾參萬壹千四百圓。

内航貨物百十六萬九千噸ニ對スル同上 六拾八萬千五百圓。

合計百四十九萬三千噸ニ對スル同上 百壹萬貳千九百圓。

少クトモ一年百五十萬噸ノ貨物ニ對シ、約百萬圓ノ運送費ヲ第一著ニ輕減スルヲ得ベシ。今日直ニ東京港ヲ開始スルモノトシテ尙此ノ如シ、若シ之レニ工事竣功迄ノ十年間ノ貿易増進歩合ヲ見込マバ、其額恐ラク二百十七萬噸百五拾五萬圓ニ上ラン。況ヤ事實ニ於テハ港内二十五尺ノ水深ヲ以テスルモ現ニ横濱入港船舶ノ九割ヲシテ是レヲ利用セシメ得可キ筈ナルヲ以テ、若シ能ク内ニ港務ノ熟練ト外ニ聲價ノ發揚トヲ俟タバ、比年ナラズシテ其成績遙ニ豫期以上ニ達スベキコト殆ド之レヲ疑フノ餘地ナキオヤ。

加之東京港ヲ利用スベキモノハ前記横濱港荷役ノ分ヲ除キテ別ニ品川沖荷役三十萬噸、及隅田河内荷役四十五萬噸ノアルアリ。現ニ風濤ノ危險ヲ冒シテ品川沖合敷湊ノ地點ニ假泊シ、辛フジテ舩荷役ニ從ヒツ、アル一年四百隻ノ船舶諸掛費ト及ビ其貨物運送費トニ察セバ、其利ノ存ス

ル所又頗ル明白ナリ、尾城汽船會社ノ調査ニ依レバ雜貨一噸ニ對スル運送費ノ對照左ノ如シ。

現在(品川沖ニテ解取リ日本橋深川等迄ノ運搬費)	〇・二五〇
品川沖ヨリ市内迄ノ解賃	〇・五五〇
合 計	〇・八〇〇

(將來)芝浦本港ニテ解取リ日本橋深川等迄ノ運搬費	〇・一八〇
市内迄解賃	〇・四〇〇
合 計	〇・五八〇

即チ雜貨一噸ニ付貳拾貳錢ノ運送費節約ヲ得ベク、此額又一年六七萬圓ニ達スベキナリ。

第六章 結論

東京港ノ開始ト共ニ京濱間解舟運送貨物ノ半數若クハ其以上ニ一大革新ヲ生ズベキノ事理極メテ明白ナルコト既ニ述ブルガ如シ。然レドモ若

シ右ノ状態ヲ目シテ直チニ東京港ハ横濱港ト競争ノ位置ニ立ツモノト爲サンハ之レ謬レルノ甚シキモノナリ。蓋シ二港ハ明カニ其立場ヲ異ニス。即チ彼ハ世界交通線上ノ要樞ヲ占メテ著々國際貿易上ノ利益ヲ收ムルニ宜シク、我ハ僅ニ地理上ノ不便ヲ冒シテ自家生産消費ノ用ヲ辨シ、若クハ延イテ東北地方ニ其利ヲ均霑セントスルニ過ギズ。二者ノ特色ハ著シク異レリ、其利害ニ何ノ衝突カアラン。殊ニ現在ノ所謂横濱築港竝ニ東京築港ノ如キ設備ヲ以テシテハ、縦シヤ此兩者ノ力ヲ合スモ尙遙ニ海外一港ノ規模ニダモ及バズ、奈ンゾ能ク海運上今日必須ノ要求ヲ満足セシムルニ足ランヤ。況ヤ以テ貿易發展ノ趨勢滔々トシテ止マザル將來ノ用意ニ後レザラントスルオヤ。

人多クハ國家ガ横濱港ノ爲ニ投ゼシ多年ノ經費ト及ビ近時ノ經營ニ係ル同港ノ岸壁設備トニ見テ、直チニ東京築港ノ無用ヲ説ク。然カモ之レ該岸壁一千間ノ活用ガ現時ハ多クモ一年四五十萬噸ノ荷役ヲ超エズ。縱令將來機能ノ圓熟ト船繰リノ敏活トヲ十分ニ豫想スルトモ、亦恐ラク一年百萬噸ヲ上ル能ハザル所以ヲ知ラサルニ因ル。一年四五十萬噸ノ荷役ト

ハ之レ横濱港現在ノ外國貿易總額ヨリ東京仕向ケノ噸數ヲ除キシ同港固有ノ外國貿易額(八ヶ年ノ平均ニヨレバ四十六萬九千九百三十一噸)ニ一致スルモノニ非ズヤ。即チ將來一年百萬噸ノ荷役ヲ實現シ得ルノ時ハ、又恐ラク同港固有ノ外國貿易貨物ガ漸進シテ百萬噸ニ達スルノ時ナラザランヤ。況ヤ横濱港ニハ現在別ニ其固有ノ内國貿易額七十萬噸ノアルアリ、然カモ是レニ對シテハ尙依然タル舳舻荷役ノ外未ダ何等ノ設備ヲモ存セス。夫レ此ノ如シ、然カモ以テ横濱港ハ特ニ京濱間輸送ノ二百七十五萬噸ニ對シ從來何等カノ餘惠ヲ附與シタリト云フヲ得ベキカ。

横濱港ノ岸壁設備工事ニ對スル古市博士ノ計畫説明書ニ曰ク、横濱港ノ設備ト規模ノ大小ハ、東京灣築港問題ノ落著ヲ俟チテ初メテ決定スルヲ得可キモノナリ。案ズルニ東京灣築港ノ問題ハ單ニ時機ノ問題タルニ過ギズ、其他日決定セラルベキハ勿論ナルベシ。人口百二十萬以上ヲ有スル一大都會ニシテ海ニ臨ミ、其海路ニ依リ、出入スル貨物モ現ニ一年二百萬噸ヲ超過スルニ拘ラズ、永ク此問題ヲ抛擲シ去ル如キハ、決シテ文明國ニ見ル可カラザル現象ナリ。横濱東京ノ關係既ニ右ニ述ブルガ如クナレバ、

今直チニ横濱港ノ現狀ヲ基礎トシ岸接繫船ノ規模ヲ定ムルハ大ニ過ク
ルノ虞アリ。詳説スレバ横濱港外國貿易一年百十萬噸ノ貨物ハ、概シテ大
船巨舶ノ輸送ニ係ルモノナレバ、最モ岸繫荷役ニ依ルヲ適當トスレドモ、
右百十萬噸ノ内ニ凡ソ七十萬噸ハ東京ニ於テ荷役スベキモノト見做シ
テ可ナリ。差引殘四十萬噸ノ内、石油ノ如キハ岸繫荷役ヲ許サ、ルヲ以テ、
其昨年ノ輸入高十五萬餘噸ヲ控除スレバ、殘ル所ハ二十五萬噸ニ過ギズ。
故ニ今日ニ在リテ岸接繫船所ノ規模ヲ定メンニハ先ヅ二十五萬噸ヲ以
テ計算ノ基礎トシ、將來ノ増加ヲ推測シテ、之ヲ計畫スルヲ穩當ナリトス。
云々(横濱税關設備工事報告書ニ據ル)即チ之レニ依ルモ、横濱港現在ノ設
備ハ、畢竟東京築港ノ成ルヲ豫期シテ之ト衝突セサル程度ニ計畫セラレ
タルモノニシテ、政府モ亦其當時既ニ之レヲ認メテ工事ニ著手シタリシ
ヲ知ルベシ。彼ノ横濱築港ノ名ニ眩惑セラレテ濫リニ其價値ノ廣大ナル
ヲ夢想シ、強テ東京築港トノ施設ノ重複ヲ憂フルガ如キ以テ謬レルヲ知
ラン。

今日ノ横濱港ハ右ノ如ク單ニ同港固有ノ外國貿易貨物ニ對スル荷役方

法ヲ改善スルニ忙殺セラレツ、アルニ止マリ、噸數ニ於テ是レガ一倍半ヲ占ムル同港固有ノ内國貿易貨物ニ對シテハ、解舟荷役以外未ダ何等ノ設備ヲダモ有セザルナリ。況ヤ東京ニ對シテ輸送サル可キ他ノ二百七十五萬噸ノ大貨物ニ對スルモノオヤ。人ハ横濱港ニ多額ノ經費ノ投セラレタルヲ云フモ、然カモ京濱間輸送ノ貨物ニ在リテハ其間曾テ何等ノ餘澤ヲ享ケタルコトナク、依然トシテ沖荷役解運送ノ舊態ヲ繰返ヘセルニ過ギズ。又縦令ヒ横濱港ニ於テ是等ノ貨物ニ對シ何等カノ設備ヲ施シ、其便宜ヲ計ラント欲スルモ、ソハ遂ニ無效タルベシ。何トナレバ是等ノ貨物ハ棧橋又ハ岸壁ヲ利用シテ横濱港内ノ倉庫ニ收容サレ、若クハ鐵道ノ便ヲ藉リテ陸路運送ニ附セラルヘキ性質ノモノニハ非ザルナリ。第一ニ海陸兩路運送費ノ差異(日本郵船株式會社ノ調査ニ依レバ、此差貨物一噸ニ付キ實ニ七拾參錢ヲ示ス)ト第二ニ東京市内各所ニ散在セル倉庫地ノ關係トハ、到底解舟直送以外ニ其方法ナキヲ示サバランヤ。此故ニ縱シ横濱港ノ經營ニ巨額ノ國費ノ投セラレントスルモ、ソハ畢竟横濱港固有ノ立場ニ應ジテ專ラ大船巨舶ノ出入ト船客上下ノ利便トノ爲メニ必要ノ設備

ヲ修メ又ハ修メントシツ、アルニ止マリ、彼ノ京濱間水路運送ノ方法ニ至リテハ、明治ノ初年ト今日トニ於テ何等變化ノ跡ナキハ勿論、縦令將來同港ニ如何ニ大設備ヲ施ストモ、以テ之等ノ貨物ヲ其勢力下ニ吸收シ、若クハ新ニ多少ノ利便ヲ附與セシムルガ如キハ斷ジテ能ハザル所ナリ。即チ東京築港ハ、然カク不運ナル解舟運送貨物二百七十五萬噸ニ對スル唯一ノ根本的解決方法タリ。是レアリテカ始メテ能ク横濱港ノ及バザル所ヲ備フヲ得可ク、是レヲ外ニシテハ到底彼ノ大貨物輸送上ノ經濟的利盆ヲ擧グルニ由ナシ。之レヲシモ尙濫リニ稱シテ其爭ヒハ同一ノ目的ニアリ、一ノ立ツ所以ハ即チ直チニ他ノ亡フル所以ナリト爲スカ。何ゾ其思ハザルノ甚シキヤ。夫レ二港各其利トスル所ニ立チテ、爾今專ラ其必要トスル施設ニ全力ヲ傾倒センモ、未ダ以テ彼ノ歐米一港ノ規模ニスラ容易ニ及ビ易カラズ。然ルヲ況ヤ一以テ他ニ代ヘ、又ハ一以テ他ヲ蔽ヒ得可シト爲スオヤ。之レ其力ニ於テ堪ヘズ、又其時ニ於テ忍ブ可カラザルヲ如何。加之東京港ハ經費ノ關係上當初ヨリシテ直チニ右ノ二百七十五萬噸ヲ吸收シ得ベキ設備ヲ構ヘントスルモノニ非ズ。即チ目的トスル處ハ只僅

ニ其半數約百五十萬噸ニ止マリ、然カモ今後十年ヲ要スル築港工事完成ノ日ニ於テハ、右百五十萬噸自體ノ遞増額約二百十七萬噸ノ應接ニ相當多忙ノ港タルヲ得ルナリ。而シテ同時ニ横濱港モ亦自家固有ノ貿易額ト及ビ前記一半ノ貨物ニ對スル自然遞加ノ步調ニ適應センガ爲ニハ、其經營上今後倍々努力ヲ要スルモノアリ。況ヤ其間ニハ近ク巴那馬運河開始ノ影響殆ド豫測シ難キモノアリ。二港ノ力ヲ協セテ尙足ラザルコト實ニ此ノ如シ。然ルヲ敢テ東京港ノ無用ヲ説クハ、之レ抑モ横濱港ノ實狀ヲ察セズ、併セテ時勢ノ要求ヲ無視スルモノト云フベシ。夫レ然リ而シテ東京築港ノ目安ハ差詰メ前記ノ二百十七萬噸ニアリ。爲メニ生ズル京濱間運送費ノ節減額一年約百五拾五萬圓ニ達スルヲ知ラバ、則チ理ニ於テ此利益ヲ目的トスル貳千萬圓ノ工事ヲ起スニ何ノ不利カアラン。但シ此利益ハ固ヨリ擧ゲテ東京市民一般ノ利得ニ歸スベキモノナルガ故ニ、茲ニ築港工費ノ回收ニ關シテハ宜敷別ニ積フル所無カル可カラズ、之レ本計畫ニ於テ寧ロ築港附帶ノ利益タルベキ埋築地ノ擴大ト利用トニ多大ノ注意ヲ拂ヒ、是レガ賣却竝ニ貸附處分ヲ以テ公債償還ノ主タル財源ニ充テ、

一方彼ノ出入貨物ニ轉課サルベキ船舶入港料ノ如キハ極メテ低率ニ止メテ足レリト爲ス所以ナリ。

人或ハ大阪築港其他ノ事例ヲ引イテ埋築地ヲ償還財源ニ充ツルノ不安ナルヲ難ゼン。然カモ之レ大阪、熱田、宇品等ノ築港埋築地ト現在市街地トノ間ニハ、何レモ廣大ナル水田ヲ存シ、爲メニ其開發容易ナラザル所以ニ想到セザルモノナリ。即チ本計畫ニ於ケル羽田地先ノ埋築地ナラバ知ラズ、苟モ芝浦若クハ越中島地先ノ如ク直接東京市ノ中心區ニ隣接セルモノヲ以テ、前者ト一律ニ見做スノ不當ナルハ固ヨリ、茲ニハ運河縱横ノ便アリ、鐵道ノ連絡ノ利アリ、況ヤ駁々タル帝都膨大ノ氣運ヲ負フテ恰モ其發展ノ進路ニ當リ、且ツハ法律ニヨル五十年以内ノ免租地ニシテ、然カモ別冊公債計算書ノ示スガ如ク、其賣却單價ヲ一坪貳拾五圓貸付單價ヲ最高一坪一年四圓未滿ト見込メルニ過ギズ。加之其處分完了ノ爲メニハ賣却ニ築港完成後ノ十ヶ年、貸附ニ六ヶ年ノ長期ヲ豫想セルオヤ。夫レ東京市ハ其前面直チニ海ヲ控ユルノ都市タリ。即チ首都一半ノ經營ハ宜敷海ノ利用ヨリシテ著眼サレザル可カラズ。而シテ海ノ利用ノ大ナルモノ

船舶出入ノ利便ヨリ先ナルハアランヤ。茲ニ大船ノ出入ヲ得テ初メテ水ノ都ノ眞面目ヲ發揮スベク、茲ニ築港ノ規模定マリテ初メテ爾他諸般ノ計畫ヲ確立スルヲ得ベケン。之レ理ニ於テ然リ、況ヤ事實ニ於テハ築港ノ體ノ寧ロ甚ダ有利的ナルアリ。加之茲ニハ全然市税ノ補助ヲ豫期セズ、又不幸ニシテ國庫ノ補助ヲ受クル能ハザルトモ、猶ホ能ク以テ第一著手ノ工事ヲ遂行シ、更ニ其利得ニ基キテ第二次第三次ノ擴張ヲ施シ得可カラントス。之レヲシモ尙危ムベシトシテ市自ラ何ノ爲ス所ナク、徒ラニ數多ノ計畫ヲ死藏シテ止マンカ、時勢ノ趨ク所著々トシテ他ノ先鞭ヲ著クルニ甘ンジ、遂ニ本市ヲシテ市自體ノ利用スベキ海面無キニ至ラシメンモ亦知ル可カラザルナリ。

附 錄

- 一、東京輸出入海運貨物及船舶統計表
- 二、東京 築港沿革概要

東京輸出入海運貨物及船舶統計表目錄

目 錄

- 一、橫濱港ニ於ケル外國貿易貨物輸出入噸數調査表
- 二、橫濱港ニ於ケル内國貿易貨物輸出入噸數調査表
- 三、東京内國貿易輸出入貨物噸數表
- 四、橫濱港外國貿易船入港表
- 五、橫濱港内國貿易船入港表
- 六、橫濱港内外國貿易船入港總計表
- 七、東京河内並ニ品川入津船舶調表
- 八、橫濱入港最大船舶表
- 九、品川及河内入津最大船舶表
- 十、築港竣功後内外國貿易貨物ニ對スル荷役費節減額比較表
- 十一、築港ノ場合外航貨物ニ對スル經費節減内譯表
- 十二、築港ノ場合内航貨物ニ對スル經費節減内譯表
- 十三、東京橫濱間往復ノ舢艀並ニ曳船小蒸汽船調査表
- 十四、東京輸出入外航貨物重要品別噸數調査表
- 十五、東京輸出入内航貨物重要品別噸數調査表

於ケル外國貿易貨物輸出入噸數調査表

本表ハ過ル八年間橫濱港ニ於テ積卸ヲ爲セル外國貿易貨物ノ噸數統計ヲ示スモノニシテ、其内水路ニ依リテ東京ニ輸出入シタル貨物ノ一ケ年平均ハ、同港輸出入全體ノ一ケ年平均ニ對シ、輸出ニ於テハ其五割七分弱

ヲ占メ、輸入ニ於テハ其七割四分強ヲ占ム。其他京濱兩地間ノ舁輸送ヲ避ケ、汽車便ニ依リシ貨物ハ、其數量尠ナカラザルベシト雖モ、調査困難ニシテ數字ヲ以テ現シ難ク、是等陸路ヲ取リ、横濱ヲ經由シタル外航貨物ハ、皆ナ横濱輸出若シクハ横濱輸入欄内ノ數字中ニ包含ス。

年次名稱	輸 入		輸 出	
	東京ヨリ舁取ニテ來著直ニ本船ヘ積移高	東京ヨリ來航一且横濱上屋經由	水路東京輸出貨物合計	横濱輸出貨物但シ水路東京輸出貨物ヲ除ク
三十六年	九五、一六三	五、三三八	一四六、五一一	一一九、一八三
三十七年	八六、七七三	五、二六九	一三九、四六八	一一二、九五四
三十八年	一四一、九三七	五、七五八	一四九、五二〇	一三四、三五九
三十九年	二二一、三三九	六、七一九	二九〇、二二九	一八四、〇七八
四十年	二二六、五二九	六、七一九	二八三、七二七	二二二、六八三
四十一年	一七四、六二四	六、二二三	二三六、八五二	一九三、一六三
四十二年	一八一、九一一	六、八二七	二五〇、一八九	二〇四、八三五
四十三年	二二二、五九四	七、五七六	三〇八、三五五	二二七、八九二
一ヶ年平均	一六七、六〇七	六、四二四	二二一、八六五	一七四、九七三
總計				四〇六、八二八

年次名稱	總計		水路東京輸出貨物合計		横濱港輸出貨物總計	
	本船ヨリ舁取ノ儘東京輸入高	横濱陸揚更ニ舁ニテ東京輸入高	水路東京輸出貨物合計	但シ水路東京輸出貨物ヲ除ク	横濱港輸出貨物總計	但シ水路東京輸出貨物ヲ除ク
三十六年	五八、三三六	三七、三〇六	九五四、六四四	二〇八、九六六	一一、六三三	一、一六三
三十七年	四一、四七三	三六、四七二	七七九、三九四	二三四、三三五	一〇、一三三	一、〇一三
三十八年	四一、三八二	六二、三六六	一、〇三七、四三六	一九七、二八五	一一、三四七	一、一三四
三十九年	三〇一、八四三	四三、〇五六	七三一、八九九	一七〇、〇二八	九〇、一九二	九〇、一九二
四十年	四七八、九八一	三六、五七〇	八四四、六八三	三九五、一三六	一一、三九八	一一、三九八
四十一年	四一五、五六六	四六、三六一	八七九、一八一	四三六、七六九	一一、二五九	一一、二五九
四十二年	四〇二、八七四	四〇、八七一	八一、五九〇	三七〇、七七二	一一、八二二	一一、八二二
四十三年	三九二、五七五	三五、八一八	七五〇、七五九	三四六、三八五	一〇、九七一	一〇、九七一
一ヶ年平均	四二五、三四〇	四三、三五六	八四八、六九八	二九四、九五九	一一、四三三	一一、四三三
總計						

於横濱港ニ内國貿易貨物輸出入噸數調査表

本表ハ過ゲル八年間横濱港ニ於テ積卸ヲ爲セル内國貿易貨物ノ噸數統計ヲ示スモノニシテ、其内水路ニ依リ東京ニ輸出入シタル貨物ノ一ヶ年平均ハ、同港輸出入全體ノ一ヶ年平均ニ對シ、輸出ニ於テハ其六割四分強ヲ占メ、輸入ニ於テハ其七割二分強ヲ占ム。其他本表中横濱輸出若クハ横濱輸入欄内ノ荷物ニシテ別途淨便ニ依リテ東京ヨリ又ハ東京ヘ輸送セラレタルモノ其數尠ナカラザル可シ。

Table with columns for Year (年次), Name (名稱), Direction (輸出入), and Total (合計). Rows include years from 1901 to 1904 and averages, with sub-columns for 'From Tokyo' (東京ヨリ) and 'To Tokyo' (東京ニ).

東京内國貿易輸出入貨物噸數表

Large table with columns for Year (年次), Port (埠頭), and Cargo Type (貨物). Rows include years from 1901 to 1904 and averages, with sub-columns for 'From Tokyo' (東京ヨリ) and 'To Tokyo' (東京ニ).

平均年	輸		入	
	汽船卸	帆船卸	汽船卸	帆船卸
四十一年	一八二,〇六八	—	五七,七〇〇	—
四十二年	一四〇,〇二二	—	三六,〇七七	—
四十三年	一八〇,五六六	七〇	三八,四〇〇	—
平均年	二〇〇,五五九	九	五二,五〇〇	—

入

平均年	内		外航貨物		總計
	汽船卸	帆船卸	汽船卸	帆船卸	
三十六年	一五七,三九六	—	九五,四〇四	—	三二六,九〇〇
三十七年	一三〇,四九二	—	七九,九〇四	—	二六〇,三九六
三十八年	一三六,六二二	—	一〇七,七〇三	—	三〇〇,三二五
三十九年	一六五,〇六六	—	七三,一八九	—	三〇〇,二六五
四十年	一六四,〇九七	—	八四,四六三	—	三〇〇,五六〇
四十一年	一五〇,一七四	—	八七,一八一	—	二八八,五五〇
四十二年	一三〇,一三三	—	八二,五五〇	—	二六二,七五二
四十三年	一四九,五七五	—	七五,〇七六	—	二七九,七〇〇
平均年	一四九,五五六	—	八四,八六八	—	二八八,二八二

平均年	總計		内		外航貨物		總計
	汽船積	帆船積	汽船積	帆船積	汽船積	帆船積	
三十六年	一七〇,〇二二	—	一〇一,四五六	—	一〇一,四五六	—	一七〇,〇二二
三十七年	一四八,八七七	—	八四,〇一一	—	八四,〇一一	—	一四八,八七七
三十八年	一六九,二六九	—	九八,九〇九	—	九八,九〇九	—	一六九,二六九
三十九年	一八五,六六〇	—	一〇二,九七五	—	一〇二,九七五	—	一八五,六六〇
四十年	一八三,三〇一	—	一〇四,八八七	—	一〇四,八八七	—	一八三,三〇一
四十一年	一七二,七八二	—	九八,八五五	—	九八,八五五	—	一七二,七八二
四十二年	一六八,二二六	—	一〇二,九七五	—	一〇二,九七五	—	一六八,二二六
四十三年	一六三,六三三	—	一〇二,九七五	—	一〇二,九七五	—	一六三,六三三
平均年	一六七,〇七二	—	一〇二,九七五	—	一〇二,九七五	—	一六七,〇七二

横濱港外國貿易船入港表

本表ノ噸數ハ登簿噸數ニ依リ一回ノ入港ヲ以テ一艘ト算ス。

年	汽船		帆船		總計	
	艘數	噸數	艘數	噸數		
三十六年	六	四三	六	二五七	一二	二六〇
三十七年	三〇	四五一	二四	三五一	五四	七六六
三十八年	五五	六〇〇	二七	三九〇	八二	九九〇
三十九年	六五	六〇〇	一〇	三九〇	七五	九九〇
四十年	四〇	四〇一	三	二七	四三	四二八
四十一年	四一	四〇六	三	二七	四四	四三三
四十二年	四一	四〇一	三	二七	四四	四三三
四十三年	四一	四〇六	三	二七	四四	四三三
平均年	二〇	三〇七	四	二九	二四	三三六

年	汽船		帆船		總計	
	艘數	噸數	艘數	噸數		
三十六年	二	三九	三	二二	五	六一
三十七年	七	二八	二	一〇	九	三八
三十八年	三	一九	一	五	四	二四
三十九年	四	二二	一	五	五	二七
四十年	二	一四	一	五	三	一九
四十一年	三	二七	一	五	四	三二
四十二年	三	二六	一	五	四	三一
四十三年	四	二四	一	五	五	二九
平均年	二	一八	一	五	三	二三

東京河内入津船舶調表

年次	汽船		帆船		和船合ノ子船		合計	
	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	噸數
三十六年	三八七六	二六六一四六	三三六五	三〇八四九六	二一八九	四四九一二	九四三〇	六一九五五四
三十七年	三五三六	二五六七二四	三三四八	三一八一八七	二〇九一	四三〇〇八	九〇六七	六一七九一九
三十八年	三七八一	二七七五五四	三六〇六	三三〇七七六	二〇二四	四三九六四	九四一一	六五二二九四
三十九年	四四七七	三三〇八七六	三四六八	二九七一六二	二一〇九	四四八八一	一〇〇五四	六七二九一九
四十年	五二一九	六〇〇九七三	二〇三七	二五二〇二四	二一三六	四六四六六	一〇、三九四	九〇九四六三
四十一年	四九六三	五三六九一五	二七三〇	二二二九〇〇	一、八一八	四八七九九	九、九二九	八一八六一四
四十二年	四一九二	五三〇八七三	三二五〇	二五二、九八三	一、七九〇	五九六七五	九、二六〇	八四三、五三一
四十三年	三、九四九	五一九、三五九	三〇二五	二四三、八七〇	二、〇四九	五六、〇一三	八、七六四	八一九、四三二
一ヶ年平均	四、二四九	四一六、二七八	三、二四〇	二七九、五五〇	二、〇四九	四八、四六五	九、五三九	七四四、一九二

東京品川入津船舶調表

年次	汽船		帆船		合計	
	艘數	噸數	艘數	噸數	艘數	噸數
三十六年	一六六	一一〇、九四六	一七三	二五、四六三	三三九	一四六、四〇九

横濱入港最大船舶表

年次	船名	船主	登簿噸數	長さ	幅	空船吃水	載貨吃水
三十七年	一七七	一〇六、〇九八	一六四	二三、九九六	三四一		一三〇、〇九四
三十八年	一八一	一一、〇〇八	九〇	一四、五八五	二七一		一二六、五九三
三十九年	三〇四	二〇、〇四三	九七	一〇、六八〇	四〇一		二二、七二三
四十年	三九三	三九八、九二八	四四	七八六三	四三七		四〇六、七七一
四十一年	三三二	三二、一八二	二〇	三、〇三六	三五二		三、四二二八
四十二年	四〇六	五二、六五〇	二	四九九	四〇八		五三、二四九
四十三年	四〇四	五二、七一七三	一	二〇〇	四〇五		五二、七三七三
一ヶ年平均	二九五	二八七、六二九	七四	一〇、七九〇	三六九		二九八、四一九

日本船

年次	船名	船主	登簿噸數	長さ	幅	空船吃水	載貨吃水
三十六年	安藝丸	日本郵船株式會社	六、四四四	四五、三〇〇	四七、六〇	一四、〇〇	二五、六〇
三十七年	同	同	三、九九五	同	同	同	同
三十八年	信濃丸	同	六、三八七	四五、四〇〇	四七、五〇	一四、〇〇	二五、六〇
三十九年	丹後丸	同	七、四六三	四五、六四〇	四七、五〇	一四、〇〇	二五、六〇

帝都時代ノ港灣

四十年	天洋丸	東洋汽船株式會社	一三四五四	五六〇〇	六一〇〇	一八九〇
四十一年	同	同	七二六五	同	同	三二〇〇
四十二年	同	同	同	同	同	同
四十三年	同	同	同	同	同	同

外國船

三十六年	サイベリア號	太平洋汽船會社	一五二八四	五五一七〇	六三二〇	三〇〇〇
三十七年	マンチュリア號	同	一三六三五	六〇〇〇	六五三〇	三三〇〇
三十八年	ミネソタ號	大北鐵道汽船會社	二〇七二八	六二二〇〇	七三三〇	三六〇〇
三十九年	同	同	一三三三三	同	同	同
四十年	同	同	同	同	同	同
四十一年	同	同	同	同	同	同
四十二年	同	同	同	同	同	同
四十三年	同	同	同	同	同	同

品川及河内入津最大船舶表

品川沖

三十六年	福井丸	右近權左衛門	四二八九	三七三九〇	四三〇〇	一一三〇
三十七年	神州丸	岸本兼太郎	三〇八七	三三九三五	四二〇〇	二四〇〇
三十八年	第二〇觀音丸	緒明菊三郎	二四九九	三三六〇七	三六一〇	一四一〇
三十九年	錦江丸	合資辰馬本家回漕部	一五八九	三〇六五〇	三五六〇	一三〇〇
四十年	千代丸	緒明菊三郎	一四三三	三三二八〇	四〇二五	一〇九〇
四十一年	同	同	二〇七七	同	同	二五三〇
四十二年	同	同	同	同	同	同
四十三年	御吉野丸	廣海仁三郎	三二九六	三七五八〇	四四〇〇	一一〇〇

(本表ノ各船ハ皆帆船ナリ)

三十六年	東丸	辰馬與平	五三〇	一四三六〇	二九一五	一四〇〇
三十七年	同	同	四八九	同	同	同

帝都時代ノ港灣

三十七年	經基丸	井上市兵衛	四三〇	一八六五	二七八五	一五八〇
三十八年	同	同	四三〇	同	同	同
三十九年	第二號榮壽丸	村瀬寅之助	三六九	一三〇〇	三一六〇	九六〇
四十年	東丸	田代三吉	四四七	一四〇七六	二九一〇	一六三〇
四十一年	十日丸	池川力太郎	四九七	一一九〇	二二七〇	一〇六〇
四十二年	安全丸	中村三之丞	二九一	一一四〇〇	二四〇〇	一〇六〇
四十三年	歡見丸	同	三〇三	一四〇四〇	二二九〇	一三三〇

築港竣功後内外貿易貨物ニ對スル荷役費節減額比較表

本表ハ輸入荷物ニ對スル經費ノ調査ナリ。輸出荷物ニ對スル費額ハ荷役方法大體其軌ヲ一ニスルヲ以テ便宜上省略シタリ。尙本表ハ東京築港内ニ税關ヲ設ケラル、モノトシテノ計算ナリ。

種類	區	別	現在	將來	差引減
外	(一)	現在ニ於テハ横濱税關岸壁荷役ノ上水路東京へ輸送ノ場合	四(横濱)	四(東京築港)	四
		將來ニ於テハ東京築港内本船ヨリ舢取一旦税關ニ陸揚ノ上水路	一・九六〇	一・二〇七	・七五三
		市内隨所ノ倉庫へ舢取ノ場合			

航貨物	航貨物	航貨物
内航貨物	(二)	(三)
	現在ニ於テハ横濱港内本船ヨリ舢取舢中検査ヲ經テ水路東京へ輸送ノ場合	現在ニ於テハ横濱税關岸壁荷役ノ上陸路東京へ輸送ノ場合
	一・八五〇	二・二四〇
	・八二七	一・四九七
	一・〇二三	・七四三
		一・一七五
		・五九二
		・五八三

築港ノ場合外航貨物ニ對スル經費節減額内譯表

本表ハ輸入荷物ニ對スル經費ノ調査ナリ。輸出荷物ニ對スル費額ハ大抵之ト其軌ヲ一ニスルヲ以テ便宜上省略シタリ。尙本表ハ税關モ東京築港内ニ設ケラル、モノトシテノ計算ナリ。

名	稱	内譯	合計
(一)	横濱税關岸壁荷役ノ上水路東京へ輸送ノ場合	円	円

(在 現)

横濱ニ於テ本船ヨリ直接税關構内へ陸揚費	・一三〇
同税關構内倉入仕分積付人足賃	・一二〇
同税關上屋使用料(平均二日ト見)	・〇四〇
同税關ヨリ船ニ積移費	・一二〇
横濱税關ヨリ東京迄船賃(但シ泊賃等ヲ見込ム)	・七五〇
同上船運送海上保険料(シ平均百圓ノ平均價格ニ對)	・三六〇
東京ニ於テ船ヨリ隨所ノ倉庫ニ陸揚費	・一二〇
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積	・三二〇
(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對)	
(シ八日間ノ日歩貳錢ノ割)	
合 計	一・九六〇
(二) 船取船中検査ヲ經テ水路東京へ輸送ノ場合	
横濱ニ於テ本船ヨリ船ニ積移費	・一三〇
本船ヨリ東京迄船賃(但シ船中検査其他ノ爲メ船泊賃等ヲ見込ム)	・一〇〇〇
同上船運送海上保険料(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對)	・三六〇
東京ニ於テ船ヨリ隨所ノ倉庫へ陸揚費平均	・一二〇
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積	・二四〇
(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對)	
(シ六日間ノ日歩貳錢ノ割)	
合 計	一・八五〇
(三) 横濱税關岸壁荷役ノ上陸路東京へ輸送ノ場合	

横

横濱ニ於テ本船ヨリ直接税關構内へ陸揚費	・一三〇
同税關構内倉入仕分積付人足賃	・一二〇
同税關上屋使用料(平均二日間ト見テ)	・〇四〇
同税關構内ヨリ新橋迄汽車賃	・五五〇
税關構内及新橋ニ於ケル汽車積卸並ニ發著手数料共	・五〇〇
新橋ヨリ隨所ノ倉庫ニ引取賃平均	・七〇〇
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積	・二〇〇
(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對)	
(シ五日間ノ日歩貳錢ノ割)	
合 計	二・二四〇
(四) 船取一旦横濱税關ニ陸揚ノ上水路東京へ輸送ノ場合	
横濱ニ於テ本船ヨリ船ニ積移費	・一三〇
同上本船税關間船賃	・二三〇
同上船ヨリ税關構内へ陸揚費	・一二〇
同上税關上屋使用料(平均二日間ト見テ)	・〇四〇
同上税關ヨリ船ニ積移シ費	・一二〇
横濱税關ヨリ東京迄船賃(但シ泊賃等ヲ見込ム)	・七五〇
同上船運送海上保険料(シ平均百圓ノ平均價格ニ對)	・三六〇
東京ニ於テ船ヨリ隨所ノ倉庫ニ陸揚費平均	・一二〇
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積	・二〇〇

著	船	將
<p>(一)噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ九日間ノ日步貳錢ノ割</p> <p>合 計</p> <p>(五) 舁取一旦横濱税關ニ陸揚ノ上陸路東京へ輸送ノ場合</p> <p>横濱ニ於テ本船ヨリ舁ニ積移費</p> <p>同本船税關間舁賃</p> <p>同舁ヨリ税關構内へ陸揚費</p> <p>同税關上屋使用料(一日一噸貳錢平)</p> <p>同税關ヨリ停車場迄ノ陸送及其他ノ經費</p> <p>横濱東京間汽賃</p> <p>横濱及新橋ニ於ケル汽車積卸並ニ發著手数料共</p> <p>新橋ヨリ隨所ノ倉庫ニ引取費平均</p> <p>本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利息積</p> <p>(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ六日間ノ日步貳錢ノ割)</p> <p>合 計</p>	<p>(一) 舁取一旦税關ニ陸揚ノ上水路市内隨所ノ倉庫へ小舁引取ノ場合</p> <p>本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p> <p>本船税關舁賃</p>	<p>舁ヨリ税關構内へ陸揚費</p> <p>税關上屋使用料(一日一噸貳錢)</p> <p>平均二日ト見</p> <p>築港ニテ舁ニ積移シ費用</p> <p>築港ヨリ市内隨所ノ倉庫ニ至ル舁賃平均(但シ泊賃等ヲ見込ム)</p> <p>倉庫へ陸揚費</p> <p>本船ノ荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利息積(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ四日間ノ日)</p> <p>步貳錢ノ割</p> <p>合 計</p> <p>(現在ノ慣行ニ鑑ミ河内ノ小舁運搬ニハ保險ヲ附セザルモノト見テノ計算ナリ)</p> <p>(二) 舁取舁中検査ヲ經テ其儘市内隨所倉庫へ引取ノ場合</p> <p>本船々費割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p> <p>本船ヨリ市内ニ至ル舁賃(但シ舁中検査其他ノ爲メ泊賃等ヲ見込ム)</p> <p>市内ニ於テ舁ヨリ隨所ノ倉庫へ陸揚費</p> <p>本船荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利息積(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ四日間ノ日步貳錢ノ割)</p> <p>合 計</p> <p>(現在ノ慣行ニ鑑ミ河内ノ小舁運搬ニハ保險ヲ附セザルモノト見テノ計算ナリ)</p> <p>(三) 舁取一旦税關ニ陸揚ノ上水路市内隨所ノ倉庫へ車馬引取ノ場合</p> <p>本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>
<p>・三六〇</p> <p>・一三〇</p> <p>・二三〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・〇四〇</p> <p>・五〇〇</p> <p>・五〇〇</p> <p>・五〇〇</p> <p>・七〇〇</p> <p>・五〇〇</p> <p>・二四〇</p> <p>二・二三〇</p>	<p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p> <p>・二三〇</p>	<p>・一二〇</p> <p>・〇四〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・三〇〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・二六〇</p> <p>一・二三七</p> <p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p> <p>・四〇〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・一六〇</p> <p>・八二七</p> <p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p>

港	築	京	東	(來)
<p>本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>	<p>本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>	<p>本船々費割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>	<p>本船ヨリ市内ニ至ル舁賃(但シ舁中検査其他ノ爲メ泊賃等ヲ見込ム)</p> <p>市内ニ於テ舁ヨリ隨所ノ倉庫へ陸揚費</p> <p>本船荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利息積(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ四日間ノ日步貳錢ノ割)</p> <p>合 計</p> <p>(現在ノ慣行ニ鑑ミ河内ノ小舁運搬ニハ保險ヲ附セザルモノト見テノ計算ナリ)</p> <p>(二) 舁取舁中検査ヲ經テ其儘市内隨所倉庫へ引取ノ場合</p> <p>本船々費割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>	<p>舁ヨリ税關構内へ陸揚費</p> <p>税關上屋使用料(一日一噸貳錢)</p> <p>平均二日ト見</p> <p>築港ニテ舁ニ積移シ費用</p> <p>築港ヨリ市内隨所ノ倉庫ニ至ル舁賃平均(但シ泊賃等ヲ見込ム)</p> <p>倉庫へ陸揚費</p> <p>本船ノ荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利息積(一噸貳百圓ノ平均價格ニ對シ四日間ノ日)</p> <p>步貳錢ノ割</p> <p>合 計</p> <p>(現在ノ慣行ニ鑑ミ河内ノ小舁運搬ニハ保險ヲ附セザルモノト見テノ計算ナリ)</p> <p>(三) 舁取一旦税關ニ陸揚ノ上水路市内隨所ノ倉庫へ車馬引取ノ場合</p> <p>本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)</p> <p>本船ヨリ舁ニ積移シ費</p>
<p>・一三〇</p> <p>・〇一七</p>	<p>・一三〇</p> <p>・〇一七</p>	<p>・一三〇</p> <p>・〇一七</p>	<p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p> <p>・四〇〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・一六〇</p> <p>・八二七</p>	<p>・一二〇</p> <p>・〇四〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・三〇〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・二六〇</p> <p>一・二三七</p> <p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p> <p>・四〇〇</p> <p>・一二〇</p> <p>・一六〇</p> <p>・八二七</p> <p>・〇一七</p> <p>・一三〇</p>

著	船
本船税關間船賃	・二三〇
船ヨリ税關構内へ陸揚費	・一二〇
税關上屋使用料(平均二日ト見)	・〇四〇
築港ヨリ市内ニ於ケル車馬賃	・八〇〇
本船ノ荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積(平均價格ニ對シ四日間ノ日)	・一六〇
歩貳錢ノ割	
合計	一・四九七

築港ノ場合内航貨物ニ對スル經費節減額内譯表

本表ハ輸入荷物ニ對スル經費ノ調査ナリ。輸出荷物ニ對スル費額ハ大抵之ト其軌ヲ一ニスルヲ以テ便宜上省略シタリ。

名	稱	内譯	合計
○本船ヨリ船取直接東京へ輸送ノ場合	(但シ每噸ニ對シ)	・一二五	
横濱ニテ本船ヨリ船ニ積移費		・五五〇	
横濱東京間船賃(但シ泊賃等ヲ見込ム)		・二七〇	
同上船運送海上保険料(平均百圓ニ付拾八錢ノ割)		・一一〇	
東京ニテ船ヨリ隨所ノ倉庫へ陸揚費		・一一〇	
本船ノ荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ(一噸百五拾圓ノ平均價格ニ)		・一一〇	
庫入迄ノ日數ニ對スル金利見積(對シ四日間ノ日歩貳錢ノ割)		・一二〇	
合計			一・一七五

船	東(來將)	京	築	港	著
計	○築港ニテ船取リ其儘市内隨所ノ倉庫へ引取ノ場合	・〇一七			
	本船々費增加割當(但シ主トシテ石炭消費高)	・一二五			
	本船ヨリ船ニ積移シ費	・二八〇			
	本船ヨリ市内倉庫ニ至ル船賃(但シ泊賃等ヲ見込ム)	・一一〇			
	倉庫へ陸揚費	・〇六〇			
	本船ノ荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫へ(一噸百五拾圓ノ平均價格ニ)				
	倉入迄ノ日數ニ對スル金利見積(對シ二日間ノ日歩貳錢ノ割)				
	計(現在ノ慣行ニ鑑ミ河内ノ小船運搬ニハ保險ヲ附セザルモノト見テノ計算ナリ)				・五九二

東京横濱間往復ノ船調查表 (明治四十三年十二月現在)

東京回漕業者所屬	横濱回漕業者所屬	合計	力			石數	達摩			登簿噸數	合計
			百噸未滿	百石以上	小計		二十噸未滿	二十噸以上	小計		
一三	一三〇	一四三	一四	一四	二八	一四	一四	二八	一四	一四	
一七	四七〇	四八七	一四	一四	二八	一四	一四	二八	一四	一四	
三〇	五九〇	六二〇	一四	一四	二八	一四	一四	二八	一四	一四	
合計	七三〇	七六〇	三六	三六	七二	三六	三六	七二	三六	三六	

東京橫

間往復ノ曳船小蒸汽船調查表

(明治四十三年十二月現在)

東京回漕業者所屬 橫回漕業者所屬 合計	曳船		小蒸汽船		合計
	二十噸未滿	二十噸以上	合計	噸數	
八	四三	二二	二二	六四五	
三五	一五	五〇	一、一二九	一、一二九	
四三	二九	七二	一、七七四	一、七七四	

東京橫輸出入外航貨物重要品別噸數調查表 (兩地通算)

製米類 穀物類 寒天類 海產物	輸		入	
	四十二年	四十三年	四十二年	四十三年
製米類	一七、七一八噸	一四、七八三噸	一、二、八八九噸	八、四四九噸
穀物類	一、四六〇	一、五四〇	二、四三〇	二、三五一
寒天類	二、〇二九	三、四九二	三、四九九	二、七五五
海產物	三、三六三	三、三四六	八、三七五	一五、二七四
合計	一七、一五二	二二、五九九	三、三三四	三、二四五

落花生 和洋酒 椎茸 醬油類 野菜類 薄荷 藥銅 熟銅 鑛物 金屬及同製品 魚油類 魚蠟類 紙類及紙製品 生絲 屑絲 羽二重 絹布及絹製品 綿布及綿製品 煙草類	輸		入	
	四十二年	四十三年	四十二年	四十三年
落花生	五、〇八六	七、九一二	三、七五九	二、三五八
和洋酒	三、八四一	二、八〇二	一、〇三五	二、四一一
椎茸	二、〇五二	二、一二四	二二、四二五	二七、六二七
醬油類	八、七七四	九、〇九〇	一四四、五五九	一一六、九七〇
野菜類	三三、四四四	四三、四五三	一、一二七	二、〇一三
薄荷	一七〇	二二七	四、三八六	四、八一八
藥銅	一、六九四	二、二六三	七、一二五	一〇、五五五
熟銅	一一、二五四	一一、七〇五	三四、四三一	二九、三二三
鑛物	一四、一三〇	一二、七〇二	三三、一五五	三一、〇八一
金屬及同製品	二〇、四三六	二五、三〇四	三〇、三三七	一六、九四二
魚油類	二七、二七五	二六、七七六	四、八七八	二、二五二
魚蠟類	四七六	一、〇二〇	三、七二九	五、〇一二
紙類及紙製品	一一、五二九	一四、六八九	六、四九〇	九、七一八
生絲	二一、〇〇四	二三、七九四	二七、八九一	二一、九二五
屑絲	一〇、一五一	一一、三五五	一五七、六三〇	二〇九、三八四
羽二重	九、一一九	九、八八〇	五四二、九八八	三一、〇八三
絹布及絹製品	五、四五二	七、七一七	五八、八〇二	七〇、九四八
綿布及綿製品	六、〇二二	七、九九四	二九九、九七一	二二五、五一七
煙草類	五、九八二	二、〇二一	五九、五五四	四九、〇〇九

百合根	七、六一九	八、四四六	綿類及綿絲	四二、六〇七	三七、九八五
經木眞田	三、五九〇	五、三七八	木	二一、四〇三	一八、四一六
人力車	二、五四四	五、一一三	材		
漆器類	三、八七五	四、八〇九	其他雜品	一三三、六九二	一三九、七二二
陶磁器類	七、六八二	四、八八一	合計	一、一八二、三六一	一、〇九七、一四三
麥稈眞田	三五六	七八	合計	四五五、〇二四	五二六、二四七
竹行李	七、七九〇	九、一二二	其他雜品	一八、八三二	二一、八三二
其他雜品	一八一、五七一	二一八、八三二	合計	二二四、〇〇〇	二四七、〇〇〇

東京輸出入内航貨物重要品別噸數調査表

(本表ハ東京ノ部ニ品川及河内荷役ノ荷物ヲ合算シタルモノナリ)

危險物	輸		入	
	東京	横濱	東京	横濱
鐵材	三、〇〇八	七、九七七	三、〇〇八	七、九七七
石炭及コークス	三、五三三	一、七九九	三、五三三	一、七九九
石	八五二	一、五九九	八五二	一、五九九
セメント	一、八六〇	二、〇二〇	一、八六〇	二、〇二〇
木	五、〇八五	一、〇〇三	五、〇八五	一、〇〇三
器械	八四九	二、八四九	八四九	二、八四九
肥料	二、三六九	二、八二六	二、三六九	二、八二六
穀類	二、五六三	六、一六六	二、五六三	六、一六六
和洋酒類	八、一〇〇	九、三九五	八、一〇〇	九、三九五
醬油及酢	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇
味噌	一、七五七	一、七五七	一、七五七	一、七五七
鹽	一、三七四	一、四〇一	一、三七四	一、四〇一
茶類	八八八	一、五八六	八八八	一、五八六
生絲	四、一三九	一、三〇五	四、一三九	一、三〇五
綿絲	二、三〇〇	一、一〇〇	二、三〇〇	一、一〇〇
砂糖及原料	七、三九二	一、二九三	七、三九二	一、二九三

鐵材	三、〇〇八	七、九七七	三、〇〇八	七、九七七	三、〇〇八	七、九七七
石炭及コークス	三、五三三	一、七九九	三、五三三	一、七九九	三、五三三	一、七九九
石	八五二	一、五九九	八五二	一、五九九	八五二	一、五九九
セメント	一、八六〇	二、〇二〇	一、八六〇	二、〇二〇	一、八六〇	二、〇二〇
木	五、〇八五	一、〇〇三	五、〇八五	一、〇〇三	五、〇八五	一、〇〇三
器械	八四九	二、八四九	八四九	二、八四九	八四九	二、八四九
肥料	二、三六九	二、八二六	二、三六九	二、八二六	二、三六九	二、八二六
穀類	二、五六三	六、一六六	二、五六三	六、一六六	二、五六三	六、一六六
和洋酒類	八、一〇〇	九、三九五	八、一〇〇	九、三九五	八、一〇〇	九、三九五
醬油及酢	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇	四、七〇〇
味噌	一、七五七	一、七五七	一、七五七	一、七五七	一、七五七	一、七五七
鹽	一、三七四	一、四〇一	一、三七四	一、四〇一	一、三七四	一、四〇一
茶類	八八八	一、五八六	八八八	一、五八六	八八八	一、五八六
生絲	四、一三九	一、三〇五	四、一三九	一、三〇五	四、一三九	一、三〇五
綿絲	二、三〇〇	一、一〇〇	二、三〇〇	一、一〇〇	二、三〇〇	一、一〇〇
砂糖及原料	七、三九二	一、二九三	七、三九二	一、二九三	七、三九二	一、二九三

合	雜	鐘	壘	陶	傘	鹽	綿	藍	煙	繩	和	木	果	麥
計	貨	詰	表	類	器	魚	玉	草	草	草	紙	綿	菜	粉
三、五七、八三三	一、四三、七四四	一、三三六	二、八七	一、一八六	七	六九七	一、八六一	一一一	八二八八	四、八〇五	二、七四六	六、三三八	五、一	七、三九
九、〇五、四九四	三、八九三	三、四六	一、	三、	一、	一、六八	七、五〇	一、	一、	六、	四、八	一、	九、一七	一、八六八
四、四八、三三三	一、七四六	一、五八二	二、二七	一、三〇〇	七、	八、六五	二、六二二	一、二二	八、二八八	四、八六九	三、七四	六、三三八	九、六九八	九、一八七
三、七三、七四三	一、七四四	一、七四四	二、二七	一、〇八三	八、	一、二九六	一、八四	九、	八、六五九	三、六六〇	二、八九五	七、〇八三	八、五五	八、〇四九
八、八八、九三三	三、〇七九	八、九一	一、	九、	一、	六〇	一、三三三	一、	一、	三、	五、〇〇	一、	八、六五一	一、四六三
四、四六、六六六	二、七九二	二、六三五	二、二七	一、一六三	八、	一、二六六	三、三三七	九、	八、六五九	三、六九八	三、三九五	七、〇八二	九、五〇六	九、五二二
一、八〇、五九七	一、九一五	一、八九〇	一、七四四	四、八九一	一、	三、三二七	三、七五	一、七〇〇	六、九九	二、二八	二、五六四	三、八七	一、七四	三、三
六、六七、七七七	二、四七七	二、六九五	一、	一、八〇	一、	八、六七	二、八	二、三	八、	三、七	一、二八五	一、	五、八九	四、〇九
二、四七、三三八	二、二六八	四、五八五	一、七四四	五、〇七一	一、	四、七四	三、九三九	一、九三	六、二七	二、五五	二、六九五	三、八七	七、〇三	六、三二
二、〇四、二七七	一、七〇七	一、七二一	一、八五三	六、二四九	一、	三、九五六	三、八四	一、九四	一、九四	四、六	四、四七三	三、三	三、一四六	五、六
七、七六、六三八	二、四三五	三、〇二五	一、	四、二五	一、	一、〇二五	四、九	二、六	二、六	三、〇五	二、三三	一、	七、六七	三、八
二、八三、六六六	二、〇二九	四、七四六	一、八五三	六、六七四	一、	四、二二一	四、三三	一、三〇〇	一、三〇〇	七、一	四、八五	三、三	一、〇七	七、四

東京築港沿革概要

東京築港ハ、東京府知事芳川顯正ガ明治十八年二月五日主務省ニ對シ、内

務省土木局傭工師「ムルドル」氏ノ意見

隅田川口ノ西派ヲ塞ギ、全流ヲ東派ニ導キ海ニ注ギ、岸ヨリ海ニ向ヒ突
堤ヲ築キ、漏斗狀ヲ爲セル大池ヲ造ラントスルモノニシテ、工費豫算金
千貳百五拾六萬圓。

ヲ基礎トシ、適當ノ委員ヲ選ビ審査セシメラレシコトヲ上申セルニ端ヲ
發シ、同年三月二十四日太政大臣三條實美ハ、内務卿山縣有朋ノ稟請ヲ容
レ、東京市區改正審査會ニ同案ノ審査ヲ下命セリ。

東京市區改正審査會ハ、此命令ヲ受ケ、審議討論ノ後、同年十月八日其決議
ニ係ル築港方案ヲ内務卿ニ具申ス。其ノ要領左ノ如シ。

隅田川ノ東派即チ上總濠ヲ塞ギ、全流ヲ西派ニ導キ、永代橋以下ニ於テ
川幅ヲ漸次擴大シ、流水港ト爲スモノニシテ、工費豫算金千八百九拾參
萬圓ナリ。

越ヘテ十二月内務卿ハ、審査決定ノ通り直ニ之ヲ實行セントシ、太政大臣
ノ允裁ヲ請ヒタルモ、時機未ダ熟セズ、遂ニ裁可ヲ得ル能ハズシテ荏苒數
年ヲ經過シ、明治二十一年八月東京市區改正委員會ノ設置セラル、ニ當

リ、該審査會ハ自然廢止セラレタリ。

明治二十一年十一月五日東京市區改正委員長芳川顯正ハ、委員芳野世經ノ提議ニ基キ、同會ヲシテ築港計畫ヲ審議セシメラレシコトヲ建議セリ。内務大臣松方正義之ヲ嘉納シ、翌月二十七日特ニ其訓令ヲ發布ス。同月二十七日市區改正委員會ハ、委員益田孝ノ提議ニ基キ、内務大臣ノ歐洲出張ニ隨行ヲ命ゼラレタル委員古市公威ニ囑托スルニ、歐洲ニ於ケル實驗家ヲ訪ヒ、東京築港計畫ニ關スル意見ヲ聽キ、復答センコトヲ以テス。明治二十二年二月十九日市區改正委員會ハ、曩日市區改正委員會ニ於テ決議シタル築港計畫案ヲ主題トシ、東京府知事及内務省傭工師「ムルドル」氏ノ意見ヲ參酌シ、審議ノ上成案ヲ造ルコトニ決シ、尙ホ委員沖野忠雄ノ提議ヲ納レ、計畫上必要ナル諸種ノ材料ヲ蒐集スルヲ急務トシ、其蒐集手續ノ調査ヲ委員沖野忠雄及肝付兼行ニ委托セリ。越ヘテ三月五日同會ハ兩氏ノ意見ニ基キ、砲臺以外ノ深淺測量及潮流ノ方向竝ニ速力ノ測定ヲ海軍省ニ、地質調査ヲ農商務省ニ、品川灣一般ノ測量及潮流ノ觀測ヲ東京府ニ囑托セリ。是等ノ調査ハ其後數月ニシテ終了ヲ告ゲ、全部委員會ニ報

告セラレタリ。

同年十二月二日開會ノ市區改正委員會ニ、歐洲巡回ヲ終ヘテ歸朝シタル委員古市公威ヨリ築港計畫ニ關スル佛國技師「ルノ」氏ノ意見ヲ提出セリ。其要領左ノ如シ。

港門及前港ヲ羽田ニ置キ、市街ニ近クシテ鐵道ノ便竝ニ市内ノ運河及隅田川ノ利アル地ヲ堀鑿シテ、本港即チ繫船所ヲ設ケ、其間ニ運河ヲ開鑿シテ連絡シ、繫船所ノ周圍ニハ廣キ埋立地ヲ得テ倉庫ヲ建設スベシ。即日委員會ハ特ニ築港調査委員七名ヲ選ビ調査セシムルコトニ決定シ、爾來調査ヲ重ネタルモ、當時恰モ水道工事ノ企畫ニ際シ財政上其ノ餘裕ナキ状態ナリシヲ以テ、自然延期ノ姿トナリ、亦空シク數年ヲ經過セリ。明治三十二年四月十五日東京市長松田秀雄ハ、市區改正委員會ニ對シ築港設計ノ費用ヲ市區改正費ヨリ支出センコトヲ照會シ、五月九日其同意ヲ得タリ。同月工學博士古市公威同中山秀三郎ニ築港計畫ヲ囑托ス。兩博士ハ往年蒐集セル材料ニ依リ調査ヲ遂ゲ、翌年一月計畫案成ルヤ、市長ハ市參事會ノ審査ヲ經テ同年六月之ヲ市會ニ提出ス。其計畫ノ要領左ノ如

大體ルノ一氏ノ意見ヲ基礎トシ、港門及前港ヲ羽田ニ置キ、運河ニ依リ芝浦繫船所即チ本港ニ達ス。本港ハ水深二十四尺乃至三十尺ニ浚渫シテ専ラ大船ノ用ニ供シ、小船ハ從來ノ如ク隅田川ヲ利用シ、鐵道ノ連絡ヲ必要トスル貨物ニ對シテハ、落筋物揚場ヲ設クルモノトシ、其工費四千百萬圓ナリ。

明治三十三年六月八日東京市會ニ築港調査委員ヲ置キ、且ツ築港調査事務所ヲ開設シ、右市博士ノ築港計畫案ヲ審査セシム。數日ニシテ該計畫案ハ委員會ノ是認スル處トナリ、越ヘテ十四日市會ヲ通過シ、其月十七日市區改正委員ノ同意ヲ得タリ。其ノ翌十八日築港調査委員長星亨ハ、築港調査協議委員ヲ撰定シ、起工準備トシテ必要ナル事項ノ調査ヲ囑托セリ。其協議委員氏名左ノ如シ。

- 東京商業會議所會頭 澁澤榮一
- 同 議員 加藤正義
- 水路部長海軍少將 肝付兼行

- 築城本部長陸軍少將 石本新六
- 參謀本部次長陸軍少將 田村怡興造
- 遞信次官 古市公威
- 大藏省理財局長 阪谷芳郎
- 内務書記官 大谷靖
- 同 南部光臣
- 東京府書記官 阪本鈺之助

同年七月三日市長ハ、市會ノ決議ヲ齎ラシ、内務大臣西郷從道ニ宛テ起工ノ許可ヲ求ムル稟請書及國庫補助(千貳百萬圓)ニ關スル請願書ヲ提出シ、尙同年九月十九日起工ニ關スル再度ノ稟請書、國庫補助ニ關スル請願書、速ニ拘ラズ起工ヲ許可セラレタシト。同月二十七日國庫補助ニ關スル再度ノ請願書、支給初年度ヲ延長セラル、モ補助額ハ彙ニ請願ノ如ク決定セラレタシト言フモノ。ヲ提出シタルモ、爾來何等ノ指令ナク、該計畫モ終ニ實行ノ域ニ達セズシテ止メリ。

明治三十四年八月十日築港調査事務所ヲ廢シ、總務部ニ築港調査課ヲ置ク。其年九月十一日金子堅太郎築港調査委員長ニ當撰ス。

明治三十六年二月大石正巳代テ築港調査委員長ト爲ル。其ノ年七月築港調査委員ヲ大阪ニ派遣シ築港ノ實況ヲ視察セシム。
明治三十八年三月三日築港調査委員會ハ、直木技師ノ意見ヲ容レ、隅田川口改良案ヲ築港ノ一部トシテ調査スルコトニ決ス。越ヘテ八月東京商業會議所會頭中野武營ヨリ同趣意ノ建議アリ。翌年同改良案調査結了シ、其年七月十九日市會ノ決議ヲ經テ十二月二十一日起工セリ。此改良案ノ要領左ノ如シ。

隅田川口永代橋ヨリ砲臺沖水深十二尺ノ地點マデ、現在航路ヲ浚渫シテ其水深幅員ヲ増加シ、其浚渫土ヲ以テ芝浦及月島ニ約十二萬坪ノ埋立地ヲ築造スルモノニシテ、其工費豫算金貳百五拾九萬八千圓ナリ。
同年六月二十七日江間俊一築港調査委員長ニ當撰ス。其ノ年十二月十七日築港調査委員會ハ、委員長ノ意見ニ基キ調査シタル築港計畫變更案ヲ可決ス。其變更ノ要點左ノ如シ。

築港工費償還財源ニ供スベキ芝浦附近ノ埋立地ヲ増加シ、本港將來ノ擴張區域ヲ砲臺外ニ置キ本港内水深ヲ二十尺乃至三十四尺トシ、繫船

岸ヲ四千百間ニ止メ、工費豫算ヲ參千五百七拾萬圓ニ減少ス。

明治四十年二月市長尾崎行雄ハ、此案ニ基キ築港經費ニ充ツベキ外債募集ノ許可ヲ府知事ニ内議セリ。市會ニ附議スルニ先チ内議シタルハ豫テ府知事内訓ノ趣旨ニ從ヒタルモノナリ。然ルニ府知事ヨリハ爾來何等ノ回答ナク、該案モ亦自然消滅セリ。

明治四十一年七月二十二日磯部四郎築港調査委員長ニ當撰ス。
明治四十二年九月十日大岡育造築港調査委員長ニ當撰ス。其年十月鐵道院ニ於テ品川停車場地先海面約二十萬坪ヲ築立テ鐵道用地ニ供セントスルノ議アリ。市會ハ該件ニ關スル東京府知事ノ諮問ヲ受ケ、同年十二月二十五日會議ヲ開キ、埋立地ヲ約八萬坪ニ止ムルコト、及其他ノ條件ヲ附シテ答申セリ。

明治四十四年五月二十九日東京市會ハ、曩ニ築港調査委員會ノ決議ヲ經タル隅田川口改良第二期工事計畫案ヲ議決ス。其要領左ノ如シ。

第一期ニ於ケル浚渫區域ヲ増加シテ河内ニ於ケル繫船所ヲ擴張シ、芝浦附近ノ航路幅員ヲ倍加シ、其浚渫土ヲ以テ芝浦ニ約十九萬坪ノ埋立

地ヲ造ラントスルニ在リテ、工費豫算金貳百四拾六萬八千圓ナリ。
大正元年十月東京市長男爵阪谷芳郎及築港調査委員ハ、芝浦羽根田等ノ
海上ヲ巡廻シ、築港豫定地ヲ視察ス。

同年十月二十七日東京府知事ヨリ市會ニ對シ、埋立運河株式會社發起人
安田善次郎外五名竝ニ京濱運河株式會社發起人總代岡田治衛武ノ出願
ニ係ル運河開鑿繫船場設置及埋立施行ノ件ニ關スル諮問案ヲ送附ス。翌
二年一月十七日之ヲ築港調査委員會ニ報告セリ。
大正二年二月三日東京市長ハ、築港調査委員會ニ直木技師ヲシテ調査セ
シメタル築港新計畫案ヲ提出ス。其後同會ハ審議ヲ盡シ、同年三月二十七
日之ヲ可決セリ。

東京市築港工費豫算書

一、金貳千萬圓

總工費

內譯

金貳百六萬六千圓

突堤工費

金壹百五萬七千圓

防砂堤工費

金貳百拾六萬六千七百圓

各種護岸工費

金六百拾八萬參百六拾圓

浚渫埋立工費

金貳百貳萬參千八百四拾圓

陸上設備費

金八拾五萬圓

雜工事費

金參百參拾六萬六千圓

機械器具費

金壹百參拾五萬圓

事務費

金壹百萬圓

豫備費

東京築港工費內譯書

第一 突堤工費

種類	員數	單價	金額
幹頭	七二〇個	二、七〇〇圓	一、九四四、〇〇〇圓
部計	二〇個	一五四、〇〇〇圓	一、〇八〇、〇〇〇圓
計			二、〇六六、〇〇〇圓

第二 防砂堤工費

種類	員數	單價	金額
運河外側防砂堤	四、二二〇 <small>間</small>	一八〇 <small>円</small>	七五九、六〇〇 <small>円</small>
運河内側防砂堤	四、三五〇	五〇	二一七、五〇〇
本港防波堤	二〇〇	四〇〇	八〇、〇〇〇
計			一、〇五七、一〇〇

第三 各種護岸工費

種類	員數	單價	金額
甲種護岸	二、一〇〇 <small>円</small>	二二〇 <small>円</small>	四六二、〇〇〇 <small>円</small>
乙種護岸	二、二八〇	一二〇	二七三、六〇〇
水深六尺物揚場護岸	六二〇	三五〇	二一七、〇〇〇
水深九尺物揚場護岸	四五〇	四七〇	二一、五〇〇
板柵	一五、七一〇	六〇	九四二、六〇〇
計			二、一〇六、七〇〇

第四 浚渫埋立費

種類	員數	單價	金額
前運河	一五六、〇〇〇 <small>坪</small>	一・八〇〇 <small>円</small>	二八〇、八〇〇 <small>円</small>
運河	五九六、四〇〇	二・四〇〇	一、四三一、三六〇
小運河	一四六、六〇〇	二・〇〇〇	二九三、二〇〇
堅層	九四、四〇〇	二・五〇〇	二三六、〇〇〇
軟層	八三〇、〇〇〇	一・一〇〇	九一三、〇〇〇
本港	一、七八〇、〇〇〇	一・七〇〇	三、〇二六、〇〇〇
計			六、一八〇、三六〇

第五 陸上設備費

種類	員數	單價	金額
上屋	一〇〇、〇〇〇 <small>坪</small>	八〇 <small>円</small>	八〇〇、〇〇〇 <small>円</small>
道路	二 <small>ヶ所</small>	一四、〇〇〇	二一〇、〇〇〇
橋梁	五 <small>哩</small>	一八、〇〇〇	三三六、〇〇〇
下水			五五〇、〇〇〇
鐵道			九〇、〇〇〇
計			一、〇三七

雜設備

三七、八四〇

計

二、〇二三、八四〇

第六 雜工事費

種類	員數	單價	金額
繫船杭	一〇〇本	三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
燈臺	二個	一三、〇〇〇	二六、〇〇〇
燈標	一個	一、五〇〇	一五、〇〇〇
混凝土工場設備			五〇、〇〇〇
機械工場設備			五〇、〇〇〇
假建物新營及修繕			五〇、〇〇〇
埋立地假土留			一五九、〇〇〇
各種補償費			一〇〇、〇〇〇
雜種假工事費			一〇〇、〇〇〇
計			八五〇、〇〇〇

第七 機械器具費

種類	金額
碎岩浚渫及埋立用諸船艇諸機械費	二、八三八、〇〇〇
混凝土製造及沈下用諸船艇諸機械費	三四八、〇〇〇
雜諸船艇諸機械費	一八〇、〇〇〇
計	三、三六六、〇〇〇

第八 事務費

種類	金額
俸給	六六二、四〇〇
雜給	四二六、〇四〇
需用	一二九、五五〇
諸費	三二、〇一〇
營繕	二〇、〇〇〇
測量	八〇、〇〇〇
計	一、三五〇、〇〇〇

第九 豫備費

種 類	金 額
豫 備 費 (總工費ノ五分)	1,000,000 円
計	1,000,000

東京築港公債計算書

第一 工 費

本計畫ニ對スル工事費豫算ハ、前項豫算書ニ詳悉スル處ノ如ク總額金貳千萬元ニシテ、其年度割左ノ如シ。

年 度	支 出 豫 算
第 一 年	百五十拾萬圓
第 二 年	參百 萬圓
自 第 三 年 至 第 九 年 各 年	貳百 萬圓
第 十 年	百五十拾萬圓
合 計	貳千 萬圓

第二 市債募集方法

一、募集ノ條件

(イ) 募債額面百圓ニ付手取金九拾圓トス。

(ロ) 利率年五分トス。事業公債利息は、募集額面ノ三分ノ一トス。

二、募集費用

(イ) 募債手數料

(ロ) 證券費

(ハ) 利拂手數料

(ニ) 廣告及通信料

三、募債年度及額面

募債年度	募債額面
初 年 度	六 百 萬 圓
三 年 度	六 百 萬 圓
五 年 度	六 百 萬 圓
七 年 度	七 百 萬 圓

九年度

六百八拾九萬圓

合計

參千百八拾九萬圓

右募債方法ニ依ル工費ノ收支計算ハ、別表ノ如シ。

第三 市債償還方法

工費ニ對スル國庫補助ノ有無ハ、其利害關係甚ダ大ナリ。而シテ東京港ハ無論國家ノ重要港トシテ政府モ夙ニ是レヲ認ムル所即チ之レヲ從來ノ慣例ニ徵スルモ其築設ニ方リテハ固ヨリ國庫ノ補助ヲ受クルノ當然ナルヲ信ズト雖ドモ、然カモ齟齬テ之レヲ觀レバ、現在總テノ緊要事業ニモ緊縮繰延ノ方針ヲ採リテ僅ニ收支ノ計算ヲ維持シツ、アル國庫歲計ニ於テハ、強テ補助ヲ請求スルノ却テ工事ノ遂行ヲ困難ナラシムル所以タラシヲ虞ル。故ニ茲ニハ國庫補助ヲ豫期セル場合ノ外ニ、全ク補助ニ依ラザル場合ヲモ假定シテ、以テ事業公債償還方法ヲ講ゼムトス。計算ノ要領即チ左ノ如シ。

第一案 (國庫補助ヲ見込マザルモノ)

市債償還終了年限

工事竣功後四十四年目ニ完了

償還終了ノ年ニ於ケル剩餘金

百拾六萬七千百拾六圓

爾後毎年ノ收益(入港料ヲ見込マズ)百四拾六萬六千八百八拾圓

第二案 (國庫補助ヲ見込ムモノ)

市債償還終了年限

工事竣功後二十六年目ニ完了

償還終了ノ年ニ於ケル剩餘金

八拾參萬九千四百貳拾五圓

爾後毎年ノ收益(入港料ヲ見込マズ)百四拾六萬六千八百八拾圓

前掲第一案及第二案ニ對スル償還財源ノ内譯、左ノ如シ。

◎第一案

一、埋立地ノ賣却及貸附收入

本計畫ニ依ル埋立地總面積ハ百四拾六萬坪ニシテ、其用途ヲ次ノ如ク豫定ス。

區別	芝浦地先	越中島地先	羽田地先	計
港附屬地	三〇、〇〇〇坪	二〇、〇〇〇坪	一一〇、〇〇〇坪	一七〇、〇〇〇坪
道路敷	一七一、〇〇〇	二一六、〇〇〇	—	三八七、〇〇〇

賣却及貸附豫定地	三九九、〇〇〇	五〇四、〇〇〇	—	九〇三、〇〇〇
合 計	六〇〇、〇〇〇	七四〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	一、四六〇、〇〇〇

道路敷ハ港附屬地以外ノ面積ノ三割トス。

港附屬地十七萬坪ニ對シテハ何等ノ收入ヲ見込マズ。

賣却及貸附豫定地ハ、其六割弱ヲ賣却シ、四割餘ヲ貸附クルモノトス。其坪數左ノ如シ。

賣却坪數 五十二萬一千坪

貸付坪數 三十八萬二千坪

合 計 九十萬三千坪

(イ) 土却賣却代收入

賣却地坪數 五十二萬一千坪

賣却單價 一坪ニ付貳拾五圓

賣却代合計 壹千參百貳萬五千圓

賣却方法 工事竣功後十箇年間ニ分割賣却スルモノニシテ、其

年次坪數左ノ如シ。

竣工後 自一九〇九年 每年五萬五千坪宛。

同 十年目 二萬六千坪。

(ロ) 貸附料收入

貸附地坪數 竣工後 三十八萬二千坪

貸附單價

竣工後 自五初年 一坪一ヶ月 拾 貳 錢

同 自十六年 同 拾 七 錢

同 自十五年 同 貳 拾 貳 錢

同 自二十年 同 貳 拾 七 錢

同 二十一年以降 同 參 拾 貳 錢

貸附方法

竣工後第一年ニ於テ六萬五千坪ヲ貸附ク。

同 自二年 至五年 每年六萬五千坪宛貸附ヲ遞加ス。

同 第六年ニ於テ五萬七千坪ヲ增加シ、以テ全部ノ貸附

二、入港料

水深二十五尺ノ東京港ヲ第一著ニ利用スベキ貨物ノ運送費節約額ハ少クトモ壹箇年壹百萬圓ニ達スベキヲ以テ、其約八分ノ一即チ金拾貳萬圓ヲ初年度ノ入港料ト豫定シ、之レヲ入港船舶登簿噸數ニ割當ツレバ一噸ニ付約五錢爾後毎年壹萬圓宛ノ增收ヲ見込ミ、三十九年目ノ五拾萬圓ヲ以テ限度トス。但右入港料ハ市債償還終了ノ翌年竣工後四十五年目ヨリハ之レヲ徵收スルヲ要セズ。

三、本船繫泊料

芝浦本船繫泊所ニ於ケル繫船杭及浮標使用料ヲ一晝夜一艘金七圓ト定メ(横濱港ノ例ニ倣フ)竣工後第一年ノ十二艘平均參萬圓ヨリ漸次增收ヲ見込ミ、二十一年目ノ六萬圓ヲ以テ限度ト定ム。

四、上屋使用料

本計畫ニ於テハ單ニ模範的ノ意義ヲ以テ一萬坪ノ上屋ヲ設置シ、之ガ收入ハ貨物收容能力ヨリ打算シ、一箇年約四萬圓ヨリ漸加シテ拾萬圓ナル

ヲ得可シ。

五、不用機械賣却代

港内水深維持ノ爲メニ大形浚渫船一組ヲ殘シテ爾餘ノ諸機械ヲ工事竣功後參箇年間ニ賣却スルモノトシ、此收入ヲ原價ノ三分ノ一此金額七拾五萬圓ト豫定ス。

六、支出ニ屬スル港ノ維持費

現在隅田川口浚渫ノ實蹟ト將來荒川改修ノ效果トヨリ推定シテ、港内埋没土量ヲ一箇年平均二寸此浚渫土量約四萬坪ト豫定シ、外ニ防砂堤其他ノ小修理費ヲ見込ミテ、港ノ維持費ヲ竣工後ノ第一年ニ七萬圓、爾後毎年壹萬圓ヲ遞加シテ拾六萬圓ニ止ムルモノトス。但、一箇年四萬坪ノ浚渫土量ハ、之レニ少許ノ埋築費ヲ投ジテ別ニ年々一萬坪以上ノ新理立地ヲ築成スルヲ得ベク、其價格少クトモ貳拾萬圓ヲ超ユルヲ以テ、將來ニ於ケル突堤防砂堤等ノ大修理費ハ固ヨリ、港内一般設備ノ改良ニ對スル財源モ亦容易ニ是レヲ求ムルヲ得ベシ。

◎ 第二案

帝都時代ノ港灣

第一案ニ於ケル財源全部ノ外國庫補助金ヲ見込ミ、總工費貳千萬圓ニ對スル三分ノ一即チ六百六拾六萬圓ヲ、帝國政府五分利附公債證書ヲ以テ工事竣功後第一年ニ於テ交附ヲ受クルモノト假定シ、該公債ヨリ生ズル利子及賣却代(額面百圓ニ付賣却價格九拾圓ト假定ス)ヲ財源ニ加ヘタルモノニシテ、其他ハ總テ第一案ト同ジ。

該公債賣却方法及利子ノ收入左ノ如シ。

賣却收入

竣功後自第二十二年每年百九拾九萬八千圓

(此額面貳百貳拾貳萬圓)

利子收入

竣功後自第二十二年每年參拾參萬參千圓

同 第二十二年 貳拾貳萬貳千圓

同 第二十四年 拾壹萬壹千圓

〔備考〕

東京築港ニ關スル書類ニ、

年		越	
計	差引 殘	殘額預金利子(年四分)	計
八二七九六	三五七八、二〇三	一四三、二八	三七二、三〇
二〇三七五〇	四一七、五六〇	一六七〇三	四三四、二八三
八二二、五四八	三二、二七三五	一二八、四六九	三三、四〇、二〇四
八〇四、五〇〇	七三五、七〇四	二九、四二	七六五、一三二
八二七九六	三五七八、二〇三	一四三、二八	三七二、三〇

第一案ニ於ケル財源全部
 スル三分ノ一即チ六百六
 工事竣功後第一年ニ於テ
 利子及賣却代(額面百圓ニ
 モノニシテ、其他ハ總テ第
 該公債賣却方法及利子ノ
 賣却收入
 竣功後自第二十
 同 第二十三
 同 第二十四
 (備考)
 東京築港ニ關スル書類ニ、

東京築港工費收支計算書

年次	年度	債額累計	收		支		工費	募 手 數 料	債 證 券 費
			募入金	前年 越ヨ	入計	債券利子 (年五分)			
一		六〇〇,〇〇〇	五四〇,〇〇〇	三七一,三三〇	三〇〇,〇〇〇	七五〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	四六
二		六〇〇,〇〇〇	五四〇,〇〇〇	四三四,二八三	六〇〇,〇〇〇	七五〇	一五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	四六
三		一,二〇〇,〇〇〇	五,四〇〇,〇〇〇	三,三四〇,二〇四	六〇〇,〇〇〇	一五〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	四六
四		一,八〇〇,〇〇〇	五,四〇〇,〇〇〇	七六五,一三三	九〇〇,〇〇〇	二二五〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	四六
五		一,八〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	三,三七一,五〇七	九〇〇,〇〇〇	二二五〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	四六
六		二,五〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	四八四,九〇七	一,二五〇,〇〇〇	三二二五	一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇	五六
七		二,五〇〇,〇〇〇	六,三〇〇,〇〇〇	三,六四八,〇三五	一,二五〇,〇〇〇	三二二五	一,〇〇〇,〇〇〇	二一,〇〇〇	五六
八		三,二八九,〇〇〇	六,二〇一,〇〇〇	四〇七,五六六	一,五九四,五〇〇	三九八六	一,〇〇〇,〇〇〇	二〇,六七〇	五五
九		三,二八九,〇〇〇	二八,七〇一,〇〇〇	三,一〇五,八三〇	一,五九四,五〇〇	三九八六	一,〇〇〇,〇〇〇	二〇,六七〇	五五
計		三,二八九,〇〇〇	二八,七〇一,〇〇〇	三,一〇五,八三〇	一,五九四,五〇〇	三九八六	一,〇〇〇,〇〇〇	二〇,六七〇	五五

備考
 一、募債額面百圓ニ付手取金九拾圓トス。
 一、利率年五分。
 一、利拂手數料 利子額ノ一萬分ノ二十五。
 一、募債手數料 募債額面ノ一萬分ノ三十。
 一、證券費 募債額面ノ百萬分ノ八。
 一、諸費 年額參千圓。

第一案ニ於ケル財源全部ノ外國庫補助金ヲ見込ミ、總工費貳千萬圓ニ對

工費	洋費	支費	債費	積費	備費	計費	年	越
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二二八	六一九六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三二五	八一九六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三九六	一〇,二八七
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二二九	五七〇〇
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三三七	八七五九
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	九九	二五七八
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	七四	一九二二
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	九	二二六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	六四	一六五四
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二	四七
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	四四八八九	一一六七一六

東京市史稿

年 越

1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二二八	六一九六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三二五	八一九六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三九六	一〇,二八七
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二二九	五七〇〇
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	三三七	八七五九
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	九九	二五七八
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	七四	一九二二
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	九	二二六
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	六四	一六五四
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	二	四七
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	四四八八九	一一六七一六

東京市史稿

一〇四八

(第一案) 東京築港

年次	年度	債額	收				
			前年越	使用料屋	本泊料船	入港料	
一		三一,八九〇,〇〇〇	四,五一八	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二		三一,六五〇,〇〇〇	一一,一九八	五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三		三一,三〇〇,〇〇〇	三,三七三	六〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四		三〇,八三〇,〇〇〇	六,五七三	七〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
五		三〇,四八〇,〇〇〇	七一,九五	八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
六		三〇,〇一〇,〇〇〇	八,七八三	九〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
七		二九,一九〇,〇〇〇	四,三三九	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
八		二八,三二〇,〇〇〇	七,五九九	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
九		二七,四〇〇,〇〇〇	六,八八五	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一〇		二七,二一〇,〇〇〇	七,二五八八九	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二一〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一一		二七,〇二〇,〇〇〇	九,三八六八二	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一二		二六,九二〇,〇〇〇	七,三七九六七	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二三〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一三		二六,八二〇,〇〇〇	五,四四八三七	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一四		二六,七二〇,〇〇〇	三,五九五九五	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一五		二六,六二〇,〇〇〇	一,八二五五六	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一六		二六,五二〇,〇〇〇	一,四〇四八	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一七		二六,三四〇,〇〇〇	九,四一五	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二八〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一八		二六,一四〇,〇〇〇	三,五三八	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二九〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
一九		二五,九三〇,〇〇〇	七,八三二	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二〇		二五,六九〇,〇〇〇	二,三八二	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	三一〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二一		二五,四四〇,〇〇〇	九,二〇五	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三二〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二二		二四,九三〇,〇〇〇	七,一六〇	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二三		二四,三八〇,〇〇〇	三,三七	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二四		二三,八〇〇,〇〇〇	一,〇四九	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二五		二三,一八〇,〇〇〇	七,四三	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二六		二二,五二〇,〇〇〇	一,四六一	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三七〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二七		二二,八二〇,〇〇〇	五,三三一	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三八〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二八		二二,〇七〇,〇〇〇	四,一四二	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三九〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
二九		二〇,二七〇,〇〇〇	三〇〇	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三〇		一九,四三〇,〇〇〇	六,七二五	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四一〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三一		一八,五三〇,〇〇〇	五〇七一	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三二		一七,五八〇,〇〇〇	八,五六四	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三三		一六,五七〇,〇〇〇	九,五九五	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四四〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三四		一五,四九〇,〇〇〇	七,七四	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四五〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三五		一四,三六〇,〇〇〇	六,一九六	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四六〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三六		一三,一六〇,〇〇〇	八,一九六	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四七〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三七		一一,八九〇,〇〇〇	一〇,二八七	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三八		一〇,五四〇,〇〇〇	五,七〇〇	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四九〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
三九		九,一二〇,〇〇〇	八,七五九	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四〇		七,六一〇,〇〇〇	二,五七八	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四一		六,〇三〇,〇〇〇	一,九二一	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四二		四,三七〇,〇〇〇	二,三六	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四三		二,六三〇,〇〇〇	一,六五四	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇
四四		八〇〇,〇〇〇	四七	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五〇,〇〇〇



(第二案) 東京築港市

年次	年度	債額	前 ヨリ 越年	上 使 用 料 屋	本 船 泊 料	入 港 料	不 用 機 械 代 賣	土 地 賣 却 代
一		三二,八九〇,〇〇〇円	四五,一八	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一二〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一三七五,〇〇〇
二		三二,三三〇,〇〇〇	三六,三三	五〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一三七五,〇〇〇
三		三〇,六二〇,〇〇〇	四六,九八	六〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一三七五,〇〇〇
四		二九,七八〇,〇〇〇	四一,五〇	七〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
五		二九,〇五〇,〇〇〇	九七,七二	八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
六		二八,一七〇,〇〇〇	四七,六三	九〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
七		二六,九三〇,〇〇〇	四七,二四	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
八		二五,六二〇,〇〇〇	六七,七九	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
九		二四,二三〇,〇〇〇	四二,三九	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一〇		二三,七六〇,〇〇〇	一〇,九二	一〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	二一〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一一		二二,九四〇,〇〇〇	八二,〇二	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二二〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一二		二二,四八〇,〇〇〇	六二,六〇	一〇〇,〇〇〇	五二,〇〇〇	二三〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一三		二〇,九九〇,〇〇〇	七三,五八	一〇〇,〇〇〇	五二,〇〇〇	二四〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一四		二〇,四六〇,〇〇〇	二七,六〇	一〇〇,〇〇〇	五三,〇〇〇	二五〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一五		一九,九〇〇,〇〇〇	四七,四四	一〇〇,〇〇〇	五四,〇〇〇	二六〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一六		一九,三〇〇,〇〇〇	四七,一七	一〇〇,〇〇〇	五五,〇〇〇	二七〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一七		一八,四三〇,〇〇〇	三三,七四	一〇〇,〇〇〇	五六,〇〇〇	二八〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一八		一七,五一〇,〇〇〇	五六,二六	一〇〇,〇〇〇	五七,〇〇〇	二九〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
一九		一六,五三〇,〇〇〇	三八,〇三	一〇〇,〇〇〇	五八,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二〇		一五,四九〇,〇〇〇	八七,〇	一〇〇,〇〇〇	五九,〇〇〇	三一〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二一		一四,四〇〇,〇〇〇	一〇,三二	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三二〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二二		一三,〇〇〇,〇〇〇	二七,一五	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二三		一一,五三〇,〇〇〇	五二,三二	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三四〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二四		八,〇五〇,〇〇〇	四三,七六	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二五		四,五五〇,〇〇〇	七〇,二二	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三六〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇
二六		九七〇,〇〇〇	三六,二〇	一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三七〇,〇〇〇		一三七五,〇〇〇



市債償還計算調書

代	入			支			出			差引		年々	越
	土地賃貸料	國庫補助 公債賣却代	國庫補助 公債利子	債券利子 (年五分)	利子 手数料	諸費	港維持費	償還 手数料	償還額	子 殘額預托利 (年四分)			
〇〇〇〇〇〇	九三、六〇〇	〇	三三三、〇〇〇	一、五九四、五〇〇	三、九八六	三、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、二四〇	五七、〇〇〇	三、四九二	一四〇	三、六三二	
〇〇〇〇〇〇	一八七、二〇〇	〇	三三三、〇〇〇	一、五五六、〇〇〇	三、九一五	三、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一、四〇〇	七〇〇、〇〇〇	四、五一七	一八一	四、六九八	
〇〇〇〇〇〇	二八〇、八〇〇	〇	三三三、〇〇〇	一、五三一、〇〇〇	三、八二八	三、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、六八〇	八四〇、〇〇〇	三、九九〇	一六〇	四、一五〇	
〇〇〇〇〇〇	三七四、四〇〇	〇	三三三、〇〇〇	一、四八九、〇〇〇	三、七二三	三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一、四六〇	七三〇、〇〇〇	四、五六七	三三五	四、七四二	
〇〇〇〇〇〇	四六八、〇〇〇	〇	三三三、〇〇〇	一、四五一、五〇〇	三、六三三	三、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	一、二七六	八八〇、〇〇〇	四、五八〇	一八三	四、七六三	
〇〇〇〇〇〇	七九九、二八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、四〇八、五〇〇	三、五二一	三、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二、四八〇	一、二四〇、〇〇〇	四、五四二	一八二	四、七二四	
〇〇〇〇〇〇	七九九、二八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、三〇六、五〇〇	三、三六六	三、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二、六二〇	一、三一〇、〇〇〇	四、〇七六	二六一	六、七七九	
〇〇〇〇〇〇	七九九、二八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、二八一、〇〇〇	三、二〇三	三、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二、七八〇	一、三九〇、〇〇〇	四、〇七六	一六三	四、二三九	
〇〇〇〇〇〇	七九九、二八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、二〇二、五〇〇	三、〇二九	三、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二、九四〇	一、二八五、四八五	四、〇七六	四二	八、〇二二	
〇〇〇〇〇〇	七九九、二八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、一三八、〇〇〇	二、八四五	三、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	一、六四〇	八二〇、〇〇〇	七、八八七	三三五	六、二六〇	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、〇九七、〇〇〇	二、七四三	三、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九二〇	四六〇、〇〇〇	六、〇一九	二四一	七、三五八	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、〇七四、〇〇〇	二、六八五	三、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九八〇	四九〇、〇〇〇	七、〇七五	二八三	七、三六〇	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、〇四九、五〇〇	二、六二四	三、〇〇〇	一五二、〇〇〇	一、〇六〇	五三〇、〇〇〇	二、六五四	一〇六	二、七六〇	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	一、〇二四、〇〇〇	二、五五六	三、〇〇〇	一五三、〇〇〇	一、一三〇	五八〇、〇〇〇	四、五六一	一八二	四、七四四	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	九九五、〇〇〇	二、四八八	三、〇〇〇	一五四、〇〇〇	一、二〇〇	六〇〇、〇〇〇	四、五三六	一八一	四、七七一	
〇〇〇〇〇〇	一〇〇八、四八〇	〇	三三三、〇〇〇	九六五、〇〇〇	二、四三三	三、〇〇〇	一五五、〇〇〇	一、一七〇	八七〇、〇〇〇	三、二四四	一三〇	三、三七四	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	九二二、五〇〇	二、三〇四	三、〇〇〇	一五六、〇〇〇	一、八四〇	九二〇、〇〇〇	五、四一〇	二二六	五、六二六	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	八七五、五〇〇	二、一八九	三、〇〇〇	一五七、〇〇〇	一、九六〇	九八〇、〇〇〇	三、六五七	一四六	三、八〇三	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	八二六、五〇〇	二、〇六六	三、〇〇〇	一五八、〇〇〇	二、〇八〇	一、〇四〇、〇〇〇	八三七	三三	八七〇	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	七七四、五〇〇	一、九三六	三、〇〇〇	一五九、〇〇〇	二、一八〇	一、〇九〇、〇〇〇	九九三四	三九七	一、〇三三	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	二、二八〇	一、一四〇、〇〇〇	二六一一	一〇四	二、七一一	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	一、六二五	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	二、二九〇	一、一四七、〇〇〇	五〇三〇	二〇一	五、二三二	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	五七六、五〇〇	一、四四一	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	六、九六〇	一、四七〇、〇〇〇	四二二〇	一六八	四、三七八	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	四〇二、五〇〇	一、二〇六	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	七、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	六七五二	二七〇	七、〇三三	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	二二七、五〇〇	五五九	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	七、一六〇	三、五八〇、〇〇〇	三六七三	一四七	三、八二〇	
〇〇〇〇〇〇	一、三三七、六八〇	〇	三三三、〇〇〇	四八、五〇〇	一一二	三、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一、九四〇	八〇七、一三九	三三、二八六	八三	八、三九四	

Table with multiple columns and rows, containing detailed financial data and text, likely a continuation of the ledger or a summary table. The text is mostly illegible due to fading and low resolution.

項目	内容	備考
一、荒川ノ改修
二、越中島鐵道線ノ新設
三、本船塢泊所ノ總水面積百十四萬坪ノ内、先ヅ七十二萬坪ヲ水深二十五尺ニ...
四、運河及前港ニ關スル工費ヲ成ル可ク節約スルノ目的ヲ以テ、左ノ設計ヲ採...

東京築港新計畫ノ要領

第一 立案ノ骨子

新計畫ハ其大方針ニ於テ古市博士ノ計畫ヲ踏襲スト雖モ、同時ニ又最近ノ事實タル...

一、荒川ノ改修

ニ鑑ミ、主トシテ本港ノ配置ニ變更ヲ加ヘ、及ビ其結果トシテ前港並ニ運河ニ互...

リテ多少ノ修正ヲ試ミタリ。

新計畫ニヨル第一著手工事施行ノ便宜ノ爲メニ、甞メテ工費ノ節減ト資金回收ノ安全トヲ期シ、然カモ以テ寸毫モ將來擴張ノ餘地ヲ損セザランガ爲メニ、左ノ方針ヲ採用セリ。

一、港内浚渫水深ヲ大潮干潮面以下二十五尺ニ制限スルコト。

之レ或ハ其規模ノ餘リニ小ナルガ如キモ、現ニ横濱港ノ出入船舶統計ニ依...

レバ、吃水十二尺以上ノ入港船數一年約二千艘ニ對シテ、其九割ハ實ニ入港...

吃水二十四尺以下ナルヲ知ル。故ニ港内二十五尺ノ水深ハ、工費經濟上東京...

港第一著手ノ規模トシテ最モ實利的ノモノタルベシ。

二、本船塢泊所ノ總水面積百十四萬坪ノ内、先ヅ七十二萬坪ヲ水深二十五尺ニ、十尺及ビ十五尺ニ、細別浚渫スルニ止ムルコト。

三、岸壁棧橋等ノ本船塢附ケノ設備ハ、之ヲ將來ノ經營ニ讓ルコト。

四、運河及前港ニ關スル工費ヲ成ル可ク節約スルノ目的ヲ以テ、左ノ設計ヲ採...

ルコト。
 イ、運河ヲ一直線ニ改メ、其浚渫幅員ヲ當分敷幅四十五間上幅六十二間ニ止ム。
 ロ、運河沿防波堤ノ築造ヲ略シテ、單ニ其基礎工トモ見ル可キ簡易ノ防砂堤ト爲ス。
 ハ、前港内ノ浚渫區域及ビ突堤構造ノ一部ヲ省略ス。
 五、埋築地域ヲ擴大シ、且ツ其利用ニ遺憾ナカラシムルコト。
 本計畫ニヨレバ芝浦地先ニ於テ六十萬坪、越中島地先ニ於テ七十四萬坪ノ埋築地ヲ得ベシ。其地盤ハ何レモ甚ダ良好ナリ。
 埋築地ノ利用ヲ大ナラシムル爲メ、地域内縱横ニ幅三十間ノ運河ヲ配置シ、且ツ一部ノ陸上設備ヲ實施ス。
 第二計畫ノ大要

一、前港
 港門ノ水深 大潮千潮面以下四十尺
 港門ノ幅員 突堤ノ中心間隔百五十間
 前港内總水面積 十五萬七千坪
 浚渫ニヨリテ水深二十五尺以上ヲ有スベキ水面積 十一萬七千坪
 浚渫水深 大潮千潮面以下二十五尺
 二、大船運河
 總延長 四千九百九十間

浚渫幅員	敷幅
上幅	六十二間
水深	大潮千潮面以下二十五尺
三、本船繫泊所	
總水面積	百十四萬三千百坪
浚渫面積	七十二萬坪
内	
水深二十五尺ニ浚渫	三十二萬三千坪
水深二十尺ニ浚渫	十七萬九千坪
水深十五尺ニ浚渫	二十一萬八千坪
四、芝浦小船溜	
北船溜水面積	一萬七千四百坪
同上水深	大潮千潮面以下十二尺
南船溜水面積	二萬四百坪
同上水深	大潮千潮面以下九尺
水深九尺物揚場	延長二百九十間
水深六尺物揚場	延長七百十間
五、埋築地	
羽田地先埋築地面積	十二萬坪

帝都時代ノ港灣

芝浦地先埋築地面積
越中島地先埋築地面積

六十萬坪
七十四萬坪

第三 築港利用船舶並ニ貨物ノ豫想

現在東京市ニ出入スル海運貨物噸數ハ、一ヶ年平均三百五十萬噸ヲ越エ、本船トノ荷役關係上左ノ三種ニ大別スルヲ得ベシ。(計數ハ凡テ明治三十六年乃至四十年ノ八ヶ年統計平均額ヲ用ユ。)

- 一、横濱港荷役ノモノ 約二百七十五萬噸
 - 二、品川沖荷役ノモノ 約三十萬噸
 - 三、隅田川内荷役ノモノ 約四十五萬噸
- 合計 約三百五十萬噸

就中横濱港荷役ノ二百七十五萬噸ハ悉ク船運送ニヨリ京濱間ヲ往來スルモノニシテ、東京市民ハ爲メニ其輸送上ノ手數ニ於テ、其時間ニ於テ、其危險負擔ニ於テ、殊ニ其多額ノ運送費ニ於テ、常ニ莫大ノ損失ヲ負ヘリ。
東京港竣功ノ場合右ノ運送費ハ果シテ何程ヲ輕減シ得ベキカラ見シニ、日本郵船株式會社最近ノ調査ニ係ルモノ、左ノ如シ。

(甲) 現在ノ場合 (貨物一噸ニ對スル費用)	
外國貨物	內國貨物

横濱ニ於テ本船ヨリ船積移費
本船ヨリ東京迄船積(但船泊賃ヲ見込ム)
同上船運送保險料(一噸ノ平均價格外國貨物ハ貳百圓內國貨物ハ百五拾圓ニ對シ平均百圓ニ付拾八錢ノ割)
東京ニ於テ船積ヨリ隨所ノ倉庫ニ陸揚費平均
本船ノ荷物船卸ヨリ東京ニ於ケル隨所ノ倉庫ヘ倉入迄ノ日數ニ對スル金利見込

○・一三〇	○・一二五
一・〇〇〇	○・五五〇
○・三六〇	○・二七〇
○・一二〇	○・一一〇
○・二四〇	○・一二〇
計 一・八五〇	計 一・二七五

(乙) 東京港竣功ノ場合 (貨物一噸ニ對スル費用)

本船ノ東京回航ニ要スル船費割當(但主トシテ石炭消費高)
芝浦本港ニ於テ船積ニ積移シ費
本船ヨリ市内ニ至ル船積(但船泊賃等ヲ見込ム)
市内ニテ船積ヨリ隨所ノ倉庫ヘ陸揚費
本船荷物船卸ヨリ隨所ノ倉庫ヘ平均價格外國貨物ハ貳百圓內國貨物ハ百五拾圓ニ對シ外國貨物ハ四日間ノ日歩貳錢ノ割

○・〇一七	○・〇一七
○・一三〇	○・一二五
○・四〇〇	○・二八〇
○・一二〇	○・一一〇
○・一六〇	○・〇六〇
計 〇・八二七	計 〇・五九二

右ノ二表ヲ比較スルニ、東京港ノ利用ニヨリテ現在運送費ノ輕減セラルベキモノハ、

外國貨物ニアリテハ、一噸ニ付 壹圓貳錢參厘。
內國貨物ニアリテハ、同上 五拾八錢參厘。

故ニ京濱間出入貨物ノ現在額二百七十五萬噸ニ對スル節減額ハ、
外國貿易貨物約百八萬噸ニ對シテ 百拾萬七千圓。
內國貿易貨物約百六十七萬噸ニ對シテ 九拾七萬參千圓。

合計（一年ニ付） 貳百八萬圓。

若シ過去ノ貿易増進歩合ヲ以テ將來ヲ律スルヲ得バ、東京港竣功ノ年即チ十年後ニハ、恐ラク參百四拾萬圓ニ達セン。

但シ茲ニ東京築港第一著手ノ規模タル二十五尺ノ港内水深ヲ以テシテハ固ヨリ直チニ右ノ利益ヲ收ムルコト能ハズ。故ニ此場合先ヅ如何程ノ新港利用貨物ヲ得可キカヲ見ンニ、其豫想甚ダ容易ナラズト雖モ、假リニ

現在京濱間出入外國貿易貨物ノ三割 三二四、〇〇〇噸
同上內國貿易貨物ノ七割 一、一六九、〇〇〇噸
合計（同上内外國貿易總額ノ五割四分） 一、四九三、〇〇〇噸

ト推定スルハ、極メテ内輪ノ計算タル可シ。依テ右ノ噸數ヲ用ヒテ當初ノ運送費節減額ヲ見ルニ、
外國貿易貨物三十二萬四千噸ニ對シテ 參拾參萬壹千四百圓。
內國貿易貨物百十六萬九千噸ニ對シテ 六拾八萬壹千五百圓。

合計（一年ニ付キ）

百壹萬貳千九百圓。

即チ少クトモ一年百萬圓ノ運送費ハ第一著ニ之レヲ市民ノ負擔ヨリ輕減スルヲ得ベシ。（單ニ右ノ貨物噸數ニ對スル貿易増進歩合ヲ見込ムモ、築港竣功ノ年ニ於テハ其額百五十五萬圓ニ達セン。）然ルニ港内二十五尺ノ水深ヲ以テスレバ、事實上横濱入港船舶ノ十割ハ之ヲ利用シ得ベキ管ナルヲ以テ、新東京港ノ聲價ノ發揚ト共ニ恐ラク豫期以上ノ成績ヲ舉グルヲ得可ケン。

其他東京港ノ利用貨物トシテハ、別ニ品川沖荷役ノ三十萬噸ノアルアリ。尾城汽船會社ノ調査ニヨレバ、雜貨一噸ニ付キ金貳拾貳錢ノ運送費節約ヲ得ベク、此額又一年六七萬圓ヲ算セン。

東京港入港船數ノ豫定ハ、一層困難ナリト雖モ、之レヲ前掲ノ出入貨物噸數ヨリ察シバ、一年約千貳百艘乃至千五百艘ト豫定シ得ベキガ如シ。

第四 工費及工期
本計畫ニ對スル工事豫算ハ總額貳千萬圓、工期十ヶ年ニシテ、工費支出年度割左ノ如シ。

第一年	百五十萬圓
第二年	參百萬圓
自第三年至第九年各年	貳百萬圓
第十年	百五十萬圓
合計	貳千萬圓

第五 工費ノ收支

東京築港ノ利益ハ、前記海運貨物輸送費ノ輕減以外、直接間接ニ頗ル多様ナルヲ必スト雖モ、是等ハ總テ一般市民ノ利益ニ歸スベキモノニシテ、築港工費ノ收支ニ關シテハ別ニ稽フル所ナカル可カラズ。即チ本計畫ニヨレバ、埋築地トシテ、

芝浦地先	六十萬坪
越中島地先	七十四萬坪
羽田地先	十二萬坪
合計	百四十六萬坪

ヲ得ベク、此内港附屬地竝ニ道路敷ヲ控除シタル殘坪約九十萬坪ノ賣却及貸附收入ヲ見込マバ、爾他ノ雜收入及ビ僅少ノ入港料賦課(船舶登簿一噸ニ付約五錢ノ見込)ヲ以テスル而已ニシテ、事業公債償還ノ途ヲ講ズルヲ得可ク、市税ノ補助ハ全然之ヲ豫期セズ、又不幸ニシテ國庫ノ補助ヲ受クル能ハザルモ猶ホ之ヲ完済シ得ベシ。

公債計算方法ハ別冊是レヲ詳悉ス。而シテ公債償還終了ト共ニ入港料ノ徵收ヲ廢スルモ、尙土地ノ賃貨料ニヨリテ爾後毎年百四拾餘萬圓ノ收益ヲ生ゼントス。築港事業ニヨリテ永久ニ市金庫ノ享ク可キ利益亦尠シト爲サンヤ。

(二) 直木技師第一期工事計畫

其後技師工學博士直木倫太郎隅田川口改良第三期工事計畫ヲ立ツ、後之ヲ

東京築港第一期工事計畫ト稱ス。工費六百五十八萬圓ヲ以テ之ヲ成サムトスル者ニシテ、同技師ノ第三案也。大正三年八月十日築港調査委員會ノ決議ヲ了ス。

東京築港第一期工事計畫概要

第一 總說

目下工事中ナル隅田川口改良第二期工事ハ、明治四十四年七月起工以來著々豫期以上ノ進行ヲ遂ゲ、工期四ケ年半ノ豫定ニ對シ、一ケ年以上ノ日子ヲ餘シテ本年^{○大正}九月中ニハ其埋築全部ヲ終へ、道路橋梁其他ノ附帶工事モ、亦本年度末マデニハ竣功シ得ベキ狀態ニアリ。乃チ本市ハ右改良工事ノ結果トシテ、隅田河口ニ水深十二尺ノ航路ヲ開鑿シ得タルニ満足シテ以テ本事業ヲ打切ル可キカ、又ハ進ンデ其以上ノ改良ヲ續行スベキカ之レヲ決スルノ時機正ニ今日ニ迫レリ。

惟フニ往年五六尺ニダモ滿タザル河狀ヨリ起チテ是レガ改良ヲ策スルニ方リテハ、十二尺深ノ浚渫標準ハ恐ラク當時ニアリテ適度ノ要求タリシナラン。サレド十二尺深トハ之レ畢竟滿載約五百噸ノ小船ニ對スル規

模ノミ。即チ近海航路ノ小汽船ト及ビ在來隅田河内ニ來往スルニ習ヘル小型帆船トノ爲メニハ、著シク其出入碇泊ノ安全ヲ加ヘ、殊ニ往時ニアリテ屢々免ル可カラザリシ退潮時ノ擱坐、若クハ輻湊時ノ事故ヲ輕減シ得タルニ於テ、頗ル其利ヲ認ムベシト雖モ、然カモ、翻ツテ千噸級以上ノ汽帆船ニ看バ、彼ノ品川沖碇泊ノモノスラ未ダ何等ノ利便ヲ享クルニ及バズ。況ヤ主トシテ本市海運貨物輸送ノ衝ニ當レル横濱入港ノ諸船舶オヤ。加之千噸未滿ノ小型船舶ハ、近時一般ニ其利用ニ乏シク、其運送ニ係ル貨物數量モ亦甚ダ多カラザルヲ如何。換言スレバ、本市ハ今日マデノ浚渫工事ニヨリテ、其水運改良ノ積極的方針ニ向ヒ能ク堅實ナル第一歩ヲ踏出スコトヲ得タルモ、併カモ此程度ノ改良ノミヲ以テ満足センガ爲メニハ、其利ノ僅小ナル遂ニ其可ナル所以ヲ知ラザルナリ。

況ンヤ折角十二尺深ニマデ浚渫シ終ヘタル現在ノ隅田河口トテモ、彼ノ荒川改修工事完成以前尙約七年ノ日子ヲ餘セル今日ニ在リテハ、漫リニ其水深ノ維持ヲ自然ニ依頼スルコト能ハズ。即チ在來ノ經驗上一年平均三寸厚ノ埋沒ハ、七年ニハ積ンデ二尺ニ達スベク、是レヲシモ自然ニ委棄シテ顧ミザルニ於テハ、今日ノ十二尺深ハヤガテ明日ノ八九尺深タルヲ豫想セザル可カラズ。般鑑遠カラズ現ニ我隅田河口ガ明治二十年ヨリ二十八年ニ互リ政府ノ手ニ一旦十二尺深ニ浚渫セラレタルニモ拘ラズ、其後ノ維持ニ留意セザリシ結果ハ、十年ノ後既ニ五六尺ノ深度ヲ隨所ニ現出シタリシニハ非ズヤ。

曩ニ日本船主同盟會ハ、本市ノ諮問ニ答ヘテ「本會加盟船總噸數五百噸以上」ノ利用如何ヲ基礎トシテ考察スル時ハ、隅田川口改良第一期第二期工事トモニ其規模過小ニシテ、殆ド本會加盟船ニ取ツテハ何等ノ便益ヲモ寄與セラレザルモノ、如ク思料被致候段、甚敷遺憾之至ニ不堪候（中略）我等航運業者トシテハ、第二期工事御豫定計畫ノ水深大潮干潮十二尺ナルニ於テハ、到底本會加盟船ヲ入航セシムルニ困難ニシテ、少クトモ大潮干潮時ニ於テ二十尺以上ノ水深ヲ維持セシムルコトノ必要ナルヲ思料罷在候處ニ御座候。下訴ヘシメ、尾城汽船合資會社ノ如キハ、本社ハ既成隅田川口改良工事ヲ有利有益ニ善用スルニ付キ、他ニ卒先シテ比較的大船ヲ出入セシメント欲シ、諾威國汽船重量噸數一千八百噸滿載吃水十七呎特

ニ芝浦ニ出入セシムル目的ヲ以テ喫水ニ重キヲ置キタリ。ヲ購入シ、該汽船ヲ他港へ廻航スル時ハ、ヨリ以上ノ利益ヲ獲得セラル、ニモ拘ラズ、敢テ隅田川口ニ入港ヲ企テ、特ニ船名モ芝浦ノ別名ニ因ミテ袖ヶ浦丸ト命名シ、尙引續キ同型船ヲ購入スルノ計畫ヲ爲シ、加フルニ大形汽船ノ碇繋ヲ安全ナラシムルガ爲メニ、私財ヲ投ジテ浮標ノ設置ヲ圖ル等、改良工事ノ善用ニ全力ヲ傾到セシモ、遺憾ナガラ規模狭小ニシテ如上ノ計畫ハ水泡ニ歸シ、袖ヶ浦丸ハ今ヤ北清航路ニ駛走シツ、アリ、痛恨奚ゾ加之矣。ト歎ゼシムルガ如キ、又以テ十二尺深ニ對スル營業者間ノ意向ヲ察スルニ餘リアラン。

否啻ニ夫レノミニハアラズ、此際特ニ注意スベキハ本市ガ年々直接ニ需用シ消費シツ、アル莫大ナル内國貨物ノ水運状態ニアリ。即チ事ノ外國貿易ニ關スルモノハ暫クコレヲ別トシ、單ニ内國品ノミニ就テ見ルモ最近ノ一年ニ於テ、例セバ、

- 石炭 室蘭、門司、三池、唐津等ヨリ輸入 一、五四八、四〇七噸
- 米穀 肥後、小樽、北越等ヨリ輸入 三二四、五八〇噸

雜貨 神戸、大阪、清水、沼津、房總、尾勢等ヨリ輸入

一三二、四三七噸

砂糖 臺灣、神戸、門司、大阪等ヨリ輸入

八〇、一六一噸

食鹽 阪出、撫養、赤穂、味野、尾之道等ヨリ輸入

七六、六五八噸

(自明治四十五年一月一年間統計、日本郵船株式會社調査)

ノ如キ、單ニ此五品ノミノ輸入ヲ以テスルモ其額實ニ二百十六萬噸ヲ超ユベク、外ニ數多ノ雜品ヲ合セテ一年二百五十萬噸ノ内國品ハ、何レモ本市日常ノ需用ヲ目的トシテ、遠クモ北海道九州乃至臺灣ヲ出デザル距離ヨリ僅々二三千噸級ノ内國船舶ニ依リテ回送シ來ルニ過ギザルモ、如何セン本市水運ノ利便未ダ擧ガラザルガ爲メニ、直接本市ニ回航ノ途ヲ止ムナク横濱若クハ品川沖合ニ投錨シテ、夫レヨリ舢舨ニ移載シ、曳船ニ連曳セラレテ以テ辛フジテ本市ニ到達スルニ非ズヤ。即チ之ガ爲メニ蒙ムル運賃、手數、遲滯、手違ヒ、竝ニ危險損傷ノ負擔ハ、當然本市民ニ轉課サルベキモノニシテ、市民ハ常ニソレ丈ケ高價ノ物品ヲ使用シ、即チソレ丈ケ痛切ニ本市水運ノ不便ニ苦メラレツ、アルモノニ外ナラズ。而シテ試ニ京濱間運送貨物ニ付テ、右ノ負擔中容易ク金額ニ見積リ得ベキモノ、ミ

ヲ内輪ニ計算シ、平均一噸五拾錢ト見做スモ、内國貨物ノミニ於テ輸入ニ百拾參萬圓、輸出ニ拾貳萬圓、合セテ一年百貳拾五萬圓ノ浪費ヲ算セントス。豈驚カザル可ケンヤ。

又縦シヤ本市民ニシテ假リニ是等ノ負擔ニ就テ頗ル無頓著ナリトセンモ、抑モ大江戸ノ古ヘヨリシテ國內百貨ノ直接廻漕ニハ何等ノ支障ナク、因ツテ以テ霸府三百年ノ繁華ヲ確立シ得タル本市ニシテ、今日偶々廻航船舶ノ二三千噸級タルニ至リシ一事ノ爲メニ、頓ニ其ノ在來ノ船入レノ利便ヲ失ヒ、一轉シテ月島附近ニ、再轉シテ品川沖合ニ、港ノ退却ヲ強キラレタルサヘ既ニ忍ブ可カラザルヲ、況ヤ更ニ三轉シテ遂ニ横濱港ヨリ遙々十七湊ノ海路ヲ眇タル舢舨ニ移載シ、搬送シ來ルニ非ザルヨリハ、米穀薪炭其他ノ生活必需品ヲスラ供給スルニ由ナキ不便ノ事態ヲ醸セルニ放任シテ、以テ怪シマザルニ至ツテハ、ソモ之ヲ何トカ云ハン。

請フ更ニ最近一年ノ統計ニヨリテ、本市出入ノ内國貨物ガ輸送上如何ニ分類サル、カヲ見ヨ。

自明治四十五年一月至大正元年十二月東京市出入内國水運貨物噸數表

荷役別	輸 入	輸 出	輸出入合計	割合
隅田川内荷役	三六二、二五三 <small>噸</small>	二五七、四九一 <small>噸</small>	六一九、七四四 <small>噸</small>	(一割八分)
品川沖荷役	二三六、八四二	四三、〇二三	二七九、八六五	(八分)
横濱港荷役	二、二五五、一五一	二五三、二四八	二、五〇八、三九九	(七割四分)
合 計	二、八五四、二四六	五五三、七六二	三、四〇八、〇〇八	

今日隅田河口ノ十二尺深タリ得シニヨリテ特ニ其利便ヲ感ズルモノハ、畢竟前表中ノ直接河内出入ニ係ル六十二萬噸中ニ包括サルベキモノニシテ、縦シ是ヲ其全部ト看做スモ、内國品ノ出入總額ニ比スレバ、僅ニ其割八分タル而已、即チ本市ハ過去十ヶ年ノ經營ニヨリテ内國貨物ノ一割八分以内ニ對スル利便ヲ増進スルヲ得タリ。サレド若シ此儘ニシテ止マバ、他ノ八割二分ニ對シテ何等其利ノ見ルベキモノナキハ勿論、右ノ一割八分ト雖モ、亦恐ラクハ河底自然ノ埋没ニツレテ、ヤガテ其一割五分タリ一割タルニ減却シ去ランモ未ダ知ル可カラザルオヤ。

而シテ此ノ如キモノ、若シ其理由ヲ質セバ則チ單ニ隅田河内ニ僅々二三

千噸級ノ船舶ヲタモ收容セシメ能ハザルガ爲メノミ。然リ只是ノミ。豈熟慮ニ値セザランヤ。

即チ能フ可クンバ、此機會ニ於テ一舉直チニ東京築港ノ完成ヲ望ハ固ヨリナリト雖モ、然カモ本市財政ノ現状ニ徴シ尙容易ニ是ガ決行ヲ期ス可カラズンハ、則チ此際寧ロ該計畫ノ方針ニ準據シテ、著々其一部分ツ、ノ實現ヲ企圖シ、セメテハ二三千噸級ノ本船ヲ芝浦砲臺以內ニ出入セシメテ、以テ差詰メ本市水運貨物ノ現ニ蒙リツ、アル一半ノ不利不便ヲダモ速カニ除却スルノ方圖ニ出デザルヲ得ンヤ、之レ本計畫提案ノ理由ニシテ、而シテ我二百萬市民ノ生活必需品ニ對スル水運經濟上特ニ考慮ヲ請ハザル可カラザル所以ナリ。

第二 計畫ノ大要

本計畫ノ主眼トスル處ハ、芝浦地先ニ大潮干潮水面以下二十五尺深以下單ニ水深ト記ス。ノ本船溜ヲ設ケ、二十一尺深ノ航路ヲ以テ是ヲ外海ニ連接スルニアリ。即チ滿載二千噸級ノ船舶ナラバ、潮ノ干滿ヲ問ハズ、三千噸級ノモノト雖モ若シ半潮位ニ乗ズレバ、又容易ニ右ノ船溜ニ出入セシム

ルヲ得ベシ。而シテ其施設ノ大體ハ、曩ニ提案セル築港計畫ノ方針ニ準據シテ違フ處ナク、只其細目ニ於テ一面荒川改修工事完成マデノ事態ニ顧慮シテ、多少ノ修正ヲ必要トシタルニ過ギズ。

但シ、港ノ浚渫水深ニ關シテハ特ニ一言スベキモノアリ。即チ芝浦地先ニ大船ヲ出入セシムルガ爲ニハ、地勢上其港門ヲ遠ク羽田附近ニ撰ブノ外ナキコト、既ニ何人モ異議ナキ處ナリト雖モ、然カモ茲ニ注目スベキハ、第二第五砲臺間ヨリ羽田岬頭ニ達スル豫定運河線ノ半途ニ近ク大森町沖合ニ偶々水深二十一尺線ノ自然ニ存在スルコト之ナリ。故ニ若シ航路ノ水深ヲシテ當分二十一尺ニ止マラシムルヲ得バ、此際敢テ羽田ノ港門ヲ開クヲ要セズ、右ノ地點ヲ假港門トシテ以テ運河一半ノ浚渫ト前港設備ノ大半トヲ他日ニ讓リ、併セテ其間多大ノ工費ヲ節約シ得ベキハ勿論、出入船舶ニ對スル運河ノ道程モ亦當分半減サレ得ベキノ便アリ。之レ本計畫ニ於テ特ニ此便宜ニ就キ運河ノ浚渫水深ヲ大潮干潮面以下二十一尺ニ制限シテ、一ト先ヅ我水運上第一著手ノ利便ヲ舉ゲ、依ツテ他日ノ發展ヲ促成セント欲スル所以、本計畫立案ノ骨子實ニ茲ニ存ス。

右ノ水深ハ或ハ一見其姑息ニ類スルヲ以テ是ヲ難ズルモノアラシム。サレド此場合ノ如ク假港門ノ位置恰モ豫定ノ運河線ニ近接シテ、毫モ將來ノ大計畫ヲ遂行スルニ障礙ヲ爲サズ、且ツ是ヲ假港門ト云フモ、實ハ他日ノ副門トシテ永久ニ其利ヲ存スルモノニアリテハ、即チ明ニ其施設ニ何ノ矛盾ナク、將タ重複ナキ所以ヲ解スルニ足ラン。況ヤ東京灣ノ地勢ヲ以テシテ、砲臺以外ノ設備ニ當初ヨリ事ノ完キヲ望ミ、却テ工費ノ巨額ニ累セラレテ永ク其實行ヲ見得可カラザルガ如キハ、本市水運ノ改善上寧ロ忍ブ能ハザルオヤ、

本計畫ニヨル各部面ノ設備、大要左ノ如シ。

一、港門 港門ノ方向ハ、灣内ノ風向ト船舶出入ノ利便トヨリ打算シテ、是ヲ東微南ニ向ハシム。其幅員百五十間ニシテ、周ラスニ南北ノ二防波堤ヲ以テシ、門内ニ平均幅員二百四十間、奥行二百三十間ノ船溜ヲ湛ヘ、北々西ニ轉向シテ運河ニ入ラシム。但シ南防波堤ノ一部ニシテ、將來羽田ヘノ豫定運河線ヲ横切レル箇所ハ是ヲ一時ノ遮斷工トシ、其材料ハ他日羽田ノ本港門設備ニ轉用セシムルヲ豫期ス。

二、運河 假港門開始ノ結果、運河ノ延長ハ約三千間トナリ、羽田ヨリスル航程ノ五分ノ二ヲ短縮スルヲ得ベシ。運河ノ幅員ハ、底幅六十間、水面幅七十四間ニシテ、之ヲ水深二十一尺ニ浚渫シ、且ツ途中現在ノ隅田川濬トノ交叉點ニ近ク幅員百五十間、長三百間ノ擴大部ヲ備ヘテ操船ノ利便ヲ大ニシ、更ニ其以北ニハ水深十二尺、底幅四十間ノ小船航路ヲ竝置シテ大小船來往ノ混雜ヲ防グ。

運河ノ左右ニハ二百間ノ間隔ニ簡易ナル防砂堤ヲ竝列シテ、海底土砂ノ移動ヨリ生ズル航路ノ埋没ニ備ヘ、且ツ適當ニ航路標識設備ヲ配置ス。

三、本船溜 本船溜ハ第五砲臺ニ接シテ深ク芝浦地先ニ彎入シ、埋立地ヲ以テ其三面ヲ圍繞スルノミナラズ、前面ニハ第二砲臺ノ庇護ヲ受ケテ風波竝ニ埋没ノ危険少ク、船舶ノ出入亦頗ル容易ナルベキヲ期ス。船溜ノ長さ二百八十間、幅員百六十二間、此水面積約四萬五千坪ニシテ、内三萬五千坪ヲ水深二十五尺ニ浚渫シ、運河ノ出入ニ小潮干潮ヲ利用シ得ル限りノ船舶ヲ收容スルニ足ル。

船溜内ニハ、二列ノ繫船杭ヲ配置シテ、六艘ノ本船ヲ同時ニ繫留セシムル

ヲ得ベク、其北岸一帯ハ之レヲ水深三尺ノ市有物揚場トシ、他ハ民間ノ經營ニ讓リテ容易ニ棧橋又ハ繫船岸設備ヲ施スニ適セシム。

四、小船溜 小船溜ニニアリ、一ハ月島ノ南角ニ接シテ、隅田河落筋ヲ長サ六百五十間平均幅員百二十間ノ廣サニ擴大シ、此水面積約八萬坪ヲ水深十八尺ニ浚渫シテ、周ラスニ簡易ノ防砂柵ヲ以テセントスルモノ、他ハ即チ深ク芝浦地先ノ埋立地間ニ曲折シテ、延長三百七十間幅員六十間乃至百間此水面積參萬坪ヲ十二尺深タラシメントスルモノ、而シテ前者ニハ浮標ノ備ヘアリ、後者ニハ十二尺深物揚場ノ圍繞アリ、夫々其深度ニ應スル帆汽船ヲ收容シテ、等シク其位置ヨリスル最善ノ利便ヲ發揮セシムルヲ期ス。

五、埋立地 以上ノ改良工事ニ伴フ不用土砂ノ處分方法トシテハ、成ルベク是レヲ有益ナル土地ノ埋築ニ充當スルヲ以テ當然トシ、同時ニ是等ノ埋築地ニハ、水陸兩路ノ便ヲ具備シテ、電メテ其利用ノ廣大ナルヲ期セザルヲ得ズ。乃チ本計畫ニテハ、運河竝ニ船溜ノ開鑿、既成落筋ノ維持、及ビ埋立地間小運河ノ浚渫等ヲ併セテ生ズベキ浚渫土砂總量百十二萬三千餘

坪ヲ利シテ、芝浦地先ニ總面積約四十二萬坪ノ埋立ヲ行ヒ、且ツ是レヲ貫通シテ縱横ニ幅員三十間ノ運河ヲ設ケントス。其配置ハ既成埋立地ニ接續シテ、隅田河落筋ニ達スル芝浦地先ノ全面ヲ蔽ヒ、以テ既記ノ大小船溜ヲ包圍スルコト、別紙平面圖ニ示ス處ノ如ク、其埋立地盤高ヲ水面上十二尺ニ置クコト、及ビ其周圍護岸ヲ主トシテ木造假護岸ト爲スハ、則チ既成埋立地ノ例ノ如シ。

區分

イ號埋立地

一二、九八五・四坪

ロ號同

六一、一三七・〇

ハ號同

六五、八三三・五

ニ號同

二九、五六九・〇

ホ號同

六六、六八四・〇

ヘ號同

三二、二七六・五

ト號同

五五、九二八・〇

チ號同

九四、四六五・〇

リ號同

三、八七〇・〇

帝都時代ノ港灣

一〇六九

(備考) リ號埋立地ハ、單ニ品川地先トノ連絡道路ニ充ツルノ目的ニシテ、其幅員二十間トス。

第三 工事ノ設計

一、突堤 南突堤幹部ノ構造ハ、捨石直壁混成堤ニシテ、下部ハ厚三尺ノ沈床一層ヲ基礎トセル大小ノ捨石ヲ以テ組成シ、上部ハ混泥土塊ノ疊層ヨリ成ル。

下部構造ニ用ユル捨石ハ、一個ノ重量五貫目乃至十五貫ノモノト二十貫目以上トノ二種トシ、小石ヲ堤體ノ中心トシ、大石ヲ以テ其表面ヲ被覆ス。捨石ノ上端高ハ、地盤ノ深淺ニ應ジテ大潮干潮平均水面以下單ニ零點ト書ス。以下六尺乃至十尺ニ止メ、天端幅約四十尺兩側共一割五分ノ勾配ヲ保タシム。

上部構造ニ用ユル混泥土塊ハ、一個重量約十噸トシ、四層乃至五層ニ疊積シ、天端幅十四尺ヲ以テ零點上十尺ニ至ラシム。尙捨石上面掩護ノ爲メ海外ニ面スル側ニ、一列乃至二列ノ捨方块ヲ置クモノトス。

南突堤ノ内將來羽根田ヘノ豫定運河線ヲ横切ルベキ部分ハ、特ニ捨石量ヲ減ジ、且ツ方块ノ轉用ヲ豫期シテ他日ノ撤回ニ便ナラシム。

北突堤幹部ニアリテハ、南突堤ノ如キ強烈ナル波浪ニ曝露サレザルヲ以テ其構造モ簡易ヲ主トシ、下部ハ厚三尺幅二間半ノ沈床ヲ兩側二割法ヲ以テ階段形ニ疊積シ、天端幅三十一尺零點下四尺ニ止ム。面シテ兩側沈床中間ハ、土丹岩ヲ詰込ミ、表面ハ約三割法ニ浚渫土砂ヲ投棄シテ沈床ヲ包圍シ、虫害ヲ豫防ス。

上部構造ハ、南部突堤ト同ジク約十噸ノ方块三層ヲ沈床上ニ疊積シ、天端幅十四尺ヲ以テ零點上八尺ニ至ラシム。

南突堤頭部ノ構造ハ、略其幹部ト同一ニシテ、只其高ト幅員トヲ増加シ、燈臺ヲ設置ス。尙周圍ニハ二列ノ捨方块ヲ配置シ、頭部本體ヲ擁ス。北突堤頭部ノ構造モ略其幹部ト同一ニシテ、高ト幅員ヲ増加シ、且ツ燈臺ヲ設置スル事南突堤ノ如シ。

南北兩突堤ノ西端部ハ、何レモ突堤幹部ノ工法ニ準ジテ稍其幅員ヲ増加ス。

二、運河沿防砂堤 本工ハ運河ノ兩側ニ沿ヒ、隅田川口改良第二期工事ニ於テ施工セル殘部ニ築設スルモノニシテ、其構造ハ幅一尺厚五寸、長サハ海底地盤ニ應ジ二十尺乃至二十五尺ノ鐵筋混凝土杭ヲ、間ニ四本ノ割合ヲ以テ千鳥ニ打立テ、杭頭ヲ零點上四尺ニ置キ、導材ヲ取附ケ、各杭ヲ一體ニ緊束ス。同時ニ杭ヲ中心トシテ浚渫土砂ヲ投下シ、其表面ニ土丹岩ノ捨石ヲナス。其兩側勾配ニ割天端幅三尺トス。

右ノ鐵筋混凝土防砂柵ニ添ヒ、見通杭トシテ距離十間毎ニ松丸太ヲ打立テ、頭部ヲ零點上八尺ノ高ニ置キ、滿潮ニ際シ其所在ヲ明瞭ナラシム、又本堤ノ各所ニ通路ヲ設ケ、及突端ニ特殊ノ烙印杭ヲ建設シテ、運河ヲ橫斷スル小船舶ノ出入ニ便ナラシム。

三、月島地先小船溜沿防砂柵 本工ハ十數年來隅田川筋沿岸ニ施工セル導流柵ト略同一ノ構造ヲ用ヒ、即チ柵杭ハ、末口五寸長八尺ノ防腐液注入松丸太材ヲ間ニ四本ノ割合ヲ以テ千鳥ニ打立テ、導材ヲ以テ一體ニ緊結ス。烙印及見通杭ハ總テ運河沿防砂堤ニ準ジ施工ス。

四、各種護岸 埋立地ノ護岸ハ、之レヲ甲乙ノ二種及物揚場護岸トス。甲種

護岸ハ、比較的強烈ナル波浪ニ曝露サル、部分、即チ芝浦地先埋立地ノ南面ニ施工スルモノニシテ、四寸角長十二尺ノ松材ヲ三尺間隔ニ打立テ、其中間ハ厚一寸五分長八尺ノ矢板ヲ打込ミ、笠木及腹起シ(木材ハ全部防腐液注入トス)ヲ取附ケ、且ツ其表裏ニ捨石ヲ施シタルモノヲ根止メトシ、厚二尺ノ割栗石交リ混凝土ヲ以テ一割五分ノ勾配ニ腹附ケヲ爲スモノトス。尙埋立地内ニ波濤ノ襲來ヲ防グ爲メ、護岸上ニ高三尺五寸ノ鐵筋混凝土胸壁ヲ築造ス。

乙種護岸ハ、前記甲種竝ニ物揚場護岸施設以外ノ部分ニ施工スル木造假護岸ニシテ、埋立地護岸ノ大部分ヲ占ム。之レヲ一段柵、二段柵、地盤軟弱部、航路ニ面スル部分ノ四種ニ分ツ。

一段柵ハ、主トシテ東西ノ方向ヲ取ル小運河ニ面スル埋立地護岸ニ施工ス。其構造ハ、五寸角長二十尺防腐液注入ノ松杭(以下單ニ注入ト書ス)ヲ間ニ三本ノ割合ヲ以テ一列ニ打込ミ、亞鉛引鐵線竝ニ注入松角材ヲ以テ、後方控杭ニ緊著ス。張板ハ滿潮水面附近迄ハ、注入松挽材ヲ、夫レヨリ上部ハ樞板割ヲ用ヒ、裏面ニハ土地ノ硬軟ニ應ジテ適當ノ土丹岩ヲ詰込ムモノ

トス。

二段柵ハ、南北ノ方向ヲ取ル小運河ニ面スル埋立地護岸、即チ一段柵施工個所ニ比シ波浪ノ影響比較的大ナル個所ニ施工スルモノニシテ、其構造ハ四寸五分角乃至五寸角長二間乃至三間ノ杭木ヲ延長各一間ニ付三本ノ割合ヲ以テ二列ニ打込ミ、適宜亞鉛引鐵線ヲ用ヒテ後方控杭ニ緊著シ、尙松角材ヲ以テ兩列ヲ結合ス。杭木各列ノ間隔ハ約三尺ニシテ、中間ニ階段ヲ附ス。杭材ハ後列ニハ檜押角ヲ、前列ニハ注入松押角ヲ使用シ、張板ハ、後列ハ樞板割、前列ハ注入松挽材ヲ張立ツルモノトス。尙前列張板裏面ハ裏込トシテ土丹岩ヲ使用シ、中間階段ハ土丹岩ヲ基礎トシテ、厚約二尺ノ割栗石ヲ詰込ミ、目潰混凝土ヲ填充ス。

地盤軟弱部護岸ハ、地盤ノ特ニ軟弱ナル部分ニ施工スルモノニシテ、二段柵ノ工法ニ準ジ、基礎ニ充分ノ土丹岩ヲ投棄ス。

浚渫浚筋ニ面スル埋立護岸ハ、在來地盤零點下數尺ニ達スル處アルヲ以テ、其深度ニ應ジ、先ヅ浚渫土ヲ投棄シ土丹岩ヲ布キ、更ニ割栗捨石ヲ施シ、之ヲ基礎トシテ二段柵ヲ築造ス。尙船舶ノ衝突破壊ヲ防グ爲メ、板柵前面

ニ間隔約四間毎ニ防衛杭ヲ建設スルモノトス。

水深三尺物揚場護岸ハ、(ロ)號埋立地ノ兩船溜ニ面スル部分ニ施工ス。其構造ハ、一段柵ト略同一ニシテ、柵杭ハ五寸角長十八尺ノ注入松押角ヲ用フ。板柵笠木高ハ、零點上八尺トシ、夫レヨリ八割勾配ヲ以テ幅員四間ノ龜張工ヲ施シ、適當ノ間隔ニ繫船柱ヲ建込ミ、船舶ノ繫留竝ニ荷役ニ便スベシ。水深十二尺物揚場護岸ハ、芝浦小船溜ノ周圍ニ施工スルモノニシテ、十二尺水深以下五尺ノ根堀ヲナシ、之ニ砂ヲ填充シタル基礎上ニ幅十二尺高十五尺ノ鐵筋混凝土潛函ヲ二十五分ノ一ノ勾配ニ沈下シ、其上面ヲ零點上三尺ニ至ラシメ、上部ニ練積間知石垣ヲ積上ゲ、零點上八尺ニ達スルヤ更ニ八割勾配幅員四間ノ龜張工ヲ施スニアリ。

鐵筋混凝土潛函ハ、沈下後函ノ前部ニハ混凝土ヲ、後部ニハ砂ヲ填充シ、土丹岩ヲ以テ裏込ヲ施シ、又上部間知石垣部ニハ防衝棒ヲ取付ケ、張石斜面ニハ繫船柱ヲ建テ船舶ノ繫留竝ニ荷役ニ便ナラシム。尙潛函ノ底部前面ハ、基礎砂ノ表面ニ砂利ヲ散布シ、袋詰混凝土ヲ布設シテ、船舶ノ推進器其他ヨリ起ル砂ノ移動ヲ防止ス。

第四 工費並ニ工期

工費ノ豫算ハ、別掲ノ如ク總計金六百五拾八萬圓ニシテ、内ニ大形浚渫機一艘、竝ニ其附屬船艇ノ新規購入費ヲ見込メリ。蓋シ本市在來所有ノ浚渫機ハ、何レモ大潮干潮水面以下十二尺深ノ浚渫ヲ適度トシテ建造セラレシモノナルヲ以テ、今回ノ工事ニ對シテハ最早是レノミニ依頼スルニ由ナケレバナリ。

工期ハ五ヶ年ニシテ、之レヲ大正三年度ヨリ八年度ニ互ル繼續事業トナスベシ。即チ第二期工事ニ引續キ直ニ之レニ著手スルモノニシテ、其年度割額竝ニ收支豫算ハ、別紙參考書ニ詳悉ス。

東京築港第一期工費豫算書

一金六百五拾八萬圓

内譯

金、八拾貳萬、參千五百圓

金七拾八萬參千九百七拾圓

金貳百參拾參萬五千百拾圓

突堤及防砂柵工費

護岸工費

浚渫埋立工費

種	類	員	數	單	價	金	額
南	部 突 堤 幹 部	一	九	一	五、三〇〇	二、九二、二三〇	四
同	部 突 堤 幹 部	一	〇	二	五、〇〇〇	二、五〇、〇〇〇	〇
北	部 突 堤 幹 部	二	〇	八	五、〇〇〇	一、七〇、〇〇〇	〇
同	部 突 堤 幹 部	一	〇	六	八、〇〇〇	六、八〇〇	〇
運	河 外 側 防 砂 柵	一	一	一	一、五〇〇	一、六六、六五〇	〇
運	河 内 側 防 砂 柵	一	一	一	一、九五五	一、四六、六二五	〇
月	島 地 先 船 溜 沿 導 流 柵	一	一	一	六五〇	七、八〇〇	〇

第一 突堤及防砂柵工費

金七拾七萬五千八百拾五圓

金百貳拾壹萬四千圓

金四萬圓

金參拾五萬八千圓

金貳拾五萬圓

工費内譯書

雜工費

機械器具費

測量調查費

事務費

豫備費

種	類	員	數	單	價	金	額
水深十二尺物揚場護岸	同	甲種	四六五	冊	六二五	円	二九〇、六二五
同	種	護岸	七四〇	冊	一三五	円	九九、九〇〇
乙種	板	一	三、八八二	冊	四五	円	二一三、五一〇
計	地盤軟弱部	航路ニ面スル分	四六五	冊	六五	円	二二、四二五
前港及運河	第三浚渫埋立工費	四一六、四〇〇	坪	二、〇〇〇	円	円	八三二、八〇〇

種	類	員	數	單	價	金	額
小運河	砲臺内航路及船溜浚渫並ニ維持	堅	五五、二〇〇	層	二、〇〇〇	円	一一〇、四〇〇
橋	梁	木	七	七	二一、〇〇〇	円	一四七、〇〇〇
道	路	及	四二二、八〇〇	坪	二〇〇	円	八四、五六〇
建	物	新	八、〇〇〇	間	六	円	四八、〇〇〇
埋	立	地	二	ヶ所	一、五〇〇	円	六、〇〇〇
函	及	混	二	ヶ所	一、五〇〇	円	六、〇〇〇
燈	燈	臺	四	ヶ所	一、五〇〇	円	六、〇〇〇
浮	標	浮	五	ヶ所	九、〇〇〇	円	四五、〇〇〇
計	第四雜工事費	一、二七三、九〇〇	員	一、二七三、九〇〇	円	円	二、三三五、一一〇

種 目	年 度						計
	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正六年度	大正七年度	大正八年度	
突堤及防砂柵工費	—	八〇〇〇	二四〇〇〇	二〇〇〇〇	一七〇〇〇	七三〇〇	八三三、〇〇〇
護岸工費	—	七、〇〇〇	二四、〇〇〇	二六、〇〇〇	二二、〇〇〇	一〇、九〇〇	七三、九〇〇
浚渫埋立工費	一〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六五、一〇〇	—	二、三五、一〇〇
雜工事費	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、三〇〇	一八、九〇〇	一五、三五五	一六、三〇〇	七五、八〇〇
機械器具費	五、〇〇〇	九、四〇〇	一六、〇〇〇	三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、一、〇〇〇
測量調査費	四、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	五、〇〇〇	四〇、〇〇〇
事務所費	三、一〇〇	七、七〇〇	七、一〇〇	七、一〇〇	七〇、六〇〇	三、六〇〇	三、六、〇〇〇
豫備費	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、五〇、〇〇〇
計	二〇〇、一〇〇	一、六六、七〇〇	一、五三、四〇〇	一、四〇、四〇〇	一、五六、四〇〇	三、七三、四〇〇	六、五〇、〇〇〇

○圖略。

此外參考第三號トシテ、大阪府安治川外二川入津料徴收沿革、徳島市徴收入津料ニ就テ、高松港徴收港錢ニ就テノ三項ヲ添フ。事東京築港ニ關スル書類ニ見ユ。

大正五年、市長法學博士奥田義人市政緊縮ノ方針ヲ取り、一時之ヲ見合ハス。

(三) 田村技師參考案

大正七年十一月八日市長法學博士子爵田尻稻次郎築港調査委員會ヲ召集シ、彈力性アル大計畫確立ノ必要ヲ主張シ、根本調査ヲ爲スノ議ヲ決ス。十二月十二日東京市會亦東京築港ニ關スル建議ヲ可決ス。乃チ技師田村與吉ヲシテ參考案ヲ作製セシム。實ニ一億餘圓案也。

東京築港新計畫概要

第一、新計畫ノ要旨

本市多年ノ宿題タル東京築港案ハ、明治十八年以來ノ問題ニシテ、爾來幾回カ之レガ計畫案提出セラレアルモ、何レモ其當時ニ於ケル要求財政等ニ忠實ナランガ爲メニ、總テノ規模ヲ甚シク制限セシモノ多ク、然ラザルモノト雖モ、既ニ現時ト四圍ノ事情ヲ異ニセシ際ノ計畫ナルヲ以テ、今後東洋ノ港トシ且ツ本邦ニ於ケル中心港トシテ、世界改造後ノ産業竝ニ海運界ノ進展ニ寄與セシメンニハ、餘リニ多クノ距離ヲ存スルノ憾ミナシトセズ。之レ當時ニ在リテハ止ムヲ得ザルモノアリシト雖モ、大戦後一大革進ノ機運ニ際會セル今日ニ於テ、築港計畫ヲ確立センニハ、内外ニ於ケル物貨移動ノ前途竝ニ運輸經濟産業競争等ノ歸趣ヲ達觀シ、慎重ニ本市

ノ發展市民ノ幸福ヨリ打算シ、且ツ考究シテ遺憾ナキモノヲ劃策セザルベカラザルハ言ヲ俟タザル處ナリ。吾人ハ廣ク範ヲ内外ノ實例ニ徵シ、且ツ經濟技術及港ノ運用上最モ妥當トスル規模ノ下ニ、將來ニ於ケル擴張ノ餘地ヲ損セザルヲ旨トシ、計畫ノ内容竝ニ工期ヲ定メ、且ツ事業實地ニ伴フ財源ニ關シテハ特ニ留意シ、市本來ノ財政ニ累ヲ及ボスコトナク、電メテ自給自足ノ方針ニ基キ立案セリ。

顧フニ築港施設ノ眼目トシテ本港内ニ配置スベキ諸設備ハ、港其モノヲ支配スル本體ナルヲ以テ、船舶出入ノ便利、貨物ノ收受、發送ノ敏捷、水陸連絡ノ利便ヲ期スル上ニ於テ、是非ニ岸壁荷役方法ヲ本位トセザルベカラザルハ勿論ニシテ、東京築港設備ノ眼目トシテ夙ニ之レヲ閑過シ能ハザリシ處ナリト雖モ、本市ノ多年採り來リタル今日ノ水運ハ、隅田川ヲ中心トシテノ水運ニシテ、即舢舨荷役ノ方法ハ、該河ノ沿岸ヨリ延テ市内數十ノ枝川ニ及ビ、能ク今日市内百般ノ需用竝ニ生産ヲ配給シ、併テ東北地方一帶トノ經濟關係ヲ持續シツ、アルヲ以テ、本港ノ設備上之レヲ無視スル能ハザルノミナラズ、貨物ノ種類ニ依リテハ、岸壁荷役ヲ許サザル無包

裝ノ石炭肥料雜穀鑛物等、今日其輸出入額ノ大半ヲ占ムル貨物ヨリ見テモ、別ニ本船繫泊場ヲ設ケ舢舨荷役ノ便ヲ計ラザルベカラザルナリ。即チ定期若シクハ不定期内外航路大船ノ停船期間節減ノ利益ト、貨物其他ニ對スル水陸連絡ノ利便ヲ發揚スル爲メニハ、嶄新ナル岸壁荷役方法ヲ採用シ、別ニ本市固有ノ舢舨荷役ノタメニハ、大小船舶ノ繫泊船溜ヲ設ケ、此兩荷役方法ノ對立ニ依リテ、東京港ノ經營上最モ事宜ニ適シタルモノト言フヲ得ベシ。

一方荒川改修問題ハ、既ニ根本的解決ヲ遂ゲシト共ニ、鐵道院ニ於ケル越中島貨物大停車場新設ノ舉ト品川停車場ノ一大擴張トハ、江東方面ト品川方面トノ二大工業地域ノ發展ニ資スル處大ナルモノアルベシ。此二大實現ハ、本市ノ水運ニ多大ナル影響ヲ齎シタルモノニシテ、運輸經濟上ノ利益ヲ開發シ得ルニ止ラズ、築港施設上ノ一大福音ニシテ、附近埋立地ノ發展ニ依リ、之レニ伴フ工費ノ回收ヲ容易ナラシメ得ベキモノト云フベシ。即チ臨港鐵道ハ常ニ築港地帯ト停車場ヲ連絡環狀運轉ヲナシ、本邦築港ノ缺陷トシテ指摘サレツ、アル水陸連絡ニ對シテハ、徹底的施設ヲ試

ミタリ。

本案ヲ立スルニ當リ、以上ノ諸要點ニ著眼シテ、本港ノ規模ハ貨物ノ出入數量竝ニ入港船舶ノ大小及豫定隻數ヨリ打算シ、相當ノ區域ヲ劃シ、水深十二尺乃自三十六尺(干潮面以下)ニ浚渫シ、繫船岸壁有效延長四千貳百七拾間、棧橋一個所長百八十間、物揚場護岸延長參千七百參拾間ノ築設ト共ニ、本港繫泊船溜九拾六萬餘坪ノ浚渫水面積トハ、大小船舶百貳拾五隻ノ同時繫溜ニ適シ、一ケ年間能ク壹千六拾五萬噸ノ貨物ヲ荷役スルコトヲ得ルモノナリ。而シテ最大水深三十六尺ノ岸壁ハ優ニ參萬噸級ノ大船ヲ自由ニ繫留セシムルニ足ルベシ。

築港ノ利益ハ、海運貨物輸送費ノ輕減以外、直接間接多樣ニ涉リ、總テ一般市民ノ利益ニ歸スベキモノニシテ、築港工費ノ收支ニ關シテハ、埋築地ノ利用ト國費ノ補助其他ノ雜收入及ビ僅少ノ入港料賦課ヲ以テスルノミニシテ、事業公債償還ノ途ヲ講ズルヲ得ベク、市稅ノ補助ハ全ク之レヲ豫期セザルモノナリ。而シテ公債償還終了ト共ニ、入港料徵收ヲ廢スルモ、尙土地ノ賃貸料其他ニ依リテ爾後毎年壹千萬圓宛ノ利益ヲ得ベク、築港事

業ニ依リテ永久ニ市金庫ノ享クベキ利益亦尠シトセズ。幸ヒ速カニ審議ヲ經テ實施ヲ得バ、獨リ本市民ノ幸福ノミニ止マラザルベシ。

第二 計畫ノ要項

一、前 港

總水面積 參拾四萬壹千七百坪

内

浚渫面積 貳拾萬參千坪

外ニ、水深三十尺以上ヲ有スル面積 貳萬貳千五百坪

浚渫水深 零點位以下參拾尺

前港埋立地面積 貳拾六萬貳千五百坪

護岸延長 貳千貳百六拾貳間

突堤延長 壹千貳百間

突堤頭部中八間距離 壹百八拾間

港門ノ水深 零點位以下四拾尺

二、運河

運河延長 四千九百九拾間

同 水深 零點位以下參拾尺

同 幅員 底幅八拾間上幅百間左右二割法

防波堤延長 參千間(完全ナル構造)

防波堤ト内部埋立地トノ距離 貳百間

運河航行速度 一時間ニ付三浬

運河ヲ通過スルニ要スル時間 一時間三十分

一日間ニ出入スル船舶平均總噸數 貳拾四萬九千餘噸

三、本港

總水面積 貳百參拾貳萬坪

浚渫面積 貳百四萬壹千坪

內譯

船溜浚渫總水面積

九拾六萬壹千坪

水深三十尺船溜

同 二十五尺同

同 二十尺同

同 十二尺同

拾八萬八千參百坪

四拾壹萬七千參百坪

貳拾六萬四千五百坪

九萬九百坪

繫船岸壁附屬水面積

水深三十六尺

同 三十尺

同 二十五尺

五拾七萬壹千九百坪

拾貳萬壹千參百坪

貳拾參萬八千五百拾坪

貳拾壹萬貳千四百五拾坪

航路水面積

水深三十尺

同 二十五尺

同 二十尺

同 十二尺

參拾參萬五千貳百坪

拾壹萬六千坪

參千參百坪

九萬九千九百坪

拾壹萬六千九百坪

危險物取扱場船渠

總水面積

六萬六千貳百坪

水深廿五尺浚渫面積

五萬九千六百坪

修船渠附屬水面積

五萬貳千五百坪(水深二十五尺)

帝都時代ノ港灣

木材貯藏船渠水面積

貳萬四千四百坪(水深六尺)

物揚場前面水面積

參萬六千六百坪

水深九尺
同 六尺

壹萬四千四百坪
貳萬貳千五百六拾坪

本港埋立地總面積

壹百貳拾七萬六千六百參拾坪

內 譯

月島及越中島地先埋立地

八拾九萬貳百五拾坪

第一號地

參萬五千貳百五拾坪

第二號地

參萬七千坪

第三號地

參萬七千九百五拾坪

第四號地

拾六萬壹千貳百拾坪

第五號地

六拾壹萬八千八百四拾坪

品川及芝浦地先埋立地

參拾貳萬貳千四百八拾坪

第一號地

四萬九千七百拾坪

第二號地

貳萬九千四百六拾坪

第三號地

四萬七千參百七拾坪

第四號地

四萬五千貳拾坪

第五號地

拾五萬九千貳拾坪

危險物取扱場埋立地

六萬參千九百坪

繫船岸壁

總延長

五千貳拾間

有效延長

四千貳百七拾間

內 譯

水深三十六尺岸壁

延 長
有效延長

壹千八拾間

水深三十尺岸壁

延 長
有效延長

壹千八百貳拾間

水深二十五尺岸壁

延 長
有效延長

貳千百貳拾間
壹千七百貳拾間

物揚場護岸總延長

參千七百參拾間

內 譯

水深十二尺物揚場延長

九百七拾間

同 九尺同

九百五拾間

同 六尺同

壹千八百拾間

各種護岸延長

壹萬貳千四拾間

防波堤延長

五千五百間(完全ナル構造)

帝都時代ノ港灣

四、本港ノ荷役能力

一年間最大荷役貨物噸量

壹千六拾五萬噸

一時ニ碇繫シ得ベキ船舶總噸數

四拾貳萬貳千七百五拾噸

同 上 隻 數

大小百貳拾五隻

入港シ得ベキ最大船舶噸數

參萬噸級

内 譯

船溜荷役能力

碇繫水面積

九拾六萬壹千坪

一年間最大荷役噸量

六百七拾八萬貳千五百噸

一時ニ碇繫シ得ベキ船舶總噸數

拾貳萬貳千貳百五拾噸

同 上 隻 數

大小八拾壹隻

碇繫船舶噸數

百噸乃至壹萬噸級

船舶一隻當リ平均水面積

壹萬貳千貳百五拾坪

水面積一坪當リ取扱貨物噸量

七噸一

一船舶平均在港日數

五日間

繫船岸壁荷役能力

有效延長

四千貳百七拾間

一年間最大荷役噸量

參百貳拾萬貳千五百噸

一年間長一間當平均荷役噸量

七百五拾噸

一時ニ繫溜シ得ベキ船舶總噸數

貳拾八萬八千五百噸

同 上 隻 數

四拾隻

繫溜船舶噸數

壹千噸乃至參萬噸

一船舶平均繫溜日數

參日間

物揚場護岸荷役能力

有效延長

四千九拾七間

一年間荷役噸量

四拾七萬八千噸

一年間長一間當荷役噸量

百拾七噸

備考、物揚場護岸ノ荷役能力ハ、諸港ノ實例ニ依ルキハ、一年間長壹間當リ三百五十噸ヲ至當トスルモ、一旦船ヨリ舩舟荷役及岸壁荷役ヲ了シタル貨物ヲ再荷役スルモノヲ含ムヲ以テ之レガ三分ノ一ヲ採リタルモノトス。

棧橋荷役能力

有效延長

參百六拾間

一年間荷役噸量

拾八萬噸

一年間長一間當リ荷役噸量

五百噸

一時ニ繫溜シ得ベキ船舶噸數

壹萬貳千噸

同 上 隻 數

繫溜船舶噸數

四隻

一船舶平均繫溜日數

參千噸級
參日間

五、上屋及倉庫

上屋總面積

五萬四千八百坪

棟 數

六拾九棟

一棟ノ平均面積

八百貳拾坪

一年間收容貨物噸量

參百六拾七萬八千噸

一百坪ノ收容貨物噸量

參噸

但シ通路其他ノ空地ヲ二割五分トシ、滯貨日數ヲ平均十二日間ト見込ミ積算ス。

倉庫總面積

貳萬七千四百坪

諸港ノ實例ニ倣ヒ上屋面積ノ半數ヲ設備スルモノトス。

六、深川及品川地先埋立地

本港及前港埋立地ヲ埋築シタル過剩土量ヲ以テ、左記ノ通り深川及品川地先ヲ適度ノ市區計畫ノ許ニ埋築シ、工費償還ノ財源ニ充當スルモノトス。

埋立地總面積

壹百七拾參萬七千五百坪

此護岸延長

壹萬八千間

內 譯

深川區地先埋立地面積

四拾五萬貳千百坪

此護岸延長

五千七百間

品川地先埋立地面積

壹百貳拾八萬五千四百坪

此護岸延長

壹萬貳千參百間

七、浚渫埋立土量

浚渫總土量

壹千壹萬六千立坪

內 譯

前港浚渫土量

六拾四萬九千立坪

運河浚渫土量

百五拾萬立坪

本港浚渫土量

七百八拾六萬七千立坪

埋立總土量

壹千壹萬六千立坪

內 譯

本港埋立地所要土量

參百七拾萬立坪

前港同

五拾五萬壹千貳百立坪

深川地先同

壹百萬七千八百立坪

帝都時代ノ港灣

品川地先同 上
防波堤填充土量

四百貳拾七萬七千立坪
四拾八萬立坪

八、埋立土地利用區別

本計畫ニ依ル埋立地總面積ハ參百貳拾七萬六千六百參拾坪ニシテ、其用途ヲ次ノ如ク豫定ス。

區別	本港埋立地	深川地先埋立地	品川地先埋立地	前港埋立地	計
港附屬地	三九六、六三〇 ^坪	四五、二〇〇 ^坪	一二八、五〇〇 ^坪	一二九、六七〇	七〇〇、〇〇〇
道路敷地	三八〇、〇〇〇	四五、二〇〇	一二八、五〇〇	二六、三〇〇	五八〇、〇〇〇
貸付豫定地	五〇〇、〇〇〇	一一三、〇〇〇	三二一、〇〇〇	一〇六、五三〇	九三四、〇〇〇
將來賣却豫定地	—	二四八、七〇〇	七〇七、四〇〇	一〇六、五三〇	一、〇六二、六三〇
合計	一、二七六、六三〇	四五二、一〇〇	一、二八五、四〇〇	二六二、五〇〇	三、二七六、六三〇

第三 工費豫算

一金壹億圓

內譯
金參百七拾六萬參千圓
金壹千七萬圓

總 工 費

防 突 堤 工 費
波 堤 工 費

金壹千九百七拾壹萬六千參百圓
 金壹百八拾萬圓
 金參千四百四拾八萬八千圓
 金壹千四百四拾六萬參千圓
 金壹百四拾萬圓
 金八百貳拾萬圓
 金六拾萬圓
 金四百五拾萬圓
 金四百萬圓

繫船岸壁並ニ護岸工費
 棧橋架設費
 浚渫埋立工費
 陸上設備費
 雜工費
 機械器具費
 測量調查費
 事務費
 豫備費

工費豫算內譯書

第一、突堤工費

種類	員數	單價	金額
幹部	一、二〇〇間	三、〇〇〇・〇〇〇 ^円	三、六〇〇、〇〇〇 ^円
頭部	二個	七〇、〇〇〇・〇〇〇	一四〇、〇〇〇・〇〇〇
上部	一	二三、〇〇〇・〇〇〇	二三、〇〇〇・〇〇〇
計			三、七六三、〇〇〇・〇〇〇

第二、防波堤工費

第三、繫船岸壁竝各種護岸工費

種	類	員	數	單	價	金	額
計							一〇、〇七〇、〇〇〇・〇〇〇
	頭部		七個		一〇、〇〇〇・〇〇〇		七〇、〇〇〇・〇〇〇
	同部				一、〇〇〇・〇〇〇		五、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	幹部		三、〇〇〇間		一、五〇〇・〇〇〇		四五〇、〇〇〇・〇〇〇
	水深三十六尺岸壁		一、〇八〇間		三、四〇〇・〇〇〇		三、六七二、〇〇〇・〇〇〇
	同三十尺岸壁		一、八二〇		二、七〇〇・〇〇〇		四、九一四、〇〇〇・〇〇〇
	同二十五尺岸壁		二、一二〇		一、七〇〇・〇〇〇		三、六〇四、〇〇〇・〇〇〇
	同十二尺物揚場護岸		九七〇		一、〇〇〇・〇〇〇		九七〇、〇〇〇・〇〇〇
	同九尺物揚場護岸		九五〇		七〇〇・〇〇〇		六六五、〇〇〇・〇〇〇
	同六尺物揚場護岸		一、八一〇		五〇〇・〇〇〇		九〇五、〇〇〇・〇〇〇
	各種護岸		三二、四八四		一五三・〇〇〇		四、九八六、三〇〇・〇〇〇
計							一九、七一六、三〇〇・〇〇〇

第四、棧橋架設費

種	類	員	數	單	價	金	額
計							一、八〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	棧橋架設費		三、六〇〇面坪		五〇〇・〇〇〇		一、八〇〇、〇〇〇・〇〇〇

第五、浚渫埋立工費

種	類	員	數	單	價	金	額
計							三一、四八八、〇〇〇・〇〇〇
	港内 唧筒式使用 鋤簾式使用		一、七七六、〇〇〇立坪 七、七六〇、〇〇〇		二、〇〇〇 三、六〇〇		三、五五二、〇〇〇・〇〇〇 二七、九三六、〇〇〇・〇〇〇

第六、陸上設備費

種類	員數	單價	金額
上屋	五四、八〇〇面坪	一〇〇・〇〇〇	五、四八〇、〇〇〇
倉庫	二七、四〇〇	一二〇・〇〇〇	三、二八八、〇〇〇
道			二、〇〇〇、〇〇〇
橋梁	三一ヶ所	五〇、〇〇〇・〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇
下水			五六〇、〇〇〇
鐵道	一〇哩	七〇、〇〇〇・〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
造船所	民營		八八四、七〇〇
起重機其他			
計			一四、四六二、七〇〇

第七、雜工事費

種類	員數	單價	金額
燈臺	二個所	二〇、〇〇〇・〇〇〇	四〇、〇〇〇
燈標	二〇	二、五〇〇・〇〇〇	五〇、〇〇〇
繫船浮標	五〇	六、〇〇〇・〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
機械工場設備			七〇、〇〇〇
計			一、四〇〇、〇〇〇

種類	金額
混凝土工場設備	七〇、〇〇〇
各種假建物費	一二〇、〇〇〇
各種補償費	二三〇、〇〇〇
埋立地假土留工	三二〇、〇〇〇
雜種假工事費	二〇〇、〇〇〇
計	一、四〇〇、〇〇〇

第八、機械器具費

種類	金額
浚渫碎岩埋立用諸船艇諸機械費	五、〇〇〇、〇〇〇
混凝土製造及沈下用諸船艇諸機械費	一、〇〇〇、〇〇〇
雜諸船艇及諸機械諸器具費	二、〇〇〇、〇〇〇
計	八、二〇〇、〇〇〇

第九、測量調查費

種	類	金額
測量調查試驗費		六〇〇,〇〇〇・〇〇〇
計		六〇〇,〇〇〇・〇〇〇
種	類	金額
第十、事務費		四、五〇〇,〇〇〇・〇〇〇
計		四、五〇〇,〇〇〇・〇〇〇
種	類	金額
第十一、豫備費		四、〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇
計		四、〇〇〇,〇〇〇・〇〇〇

第四 工費支出年度割額調

種目	年次										計
	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度	第六年度	第七年度	第八年度	第九年度	第十年度	
突堤工費	—	三〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	六三三,〇〇〇	—	—	—	三七三,〇〇〇
防波堤工費	八〇〇,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	—	—	—	一,〇七〇,〇〇〇
繫船岸壁各種護岸工費	二〇〇,〇〇〇	一六〇,〇〇〇	二五五,〇〇〇	二八五,〇〇〇	二四六,〇〇〇	二六五,〇〇〇	二二五,〇〇〇	二二五,〇〇〇	二二五,〇〇〇	四三六,三〇〇	一,九七六,〇〇〇
浚渫埋立工費	一,〇〇〇,〇〇〇	二,三〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	一,五八八,〇〇〇	三,四八八,〇〇〇
陸上設備工費	—	—	—	—	—	四〇〇,〇〇〇	六六九,〇〇〇	二二二,〇〇〇	—	八九四,九〇〇	一,四四二,七〇〇
棧橋工費	—	—	—	—	—	—	—	—	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一,二〇〇,〇〇〇
雜工事費	三三三,〇〇〇	一五三,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五二,〇〇〇	五二,〇〇〇	五二,〇〇〇	七〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三七八,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇
機器具費	二一七,〇〇〇	五〇八,七〇〇	三六〇,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八八,〇〇〇	八二〇,〇〇〇
調査費	六,〇〇〇	八〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
事務費	二二〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四一〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四七〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	四,五〇〇,〇〇〇
豫備費	二〇〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
合計	五,〇〇〇,〇〇〇	二二,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一三,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇

各種工事費支出年度割内譯表

第一、突堤工費

種目	年次	種目		年次
		同部	幹部	
計	第一年度		四	第一年度
	第二年度		三〇〇,〇〇〇	第二年度
	第三年度	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	第三年度
	第四年度	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	第四年度
	第五年度	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	第五年度
	第六年度	七〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	第六年度
	第七年度	七〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇 一四〇,〇〇〇 二四〇,〇〇〇	第七年度
	第八年度			第八年度
	第九年度			第九年度
	第十年度			第十年度
計		三,七三三,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇 一四〇,〇〇〇 二四〇,〇〇〇	計

第一

第三、繫船岸壁並各種護岸工費

種目	年次	種目						年次
		岸三十六尺	岸三十五尺	岸二十五尺	岸二十尺	物九揚尺	物六揚尺	
計	第一年度							第一年度
	第二年度	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	第二年度
	第三年度	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	第三年度
	第四年度	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	第四年度
	第五年度	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	第五年度
	第六年度	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	第六年度
	第七年度	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	第七年度
	第八年度	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	第八年度
	第九年度	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	第九年度
	第十年度	九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	第十年度
計		三,六〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	三,六〇〇,〇〇〇	計

第四、浚渫埋立工費

種目	年次	種目		年次
		使脚筒用式	使鋤簾用式	
計	第一年度			第一年度
	第二年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第二年度
	第三年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第三年度
	第四年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第四年度
	第五年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第五年度
	第六年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第六年度
	第七年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第七年度
	第八年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第八年度
	第九年度	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	第九年度
	第十年度			第十年度
計		三,三〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	計

